

松 山 大 学 論 集
第 21 卷 第 6 号 抜 刷
2 0 1 0 年 3 月 発 行

14世紀リヨンの毛織物業者の会計帳簿に関する追窮
—— 1964 年発見分の史料観察 ——

三 光 寺 由 実 子

14世紀リヨンの毛織物業者の会計帳簿に関する追窮

—— 1964 年発見分の史料観察 ——

三 光 寺 由 実 子

I. 開 題

「史料が保存されるか失われるかは、偶然の次第である。ここから、歴史構成における偶然の果たす重要な役割という問題が生まれてくる¹⁾」。

Langlois et Seignobos [1905] は、フランスにおける歴史学研究に関する概論書にして、歴史学界に波紋を起こした古典的名著である。同著は、アナール学派の母胎たる Henri Berr らの批判的見解を招いたにせよ²⁾、上記の同著「結び」の一節に対しては、既存の歴史的研究を鑑みると、頷ける場合が多いのではないか。

そして本稿もまた、偶然にも発見された史料に肖り、歴史、とりわけ会計史の一側面を紡ぐものである。すなわち本稿は、拙稿三光寺 [2008]・[2009a] および [2009b] で扱ったフランス³⁾ 内陸部の一都市、リヨンで毛織物業を営んだ商人の会計帳簿の断片 (1320–1324)⁴⁾ と、同一の会計帳簿内のものと思われる、それらより 60 年近く後である 1964 年に、たまさかに発見された 7 枚の断片的史料を研究対象とする。それゆえ本稿は、先に挙げた小稿に対し新たな史

1) Langlois et Seignobos [1905] p. 275 (八本木訳 [1989] 255 頁)。

2) 尾河訳 [2003] 11 頁。

尾河訳 [2003] は季刊雑誌『環—歴史・環境・文明』誌上において「ブローデルの『精神的息子』たち」という総題で 2000 年春号 (4 月刊) から 2003 年冬号 (1 月刊) まで連載されたオリジナル・インタビューを単行本化したものである。

料を持って知見を加えるよう試みる点で、それらの続編といえる。

では、そもそもなぜこの会計帳簿を読み解こうとするのか、そして新たな史料を基に、当該帳簿の研究を続行する意味があるのか。これについては、中世ヨーロッパの会計史研究の現状より説明しなければならない。また、本稿での議論を進めるに当たり、これまでの研究、すなわち三光寺 [2008]・[2009a] および [2009b] に関して概説し、現段階での考察結果と研究課題を洗い出さなければならない。そして本稿の研究対象については、何よりもまず、記帳内容を把握する必要がある。

そこで本稿では、会計帳簿の史料観察に徹することとする。すなわち本稿は、当該帳簿について、本稿以降で行う分析のための礎石を築くことを目的としている。

章構成は以下のとおりである。次章において研究背景を述べ、次いで拙稿より明らかになったリヨンの当該会計帳簿の特徴と課題を略説する。その後、本

3) 本稿において何を中世の「フランス」とするかに関し、ここで述べておきたい。

10世紀末にカペー朝が始まった頃は、フランス国王の勢力は、中央北部のイル＝ドゥ＝フランスとオルレアン地方からなる狭い直轄領に過ぎなかった。しかし封建社会の中で、領邦君主領を次々と王領地に併合し、14世紀初めには今日でいうフランスの約4分の3を支配下に置くことに成功した(柴田・樺山・福井 [1995] 183-219頁; 柴田 [2006] 27-40頁)。

以上のような歴史的背景を踏まえ、さらには研究対象である会計帳簿への記載時期を考慮に入れ、本稿で「フランス」という言葉を用いる際には、14世紀末時点での王領地を指すこととする。

4) De Roover [1937] p. 185; 岸 [1972] 154頁; [1975] 14頁; 小島 [1987] 161頁。

なお、翻刻版 Meyer et Guigue [1906] では、1320年から1323年までのリヨンの毛織物業者の会計帳簿が現存するという一方で、当該帳簿には「M° CCC° XXIII」すなわち「1324年」という表記がある。また、Durdilly [1965] では1320年から1324年までの当該帳簿の存在を謳うが、他方で「m ccc xxv」すなわち「1325年」という表記が確認できる(Durdilly [1965] p. 392 [74]; Meyer et Guigue [1906] p. 438 [82], 439 [83])。

このような表記には、中世における年号変更の基準日に関連している可能性がある。当該帳簿が用いられていた当時、リヨンでは今日と同じように、西暦表示であるものの、年号変更の基準日は、原則的に復活祭としていた(Cappelli [1998] p. 14)。

ただ暦は、同一都市でも年代により異なるという例もあり、年号の表記については慎重な判断を要すべきである(泉谷 [1997] 28頁)。

本稿において西暦の表記は本稿の最後に示した一次史料に関する出典での表記を除き、全てリヨンの毛織物業者の帳簿内およびその翻刻版内での記述に従っている。

稿の研究対象たる 1964 年に発見された、史料の体裁を詳述するとともに、翻訳版 Durdilly [1965] の見解を提示する。最後に付録として、会計帳簿の断片の写真と翻訳を掲載する。

Ⅱ. 中世フランス会計史研究の意義

本稿が、会計帳簿の断片を研究対象とし、歴史的研究なかんずく会計史の一論稿であるのは先述のとおりであるが、本稿のような簿記・会計の生成過程を考察した既存研究は、その多くがイタリア商人による複式簿記に関するものを取り上げている。これは中世ヨーロッパの簿記・会計史研究は、ヨーロッパにおける国際的な金融業務を支配的に行い、財産の状態や取引を計算・記録した、イタリア商人の行った簿記が、複式簿記の成立に最も影響を与えたと位置づけているためである⁵⁾。すなわち複式簿記が、「おおむね 13 世紀初頭から 14 世紀末までの間に、イタリアで、商業と銀行業の簿記実務のうちに生成発展し、15 世紀に体系的勘定の組織を確立した⁶⁾」という点に関して、多くの既存研究間で一応の合意に達している。

しかし 13-14 世紀に金融業務を行っていたのも、14 世紀にヨーロッパで活躍したのも、イタリア商人ばかりではない。ヨーロッパにおいて 13 世紀の中頃までは、十字軍の中でもテンプル騎士団が、国際的かつ卓越した金融業務を遂行し、また当該騎士団および 14 世紀に活躍したフランス商人は、イタリア商人と同じように、シャンパーニュ祭市や近東 (Levant⁷⁾) 貿易を通じた商取引を試みた⁸⁾。

本稿の舞台となるリヨンについては、14 世紀にいたるや経済の繁栄が見られるようになった。フランス内陸部にしてローヌ川 (la Rhône) とソーヌ川 (la

5) 例えば、De Roover [1937]；泉谷 [1980]；片岡 [2000]；小島 [1987]。

6) 小島 [1987] 19 頁；中野 [1992] 23 頁。

7) レバント (Levant) は、地中海東岸一帯の古称である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1416 頁)。

8) 小島 [1987] 159 頁；宮本 [1942] 79 頁；山瀬 [1961] 108 頁。

Saône) とが合流する街リヨンは、その地の利を活かし、貨物輸送における貨物集散所、ならびに商品の再分配の中枢場所として重要な役割を果たした⁹⁾。そして1361年に王領となるシャンパーニュ伯領でのシャンパーニュ祭市に代わる、商業活動の一拠点として、格好の場所となった¹⁰⁾。

そのためイタリアに限らず、フランスのような同時期ヨーロッパ内の、商人らによる記帳技術を可視化することが重要なというまでもない。その一方で、フランスにおける簿記・会計の生成過程を考察した既存研究については、16世紀以降の簿記書に関する文献史的考察が中心である。

そこで、印刷本としての簿記書が登場する以前の、フランスでの簿記・会計に関する知識がいかなるものであったのかを素描すべく13-14世紀フランス会計帳簿の一次史料、ないしその翻刻版に依拠した実証的研究を、本稿以前より行ってきた¹¹⁾。本稿で取り上げるリヨンの毛織物業者の会計帳簿は、その一環を担い、ことにフランスの中でも、内陸部の一都市で商業を営んだ者の記帳実務を窺い知るための史料と位置づけている。

Ⅲ. リヨンの毛織物業者の会計帳簿（1320-1324）に関するこれまでの研究概要

これまで拙稿三光寺 [2008]・[2009a] および [2009b] において、本稿の研究対象であるリヨンで毛織物業を営んだ商人の会計帳簿の断片（1320-1324）の実証的分析を試みてきた。ただし、本稿冒頭で示したとおり、小稿で扱った断片的史料と、本稿の史料とは同じ会計帳簿の一部であるものの、発見時期と翻刻版の版行時期が異なる。前者は正確な発見年は不明で、Meyer et Guigue [1906] にてその翻印が確認できる。一方後者については、翻刻版 Durdilly [1965]

9) Bonnet [1973] p. 325.

10) Contamine, Bompaigne, Lebecq, et Sarrazin [2003] pp. 391-392; Kulischer [1928] p. 230 (伊藤・諸田訳 [1974] 368-369頁); 小島 [1987] 159-160頁; 秀村編 [1958] 106頁; 宮本 [1942] 83-85頁。

11) 例えば、三光寺 [2006a]; [2006b]; [2007a]; [2007b]; [2008]; [2009a]; [2009b]。

が1964年に発見した史料であると明記している¹²⁾。ここでは前者についての考察結果を、これまでの研究概要として略説したい。

当該会計帳簿は、現在フランス南東部ローヌ県の古文書館(Archives Départementales du Rhône (Section Ancienne))が書架番号1 j 297を付して保管する、フランス商人による残存する最古の記録¹³⁾とされている。なお、この史料において、記録者である毛織物業者の名前は不明である。発見されたのは、2枚の大きな紙(縦40センチ、横31センチ、裏表に記録あり)と、実物は2008年5月時点で当該古文書館では確認できなかったが翻刻版Meyer et Guigue [1906]より存在が窺える1枚の紙片である。記録は、リヨンの方言により書き留められている。Meyer et Guigue [1906]は翻印する際に記録に番号を付しているが、上記1枚の紙片も含めると、83番までである¹⁴⁾。そして記述内容より、帳簿全体としては少なくとも227枚(裏表で2ページなので、ページ数であればその2倍になる)の紙で構成されていたと考えられる¹⁵⁾。

Meyer et Guigue [1906]は、この帳簿に関し、各々の記録が債権の発生時にその日付と共に記載されているものの、歴史的に並べられておらず、債務者の名前がアルファベット順にまとめられているため日記帳(livre-journal)ではないという¹⁶⁾。確かに、帳簿の断片全てを通じて見ると、日付が前後し、取引を歴史的に記録してはいない当該帳簿は、債権・債務の記録の断片であるといえる。なお、帳簿内で最も見られる名前は、Bernarz Barauzである¹⁷⁾。

まず、紙片を見て目に入るのは、記録の上にしばしば書き込まれた斜線や×印、そしてページ毎に真中で縦に二重線を引くことで左右に設けられた欄である。考察の結果、斜線と×印の識別は、特にはないように思われ、斜線・×印

12) Durdilly [1965] p. 375.

13) De Roover [1937] p. 185; 岸 [1972] 154 頁; [1975] 14 頁; 小島 [1987] 161 頁.

14) Meyer et Guigue [1906] pp. 428-444.

15) Meyer et Guigue [1906] p. 430, 436 [60].

16) Meyer et Guigue [1906] p. 429.

17) 三光寺 [2009a] 87-88 頁; [2009b] 62-63 頁.

によって、債権回収の完了ないし記帳重複の回避を、表記したことが窺える。各々のページ・欄では、顧客毎の区分、債権の発生・回収での区分、毛織物を誰のために購入したかによる区分があり、その区分の中で概ね時系列に記されていることが記録内容から分かる。また、ほぼ全ての欄末で、その欄の債権の合計残高が提示されている¹⁸⁾。

次に帳簿内の記述より具体的に解すことのできる特記すべき事項をいくつか取り上げたい。まず現存する帳簿以外に、現存する帳簿の参照記録として、別の帳簿を表す「*quert*」, 「*paper vermeil*」という帳簿が存在し、リヨンの商人が複数の帳簿を用いたものと捉えられる。Meyer et Guigue [1906] は、*quert* がおそらく日記帳であったというが¹⁹⁾、可能性は否定できないものの、その判断は困難である。確かに、人名を分類化した帳簿を作成する前段階で、取引順による歴史的な記録を要したとしても何ら不思議はない。しかし、Meyer et Guigue [1906] が解読した83の記録の中で、一箇所ではしか *quert* が見当たらない点に疑問の余地がある。なぜなら仮に *quert* が日記帳であり、ここから現存する帳簿へと転記がされたとすれば、*quert* からの転記の旨は、当該帳簿内の全ての記録において確認できるはずだからである。他方、*paper vermeil* も現存する帳簿内で頻出しない。この *paper vermeil* については当該帳簿の欄末に位置して書かれていることから、債権の未回収分の合計額を記した帳簿ということができる²⁰⁾。

また、現代フランス語の「*a promis* (約束した)」という、第三者の貸付を保証する際に適用される動詞にあたる「*repondu*」と「*repondit*」が見られ、ある債務者から別の者へ債務を継承した旨やリヨンの毛織物業者が債権の発生時に回収を担保する証書「*letra*」を受け取った旨も窺える²¹⁾。

ただし史料に制約があるがゆえ、紡ぎ出せる事項には自ずとして限りはあ

18) 三光寺 [2009a] 98頁; [2009b] 66頁。

19) Meyer et Guigue [1906] p. 429.

20) 三光寺 [2009a] 103-106頁; [2009b] 67-70頁。

21) 三光寺 [2009a] 103-104頁, 109-110頁; [2009b] 67-68, 70-71頁。

る。例えば、新たな帳簿の存在が知り得たところで帳簿組織はいかなるものかということが疑問として生ずる。債権の回収を担保する証書「*letra*」に関しても、その果たした役割を十分には理解できない。しかし、当該会計帳簿の史料がごくわずかなものであってもその特徴、特に、記録内容の識別と複数の帳簿の使用から、リヨンの毛織物業者が記帳実務の中で、顧客や業務の管理を試みていたことは明らかである²²⁾。

IV. 1964 年発見分の会計帳簿に関する体裁と Durdilly [1965] の見解

次に、前章で扱った史料からおよそ 60 年の時を経た後に発見に至った断片的史料に話を移す。繰り返しになるが、本稿、そして本稿以降の研究対象となるのがこの史料である。当該史料は、1964 年リヨン南方、ヴィエンヌの図書館司書 (curator · cousevateur) Lécutiez が、偶然にして発見したものである²³⁾。現在はヴィエンヌの図書館 (Bibliothèque Municipale de Vienne) が書架番号 M-226 を付して保管している。史料は、裏表に記載のある計 7 枚で、現物は 2009 年 3 月 26 日に現地にて全て確認できた。

縦はいずれも約 40 センチメートル、横幅は色々と保存状態の良い紙片は 30 センチメートル以上あるのに対し、甚だしく破損しているものは 10 センチメートル程度である²⁴⁾。各ページの真中で縦に二重線を引くことで、左右に欄を設け、記録するようになっている。記録は、通常左側の上から始めて下まで埋まれば右側上へ進むという順序で行われる。各ページの縦・横幅を図表にしたものは図表 1 のとおりである。

なお、図表内の表記方法は Durdilly [1965] に倣い、ページの左側を左欄、右側を右欄とし、さらに各記録に番号付けを行っている。下記のとおり、その数は 85 までである²⁵⁾。

22) 三光寺 [2009a] 112 頁；[2009b] 72 頁。

23) Durdilly [1965] p. 375.

24) Durdilly [1965] p. 376.

25) Durdilly [1965] pp. 380-396.

図表1 1964年発見分の史料のページ別記録内容および寸法

	表／裏	左 欄	右 欄	縦×横 ²⁶⁾
1 枚目	表	[1] ～ [9]	[10] ～ [21]	41×25.7
	裏	記載事項なし		
2 枚目	表	[22] ～ [27]	[28] ～ [33]	41×30
	裏	[34] ～ [40]	[41] ～ [43]	
3 枚目	表	[44] ～ [47]	[48] ～ [51]	41×29
	裏	[52] ～ [56]	[57] ～ [59]	
4 枚目	表	断片の記録 A	記載事項なし	40×8.5
	裏	記載事項なし		
5 枚目	表	[60] ～ [62]	[63] ～ [69]	41×31
	裏	[70] ～ [71]	[72] ～ [74]	
6 枚目	表	断片の記録 B	[75] ～ [78]	41×22
	裏	[79]	断片の記録 C	
7 枚目	表	[80] ～ [82]	著しく破損	41×13.5
	裏	著しく破損	[83] ～ [85]	

(Durdilly [1965] を参照し²⁷⁾ 筆者が作成)

当該帳簿の体裁に続き、翻刻版 Durdilly [1965] が導入部で述べた史料に関する特記事項を概説したい。Durdilly [1965] は、記録がリヨンの方言により書かれており、そして当該帳簿も前章の史料と同じように日記帳でないことを確認している。なぜならば、記録者は債務者の名前によって記録を分類しており、時系列な記録ではないためである²⁸⁾。そして Durdilly [1965] は当該断片が、前章の帳簿断片と同じ会計帳簿の一部であると指摘する。その理由として彼は、両史料から Estevenez de Meunay, Bernert de les Molles, Bozonez, Peros de Montluel といった同一人物名が確認でき、さらには、当時のリヨンにおける方言特有の語形である所有形容詞 *mont* (一人称) と *sont* (三人称) が双方の史

26) 史料に関する縦・横の長さの測定は、2009年3月26日にヴィエンヌの図書館にて筆者が行った。なお、上下や左右で長さが異なるため、最も長い部分を寸法として提示している。

27) Durdilly [1965] p. 380.

28) Durdilly [1965] pp. 376-377.

料で存在することを挙げている²⁹⁾。

文字どおり発見といえる事項としては、前章で取り上げた史料の中に、記録者の名前は一切登場しなかったのに対し、1964 年発見分の史料冒頭では自身の名前を Johanym Berguen と記していることがある。すなわち、Johanym Berguen がこの会計帳簿の記録者といえる。また、記録者 Johanym Berguen は、Bernarz Barauz という人物と何らかの提携を結んでいた旨が、同じく史料冒頭部より読み取れる。彼らの遂行した業務について、Durdilly [1965] は毛織物業のみならず、銀行業・仲買・担保を付しての貸付業等を行っている述べている³⁰⁾。

そして、Durdilly [1965] の導入部でなかんずく着目すべきなのは、図表 2 のとおり、各ページにおいて左右の欄を設け、左欄上から記すのが普通であるが、図表 2 内の記録に関しては、左欄への記載をした後、その横の右欄へと、記帳を行っているということである³¹⁾。

図表 2 左欄から右欄へと記帳を進めた記録の所在

	表／裏	左欄	右欄		表／裏	左欄	右欄
2 枚目	表	[22]	[28]	3 枚目	表	[44]	[48]
		[23]	[29]			[45]	[50]
		[24]	[30]			[46]	[51]
		[25]	[31]			[47]	[51]
		[26]	[32]		裏	[52]	[57]
		[27]	[33]			[53]	[58]
	裏	[36]	[41]			[56]	[59]
		[38]	[42]				
		[39]	[43]				

(Durdilly [1965] を参照し³²⁾ 筆者が作成)

29) Durdilly [1965] pp. 376-377.

30) Durdilly [1965] pp. 376-377, 380.

31) Durdilly [1965] p. 379.

32) Durdilly [1965] p. 380.

V. 結 語

本稿は、1964年に発見されたりヨンの毛織物業を営む商人が記した会計帳簿の断片について、その分析を行う前段階としてこれまでの研究結果を概説し、本史料の体裁と共に翻刻版 Durdilly [1965] による当該史料の解説を提示した。そして、本稿では以降の分析に先立つ史料観察に徹するために、本章の後となるが、付録として本稿の研究対象たる 1964 年に発見された、史料の翻訳を掲載した。

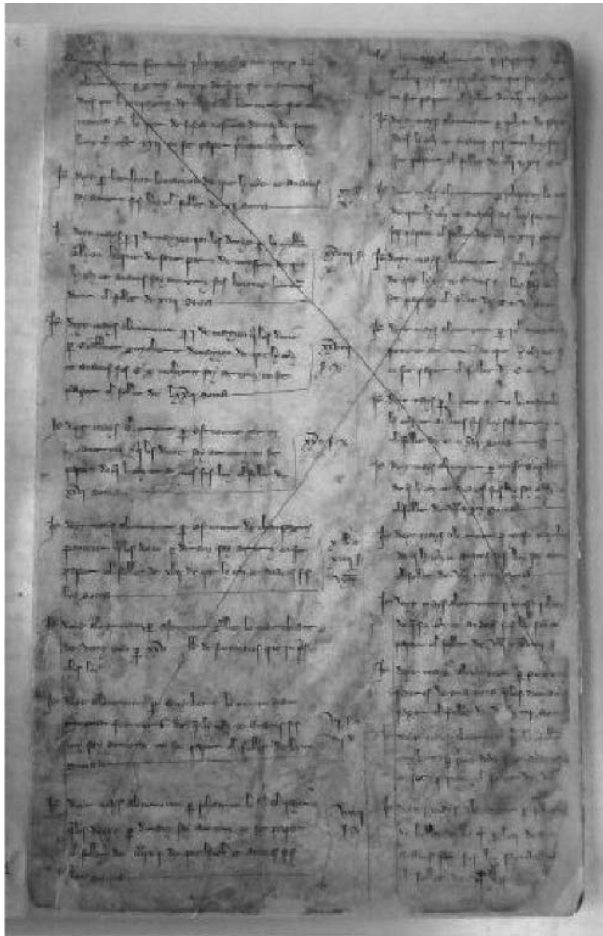
具体的な史料分析は、史料内の記載事項を把握した後になるものの、Durdilly [1965] より今後の考察において着目すべき点を見出すことができた。まず、Meyer et Guigue [1906] の底本たる同会計帳簿の別の断片では不明であった記録者の名前が Johanym Berguen であると判明し、さらには債務者 Bernerz Barauz と、記録者 Johanym Berguen とが提携関係にあることが分かった。これは、今後の分析を通じ、彼らの商業活動を探る上での一つの大きな鍵となるであろう。また、簿記・会計の観点で興味深いのは、いくつかの記録については、当該史料で見られる通常の記帳順序、すなわち左欄上から下へと記載し、欄内の記録が埋まった後、右欄上より記録を行うという順序ではなく、左欄から隣の右欄へとしたためた点である。この手続きは、意図的に行われたのではないだろうか。そして、ここに彼らの有した簿記・会計の知識の一端が潜んでいるのではないか。これに関しての考察は、本稿以降の当該史料において、考証の縁となり得るものと考えている。

付録1：1964 年発見分のリヨンの毛織物業者の会計帳簿の現物

(2009 年 3 月 26 日, Bibliothèque Municipale de Vienne にて筆者が撮影)

【写真① 1 枚目・表面】

(脆い紙片であるため、台紙上に貼付されている。写真②～⑭も同じ。)

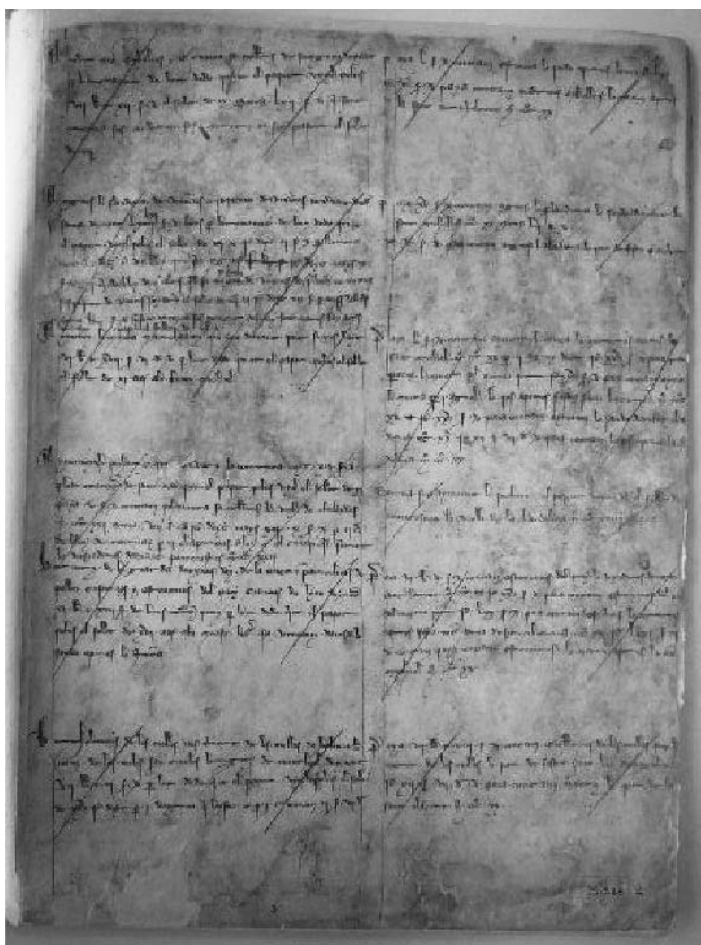


なお、付録2では左欄を [1]～[9]，右欄を [10]～[21] とし
て掲載している。

【写真② 1枚目・裏面】

なお、記載事項はない。

【写真③ 2 枚目・表面】

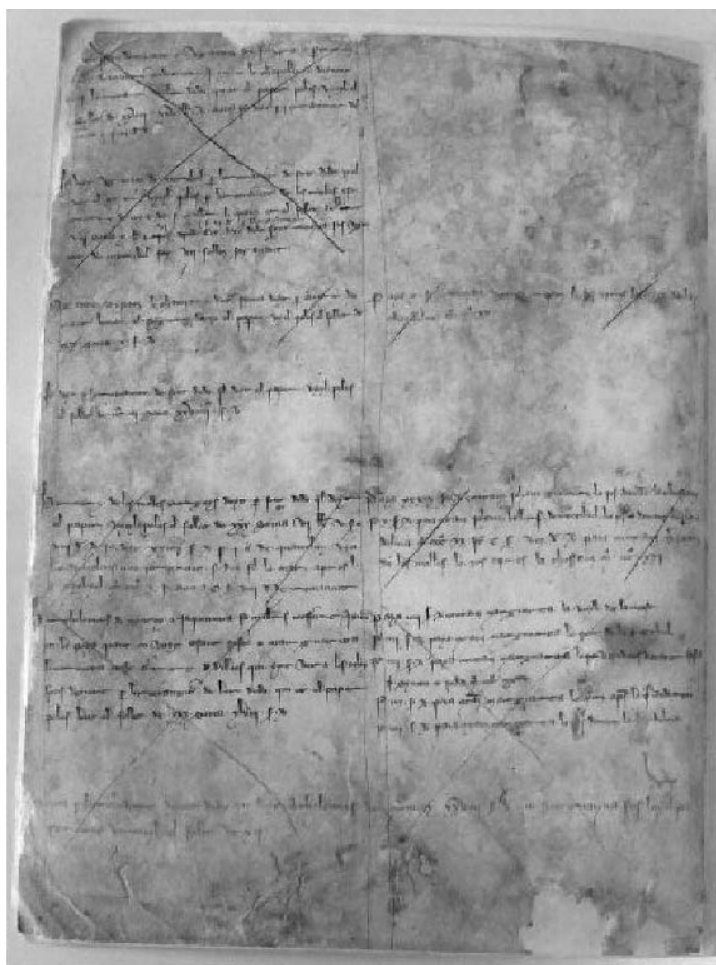


なお、付録2では左欄を [22]～[27]、右欄を [28]～[33] として掲載している。

また [22]⇒[28]
 [23]⇒[29]
 [24]⇒[30]
 [25]⇒[31]
 [26]⇒[32]
 [27]⇒[33]

は左欄から右欄へと記録されている。

【写真④ 2枚目・裏面】



なお、付録2では左欄を [34]～[40]、右欄を [41]～[43] として掲載している。

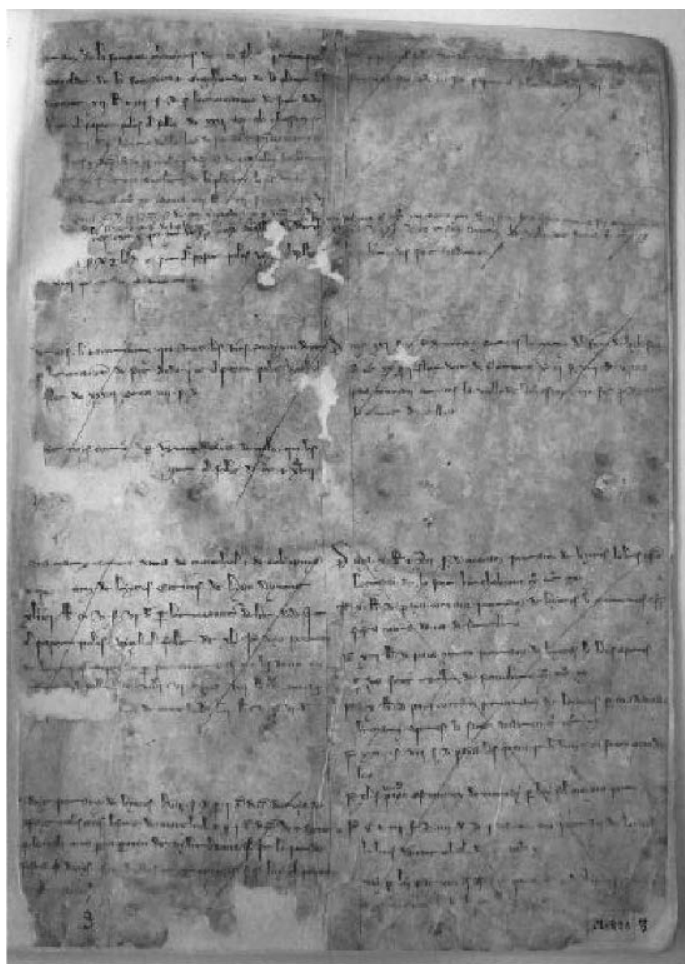
また [36]⇒[41]

[38]⇒[42]

[39]⇒[43]

は左欄から右欄へと記録されている。

【写真⑤ 3 枚目・表面】



なお、付録2では左欄を [44]～[47]、右欄を [48]～[51] として掲載している。

また [44]⇒[48]

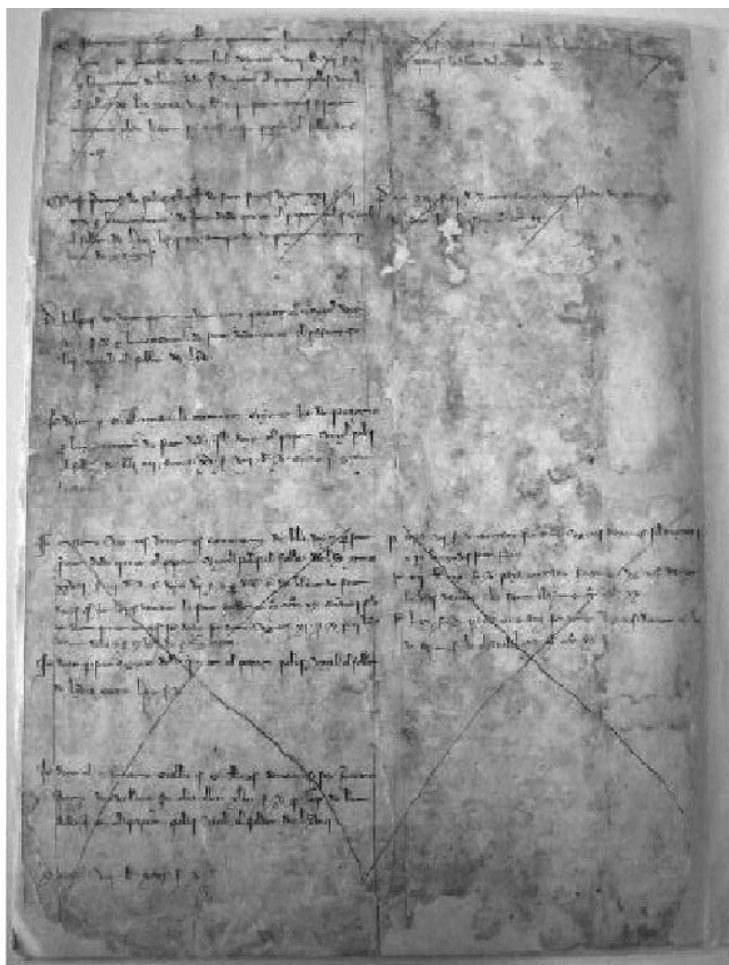
[45]⇒[50]

[46]⇒[51]

[47]⇒[51]

は左欄から右欄へと記録されている。

【写真⑥ 3枚目・裏面】



なお、付録2では左欄を [52]～[56]、右欄を [57]～[59] として掲載している。

また [52]⇒[57]

[53]⇒[58]

[56]⇒[59]

は左欄から右欄へと記録されている。

【写真⑦ 4 枚目・表面】



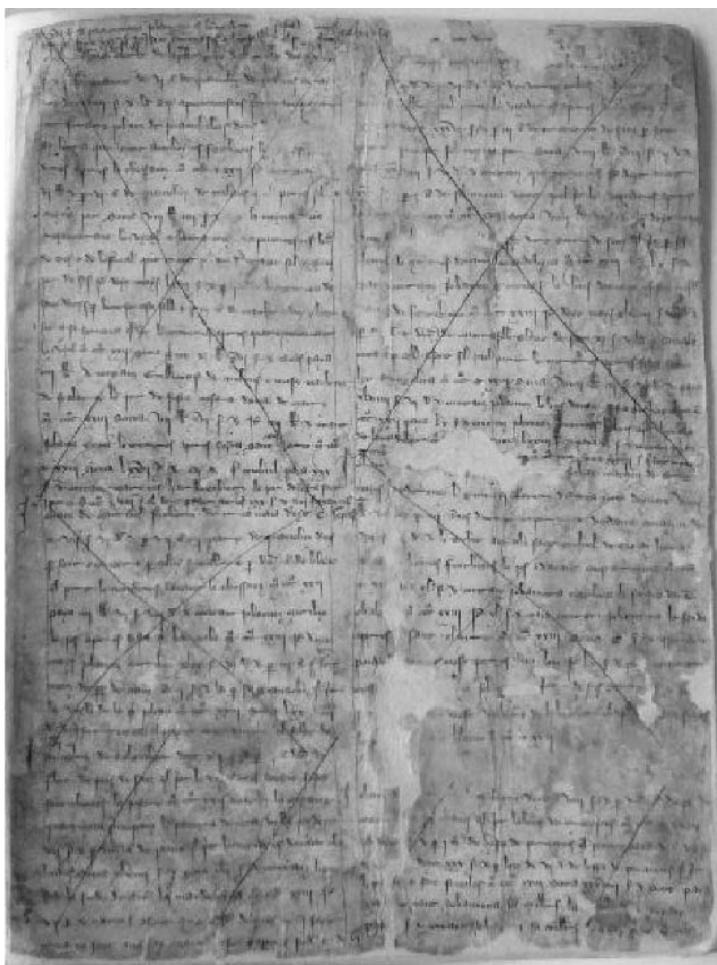
なお、付録2では左欄を断片的記録Aとして掲載している。

【写真⑧ 4 枚目・裏面】



なお、記載事項はない。

【写真⑨ 5枚目・表面】



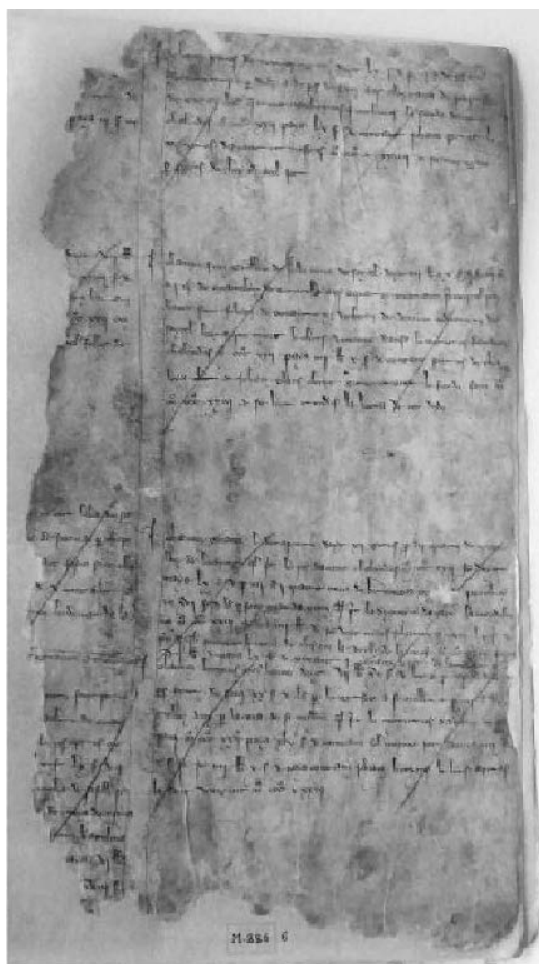
なお、付録2では左欄を [60]～[62]、右欄を [63]～[69] として掲載している。

【写真⑩ 5 枚目・裏面】



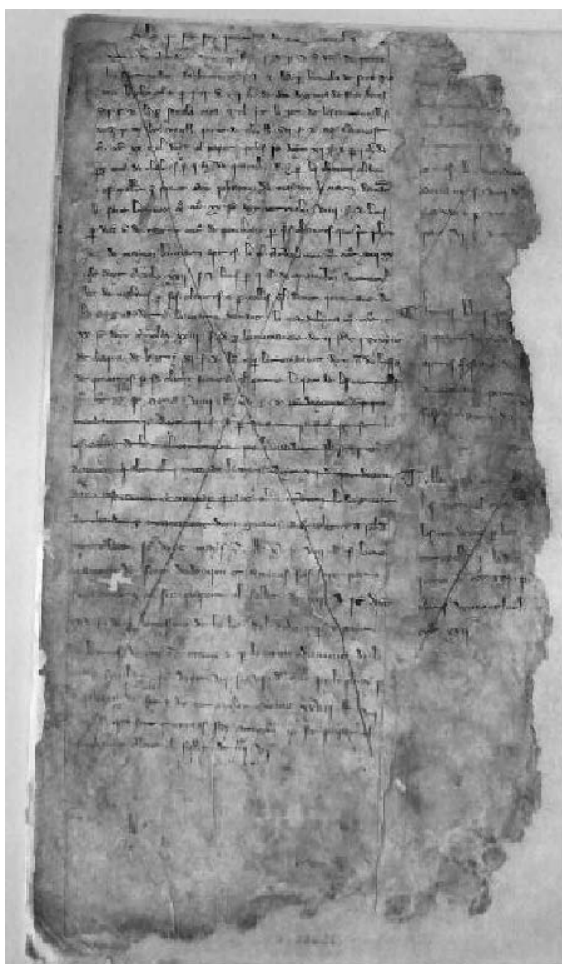
なお、付録2では左欄を [70]～[71]、右欄を [72]～[74] として掲載している。

【写真⑪ 6枚目・表面】



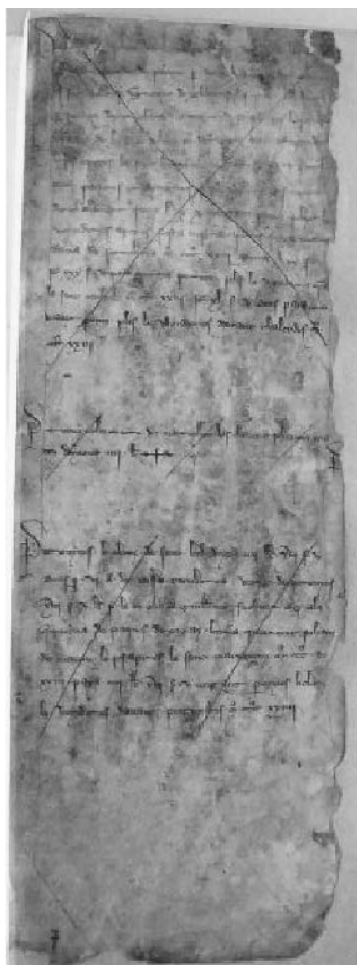
なお、付録2では左欄を断片の記録B、右欄を[75]～[78]として掲載している。

【写真⑫ 6 枚目・裏面】



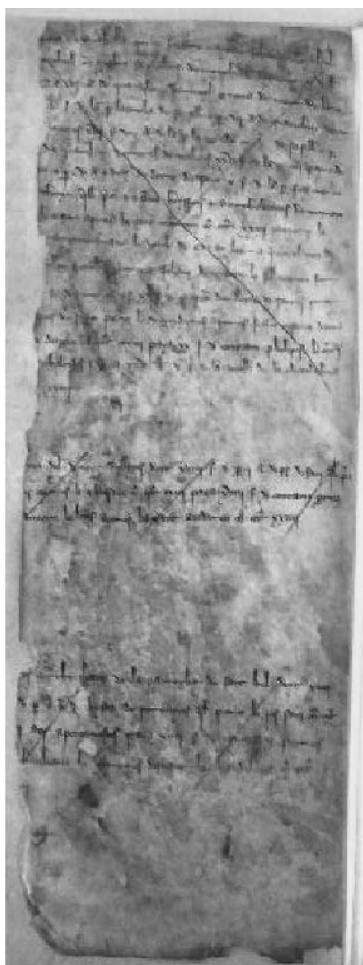
なお、付録2では右欄を [79]、右欄を断片的記録Cとして掲載している。

【写真⑬ 7枚目・表面】



なお、付録2では左欄を[80]～[82]として掲載している。右欄は著しく破損し、ほとんど残っていない。

【写真⑭ 7枚目・裏面】



なお、付録2では右欄を[83]～[85]として掲載している。左欄は著しく破損し、ほとんど残っていない。

付録 2：1964 年発見分リヨンの毛織物業者の会計帳簿の原文と試訳³³⁾

凡 例

- (1) 記録は、原文の翻刻版すなわち中世リヨンの方言、現代フランス語訳、日本語訳の順で掲載している。
- (2) 中世リヨンの方言で書かれた記述で見られる [] 内の言葉は、Durdilly [1965] により補われたものである。
- (3) 中世リヨンの方言での記述内で、イタリック体で書かれた箇所は、Durdilly [1965] による、略語に対する解釈である。
- (4) 原文、ないし現代フランス語訳の () は、Durdilly [1965] の解説より引用している。

ただし、そのうち引用箇所を提示していないものは、筆者が付記したものである。

- (5) 日本語訳での記述で見られる () は、筆者が付記したものである。
- (6) 日本語訳で、原文内の用語を引用する際にはイタリック体で、現代フランス語訳内の用語を引用する際にはローマン体で表記している。ただし、人名に関しては常にローマン体で記している。
- (7) 中世リヨンの方言、現代フランス語訳、日本語訳各々で付された点線は、原文に対し解読不能な箇所である。
- (8) 記録の番号付けは実際の帳簿にはなく、Durdilly [1965] が便宜上行ったものであり、本稿ではこれに従い、各記録に番号を付し、「記録番号」と称している。

33) 現代フランス語訳および日本語訳は筆者によるものである。なお、原文を現代フランス語訳するには翻刻版 Durdilly [1965] を参照している。

また祝祭日を日本語訳するには、原則的に新カトリック大事典編纂委員会 [1998] を、必要に応じて小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] を参照している。

地名の翻訳にあたっては、翻刻版 Durdilly [1965] および小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] を参照している。小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] への参照を付した地名は、注意書きを付したものを除き、現存する場所である。

【1枚目, 表面, 左欄】

[1]

Remembranchi seyt a mey Johany^m Berguen que ju dey a l'ouvrour *per* gemz a cuy jo devym say en areres, deys que li company de mey *et* de Bernert fut comencia tro lo jor de festa Nostra Dama de setembro m ccc xxij, en set paper premeriment dey...

〈現代フランス語訳（以下仏訳）〉

Ce souvenir est à moi Johany^m Berguen (, ce) que je dois à l'atelier (ouvrir) pour (des) gens à qui je devais (cela) auparavant, depuis que l'association de moi et Bernert fut commencée jusqu'au jour de la fête (de) Notre-Dame de septembre (le 8 septembre) 1322, dans ce papier premièrement, dey...

〈日本語訳（以下和訳）〉

私 Johany^m Berguen の記録, 私は人々に対して以前に借りていた（ものについて）仕事場で返済すべし, 私と Bernert が提携を始めた時から 1322 年マリアの誕生の祝日（9 月 8 日）までで, まずこの帳簿に, …

[2]

Item deyt *per* Berlyon lo maczon de que ly escrit et avatus say arerz, sus luy, el follet de xj, soma xx s. v.

〈仏訳〉

Item (il) doit pour Berlyon (,) le maçon de quoi la mention est portée ci-dessus, sur lui, au feuillet 11, la somme de 20 sous viennois.

〈和訳〉

同様に（彼は）石工の Berlyon に対して返済すべし、それは上記に彼の口座で記録されている、11 枚目に、合計ヴィエンヌの 20 スー。

[3]

Item deyt mays per j de Mayzeu qui los devyt per la mollier Berllyon Luquet de Sant Pero de Moyffon de que ly ecriz et avatus say arerz sus Bozonet lo retondour, el follet de xiiij, soma xxviiij s. v.

〈仏訳〉

Item (il) doit encore pour un de Meyzieu (*chef-lieu du canton de l'Isère, dans la banlieue de Lyon³⁴⁾) qui les devait pour la femme Berllyon Luquet de Saint Pierre de Moifond (*de la commune de Pusignan (Isère)³⁵⁾) de quoi la mention est portée ci-dessus sur Bozonet (,) le retordeur, au feuillet 14, la somme de 28 sous viennois.

〈和訳〉

同様に（彼は）Meyzieu³⁶⁾ のある人³⁷⁾ に対し返済すべし、（その人は）Moifond³⁸⁾ の Berllyon Luquet という女性に対し返済すべきであった、それは上記に撚糸工の Bozonet の口座で記録されている、14 枚目に、合計ヴィエンヌの 28 スー。

34) Durdilly [1965] p. 406.

35) Durdilly [1965] p. 407.

36) Meyzieu とは、リヨン郊外にある、イーゼル県の小郡の郡庁所在地である (Durdilly [1965] p. 406)。

37) この箇所の訳および解釈は現在検討中である。以下の [4], [27] も同様である。

38) Moifond とは、イーゼル県にある Pusignan の一区域である (Durdilly [1965] p. 407)。

[4]

Item deyt mays a l'ovroure *per* j de Mayzeu qui los devit *per* Guillermet Guychert de Mayzeu, de que ly ecriz et avatus sus G. Guichert, say arerz en set paper, el follet de lxxvj, soma xxviii s. v.

〈仏訳〉

Item (il) doit encore à l'atelier pour un de Meyzieu qui les devait pour Guillermet Guychert de Meyzieu, de quoi la mention est portée sur Guillermet Guychert, ci-dessus dans ce papier, au feuillet 76, la somme de 28 sous viennois.

〈和訳〉

同様に（彼は）Meyzieu のある人に対し仕事場で返済すべし、（その人は）Moifond の Guillermet Guychert に対し返済すべきであった、それはこの帳簿の上記に、Guillermet Guychert の口座で記録されている、76 枚目に、合計ヴェンヌの 28 スー。

[5]

Item deyt mays a l'ovroure *per* Estevenet Cornu [lo] taverner *qui* los devit say arerz en set paper de *que* li ecriz et a[va] tus sus luy, el follet de xxvj, soma xxv s. v.

〈仏訳〉

Item (il) doit encore à l'atelier pour Estevenet Cornu (,) l'aubergiste qui les devait ci-dessus dans ce papier de quoi la mention est portée sur lui, au feuillet 26, la somme de 25 sous viennois.

〈和訳〉

同様に（彼は）宿屋の主人である *Estevenet Cornu* に対し仕事場で返済すべし、（その人は）それらを返済すべきであった、それはこの帳簿の上記に彼の口座で記録されている、26 枚目に、合計ヴィエンヌの 25 スー。

〔6〕

Item deyt mays a l'ouvrouer per Estevenet de Champagny paneter qui los devit per drauz say arerz en set paper, el follet de xlij de que ly ecriz et avatus sus luy, soma x lb. et xiiij s. vyan.

〈仏訳〉

Item (il) doit encore à l'atelier pour *Estevenet de Champagny* (*soit Champagne, commune au nord de Lyon, soit Champagneux, village disparu, au sud de Lyon sur la route de Vienne³⁹⁾) (, le) boulanger qui les devait pour des draps ci-dessus dans ce papier, au feuillet 42 de quoi la mention est portée sur lui, la somme de 10 livres 14 sous viennois.

〈和訳〉

同様に（彼は）パン屋の *Champagny*⁴⁰⁾ の *Estevenet* に対し仕事場で返済すべし、（その人は）毛織物に対しそれらを返済すべきであった、それはこの帳簿の上記に、彼の口座で記録されている、42 枚目に、合計ヴィエンヌの 10 リーヴル 14 スー。

39) Durdilly [1965] p. 406.

40) *Champagny* は、リヨン北部の一区域 *Champagne*、あるいはヴィエンヌの途中にあるリヨン南部の今日は無き村 *Champagneux* である (Durdilly [1965] p. 406)。

[7]

Item deyt a l'ovrouer *per* Estevenet Grillet, lo marchiant de verz Ron, *per* xxv lb. de fromajos que ju pris ches luy.

<仏訳>

Item (il) doit encore à l'atelier pour Estevenet Grillet, le marchand du côté du Rhône, pour 25 (*il y a un espace assez grand entre xxv et lb., ce qui laisse supposer qu'une partie du chiffre a été effacée⁴¹⁾) livres de fromages que je pris chez lui.

<和訳>

同様に(彼は)仕事場で返済すべし, ローヌ県の近くの商人である Estevenet Grillet に対し, 私が Estevenet Grillet のところで受け取ったチーズの 25 リーヴル⁴²⁾ に対し。

[8]

Item deyt a l'ovrouer *per* Guychert, lo nevir Martinetan forneri, de *que* ly ecriz et avatus sus luy say arerz, en set paper, el follet de lxiiij, soma vj s. *et* vj d.

<仏訳>

Item (il) doit à l'atelier pour Guychert, le neveu Martinetan (, le) fournier, de quoi

41) Durdilly [1965] p. 381.

42) Durdilly [1965] によると, 25 とリーヴルの間にスペースが空いているので, 他の数値が入るとも考えられるとのことである (Durdilly [1965] p. 381)。

la mention est portée sur lui ci-dessus, dans ce papier, au feuillet 64, la somme de 6 sous et 6 deniers.

〈和訳〉

同様に（彼は）パン焼き職人で Martinetan の甥である Guychert に対し仕事場で返済すべし、それはこの帳簿の、上記に彼の口座で記録されている、64 枚目に、合計 6 スー 6 ドゥニエ。

[9]

Item deynt mays a l'ovrouer per Johannet, lo [fi]l al Jayre, qui los devyt per drauz, say arerz en set paper, el follet de iiij^{xx} et j, de que ly ecriz et avatus sus luy, soma viiij s. v.

〈仏訳〉

Item (il) doit encore à l'atelier pour Johannet, le fils au Jayre, qui les devait pour des draps, ci-dessus dans ce papier, au feuillet 81, de quoi la mention est portée sur lui, la somme de 9 sous viennois.

〈和訳〉

同様に（彼は）Jayre の息子である Johannet に対し仕事場で返済すべし、（その人は）毛織物に対しそれらを返済すべきであった、それはこの帳簿の上記に、81 枚目に、彼の口座で記録されている、合計ヴィエンヌの 9 スー。

【1枚目, 表面, 右欄⁴³⁾】

[10]

Item [deyt] mays a l'ovrouer per Jaquemy [n] del, lo chapuys, cuy j[u]
[1]o [d]ey de que soz ecriz et en set paper, el follet de iiij^{xx} iij, soma

<仏訳>

Item (il) doit encore à l'atelier pour Jaquemyn del, le charpentier, à qui je le
dois de quoi sa mention est dans ce papier, au feuillet 83, la somme de

<和訳>

同様に（彼は）Jaquemyn……に対し仕事場で返済すべし、私がそれをその
彼に返済すべき……この帳簿の、83枚目に、合計……。

[11]

Item deyt mays a l'ovrouer per Johan de Sant de que ly ecriz et avatus sus
luy say [arerez] [en] set paper, el follet de iiij^{xx} et xij, s[oma]

<仏訳>

Item (il) doit encore à l'atelier pour Johan de Sant de quoi la mention est portée
sur lui ci-dessus, dans ce papier, au feuillet 92, la somme de

<和訳>

同様に（彼は）仕事場で Johan de Sant……に対し返済すべし、それは上記に

43) 1枚目, 表面の右端は破損が著しいため, 当該右欄において行の最後はいずれも点線で表している。

彼の口座で記録されている, この帳簿の, 92 枚目に, 合計……。

[12]

Item deyt m[a]ys a l'ovrouer per Johanym, lo pa de que ly ecriz et avatus
sus luy, say ar[erz][en] set paper, el follet de iiij^{xx} et xiiij, som[a]

〈仏訳〉

Item (il) doit encore à l'atelier pour Johanym, le pa de quoi la mention est
portée sur lui, ci-dessus, dans ce papier, au feuillet 93, la somme de

〈和訳〉

同様に（彼は）仕事場で……Johanym に対し返済すべし, それは上記に彼の
口座で記録されている, この帳簿の, 93 枚目に, 合計……。

[13]

Item deyt mays a l'ovrouer [per] Johanym de que ly ecriz et avatus s[us]
luy say ar[erz][en] set paper, el fo[ll]et de c et v, soma

〈仏訳〉

Item (il) doit encore à l'atelier pour Johanym de quoi la mention est portée sur
lui ci-dessus, dans ce papier, au feuillet 105, la somme de.....

〈和訳〉

同様に（彼は）仕事場で……Johanym に対し返済すべし, それは彼の口座で
上記に記録されている, この帳簿の, 105 枚目に, 合計……。

[14]

Item deynt may a l'ouvrour [per] Johannetam Pomcet, a ... ri de que ly ecriz et
..... en set paper, el [fo]llet de c et vij

<仏訳>

Item (il) doit encore à l'atelier pour Johannetam Pomcet, a ... ri de quoi la mention
est dans ce papier, au feuillet 100 et 7 (?)

<和訳>

同様に（彼は）仕事場で Johannetam Pomcet に対し返済すべし、それは記録
されている……、この帳簿の、107⁴⁴⁾ 枚目に……。

[15]

Item deynt mays per l[o] petit P[e]ro, lo mayzele[r], [de][que] ly ecriz et
avatus sus luy, say arerz, e[n][set][paper], el follet de c et xvj, soma

<仏訳>

Item (il) doit encore pour le (ou lo) petit Pero, le boucher, de quoi la mention est
portée sur lui ci-dessus, dans ce papier, au feuillet 116, la somme de

<和訳>

同様に（彼は）肉屋の le（あるいは lo）petit Pero に対し返済すべし、それ
は上記に彼の口座で記録されている、この帳簿の、116 枚目に、合計……。

44) 原文では *vij* の後が解読できないため、「107」でなく「108」あるいは「109」のような
数字である可能性もある。

[16]

Item deynt mays a l'ouvrour per Mosse Guychert de que li ecriz et avatus sus luy, say arerz, e[n set paper], el follet de vij^{xx} et xix, soma

〈仏訳〉

Item (il) doit encore à l'atelier pour Monsieur Guychert de quoi la mention est portée sur lui, ci-dessus, dans ce papier, au feuillet 139, la somme de

〈和訳〉

同様に（彼は）Guychert 氏に対し返済すべし、それは彼の口座で上記に記録されている、この帳簿で、139 枚目に、合計……。

[17]

Item deynt mays a l'ouvrour per Mosse Guyche[rt] de que ly ecriz et avatus sus luy, say ar[erz], [en] [set] [paper], el follet de vij^{xx} et xiiij, soma

〈仏訳〉

Item (il) doit encore à l'atelier pour Monsieur Guychert de quoi la mention est portée sur lui, ci-dessus, dans ce papier, au feuillet 154, la somme de

〈和訳〉

同様に（彼は）Guychert 氏に対し返済すべし、それは上記に彼の口座で記録されている、この帳簿の、154 枚目に、合計……。

[18]

Item deyt mays a l'ovrouer *per* Mosse Johan ... de *que* soz ecriz et avatus sus luy, say ar[erz], [en] [set] paper, el follet de vij^{xx} et xviiiij, s[oma]

<仏訳>

Item (il) doit encore à l'atelier pour Monsieur Johan ... de quoi la mention est portée sur lui, ci-dessus, dans ce papier, au feuillet 159, la somme de

<和訳>

同様に（彼は）仕事場で Johan...氏に対し返済すべし、それは上記に彼の口座で記録されている、この帳簿の、159 枚目に、合計……。

[19]

Item deyt mays a l'ovrouer *per* Perony[n] fauros de rua Nova *qui* los devyan s[ay] [arerz] [en] [set] paper, el follet de viij^{xx} iiij, soma

<仏訳>

Item (il) doit encore à l'atelier pour Peronyn forgeron de rue Neuve (*rue de Lyon existant encore aujourd'hui⁴⁵⁾) qui les devait ci-dessus dans ce papier, au feuillet 164, la somme de

<和訳>

同様に（彼は）仕事場で Neuve 通り⁴⁶⁾の鍛冶屋……Peronyn に対し返済すべ

45) Durdilly [1965] p. 406.

46) Neuve 通りとは、今日も存在するリヨンの通りの名前である (Durdilly [1965] p. 406)。

し、(その人達は) それらを返済すべきであった、この帳簿の上記に、164 枚目に、合計……。

[20]

Item deyt mays a l'ovrouer per la mollier trollour per sont dedo qui et avatus en set paper, el follet de vij^{xx}

〈仏訳〉

Item (il) doit encore à l'atelier pour la femme celui qui tient le pressoir banal pour sa dette qui est portée dans ce papier, au feuillet

〈和訳〉

同様に(彼は) 仕事場でブドウ搾り機を持つ……女性に対し返済すべし、…
…記録されている彼女の債務に対し、この帳簿の、……枚目に……

[21]

Item deyt j mays a l'ovrouer per fra[e] de Bellavylla qui per lo romanent de son[t] [dedo] avatus sus luy say avant el follet de iij^{xx} xij, soma

〈仏訳〉

Item (il) doit j (?) encore à l'atelier pour frère de Belleville (*chef-lieu de canton du Rhône, à 14 km de Villefranche⁴⁷⁾) qui pour le reste de sa dette portée sur lui ci-dessous au feuillet 72, la somme de⁴⁸⁾

47) Durdilly [1965] p. 405.

48) 仏訳 1 行目の「j」および 2 行目の「qui pour」が何を意味するかは現在検討中である。

〈和訳〉

同様に（彼は）仕事場で Villefranche⁴⁹⁾ の……親族に対し返済すべし、以下に彼に関して書かれた彼の債務の残りに対し……72 枚目に、合計……

【2 枚目、表面、左欄】

[22]

Amdreus Gybelins y Estevena sa molliers de Savygneu deyvont per lo romanent de lur dedo qui et el paper vyeyl pelus, vij lb. et xij s. v., el follet de ix, soma lxij, s. v. qui sont remua sus Amdreu, say arerz en set paper el follet de iij.

〈仏訳〉

Amdreus Gybelins et Estevena sa femme de Savygneu (*probablement Savigny, commune du Rhône près de l'Arbresle⁵⁰⁾) doivent pour le reste de leur dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, 7 livres et 12 sous viennois, au feuillet 9, la somme de 62 sous viennois qui sont reportés sur Amdreus, ci-dessus dans ce papier, au feuillet 3.

〈和訳〉

Amdreus Gybelins と Savigny⁵¹⁾ の妻である Estevena は返済すべし、債務の残りに対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、ヴィエンヌの 7 リーヴル 12 スー、9 枚目に、合計ヴィエンヌの 62 スー、それはこの帳簿の上記に、

49) Villefranche とは、ヴィルフランシュ＝シュール＝ソーヌ (Villefranche-sur-Saône) というリヨン北西方にある小郡の中心地を指すものと思われる (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2524 頁)。

50) Durdilly [1965] p. 405.

51) Savigny とは Arbresle 近くのローヌ県の一区域である (Durdilly [1965] p. 405)。

3 枚目に, Amdreus の口座で報告されている。

[23]

Amgnes li flandra de Vinicies et Jaquemez de Vinicies tondire d'utra Sauna, deyvont lxi s. v. bons per lo romanent de lur dedo qui et el paper vyeyl pelus, el follet de x.

Item deyt iij s. v. per lo romanent de dime a. de bloy que prit Agnes.

Item deyt mays ix s. v. per ij tierz de bloy de [C]halons qu'illi prit et Jaquemez de Vinicies de que li ecriz et avatus sus Jaquemet de Vinicies, say arerz el follet de iiij^{xx} vj.

Item deyt iiij s. per messio de letres, soma lvij s. v. qui sont remua sus Peronet Raufrey sont maris say arers et en set paper, el follet (Ms. : el follet el follet de xj) de ix^{xx} x.

〈仏訳〉

Agnes (,) l'employée (**flandra* = terme employé comme surnom⁵²⁾) (Amgnes li flandra) de Vénissieux (*commune du Rhône dans la banlieue de Lyon⁵³⁾) et Jaquemet de Vénissieux (,) tondeur de outre (la) Saône, doivent 61 sous bons viennois pour le reste de leur dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 10.

Item (elle) doit 3 sous viennois pour le reste d'une demi aune d'étoffe de couleur bleue qu'Agnes prit.

Item (elle) doit encore 9 sous viennois pour 2 tiers (*mesure pour les étoffes qui doit représenter ici le tiers de l'aune⁵⁴⁾) d'étoffe de couleur bleue de Châlons-sur-

52) Durdilly [1965] p. 398.

53) Durdilly [1965] p. 407.

54) Durdilly [1965] p. 402.

Marne qu'elle prit et Jaquemet de Vénissieux de quoi la mention est portée sur Jaquemet de Vénissieux, ci-dessus, au feuillet 86.

Item (elle) doit 4 sous pour frais de lettres, la somme de 57 sous viennois qui sont reportés sur Peronet Raufrey son mari ci-dessus dans ce papier, au feuillet 190.

〈和訳〉

Vénissieux⁵⁵⁾の雇われ人である⁵⁶⁾ Amgnes とソーヌ川を越えた剪毛工は、良質なヴィエンヌの61 スーを返済すべし、彼らの債務の残りに対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、10 枚目に。

同様に（彼女すなわち Amgnes は）ヴィエンヌの3 スーを返済すべし、青色の布地半オヌの残りに対し、それは Amgnes が受け取ったものである。

同様に（彼女は）ヴィエンヌの9 スーを返済すべし、シャロン＝シュール＝マルヌ⁵⁷⁾の青色の布地3分の2 オヌの残りに対し、それは彼女が受け取ったものである、そしてこの帳簿の上記に、86 枚目に、Vénissieux の Jaquemet の口座で報告されている。

同様に（彼女は）4 スーを返済すべし、証書の費用に対し⁵⁸⁾、合計ヴィエンヌの57 スー、この帳簿の上記に彼女の夫である Peronet Raufrey の口座で報告されている、190 枚目に。

[24]

Aymonez li mueta, marchyamz, qui yte davant Sant Nizies deyt vj lb. et xvij

55) Vénissieux とは、リヨン郊外の中のローヌ県の一区域である (Durdilly [1965] p. 402)。

56) Durdilly [1965] によると *flandra* は雇われ人のあだ名のようなものであるため、日本語には訳していない (Durdilly [1965] p. 398)。記録番号 [29] も同様である。

57) シャロン＝シュール＝マルヌ (Châlons-sur-Marne) とは、シャンパーニュ地方の中心都市の一つである (小学館ロバール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2524 頁)。

58) *mission de letres* (仏訳の「frais de lettres」) をひとまず「証書の費用」と訳しているが、和訳については、現在検討中である。

s. vj d. v. *per* sont dedo qui et el paper pelus, el follet de xj, a r. a la sant Michiel.

〈仏訳〉

Aymonez (,) l'employé (*muet = terme employé comme surnom⁵⁹⁾) (Aymonez li mueta), marchand, qui demeure avant Saint Nizier doit 6 livres et 17 sous 6 deniers pour sa dette qui est dans le livre couvert de peau, au feuillet 11, à rendre à la saint Michel (le 29 septembre).

〈和訳〉

商人で, Saint Nizier の前に住む雇われ人である Aymonez⁶⁰⁾ は 6 リーヴル 17 スー 6 ドゥニエを返済すべし, 彼の債務に対し, それは皮革で覆われた帳簿の中にある, 11 枚目に, 大天使聖ミカエルの日 (9 月 29 日) に返済する予定である。

[25]

Aymonez li pechare qui [yt]e verz la Torreta deyt xij s. v. *per* lo romanent de sont dedo qui et el paper pelus vyel el follet de xj. Paya v s. v. contanz Johanneta sa molliers la veylli de Chalendes m ccc xxj, soma vij s. v.

Item deyt mays x s. v. *per* ij tierz de bloy de Tornay, *per* ij chapirons a luy y al cimpe *que* il pritront lo veyndros davant Pentecostes m ccc xxij.

59) Durdilly [1965] p. 400.

60) Durdilly [1965] によると *mueta* は雇われ人のあだ名のようなものであるため, 日本語には訳していない (Durdilly [1965] p. 400)。記録番号 [30] も同様である。

〈仏訳〉

Aymonez (,) le pêcheur (Aymonez li pechare) qui demeure vers la Torrete doit 12 sous viennois pour le reste de sa dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 11. Johanneta (femme de Aymonez li pechare) sa femme a payé 5 sous viennois comptant la veille de Noël 1321, la somme de 7 sous viennois.

Item (il) doit encore 10 sous viennois pour 2 tiers d'étoffe de couleur bleue de Tournai, pour 2 chaperons à lui et au *cimap*? qu'ils prirent le vendredi devant la Pentecôte 1322.

〈和訳〉

Torrete 付近に住む Aymonez li pechare⁶¹⁾ はヴィエンヌの 12 スーを返済すべし、彼の債務に対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中の 11 枚目にある。Aymonez li pechare の妻である Johanneta はヴィエンヌの 5 スーを現金で返済した、1321 年主の降誕の祭日の前日に、(返済すべき額の残りは) 合計ヴィエンヌの 7 スー。

同様に(彼は) ヴィエンヌの 10 スーを返済すべし、トゥルネー⁶²⁾ の青色の布地 3 分の 2 オースの残りに対し、彼と *cimap*⁶³⁾ の 2 つの垂れ頭巾⁶⁴⁾ 用、それは(彼らが) 受け取ったものである、1322 年聖霊降臨の主日⁶⁵⁾ の前の金曜日に。

61) *pechare* (仏訳の「pêcheur」)という言葉は小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] では掲載していないが、近い言葉として *pêcheur*=罪人, *pêcheur*=漁師を探し出すことができる (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1784 頁)。記録番号 [31] および [69] も同様である。

62) トゥルネー (Tournai) はベルギー南西部にある一都市である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2416 頁)。

63) *cimap* の詳細は不明である (Durdilly [1965] p. 397)。

64) *chapiro*n (仏訳の「chaperon」) とは、中世の垂れ頭巾のことである。詰め物をしたかぶり物で肩までの垂れ布がある (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 424 頁)。

65) 聖霊降臨の主日 (Pentecôte) は復活祭 (キリスト教の移動祝祭日である、春分後の最初の満月の次の日曜日で、3 月 22 日と 4 月 25 日の間) 後の第 7 日曜である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1796 頁)。

[26]

Bernerz de la Guarda domzeus diz de la Bueri, parochins de Polleu en Foreys y Estevenins del Puey citiens de Lyan deyvont xj lb. *et* xiiij s. de bons torn. petiz *per* lur dedo *qui* et el paper pelus, el follet de xvj a r. a la me ost, letra *que* a Vimcemz d'Amsa lo sando apres la Trinita.

〈仏訳〉

Bernerz de la Guarda jeune homme dit de la Bueri (*probablement la Bury⁶⁶⁾) paroissien de Pouilly-lès-Feurs (*Loire) en Forez et Estevenins del Puey citoyen de Lyon doivent 11 livres et 13 sous de bons petits tournois pour leur dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 16 à rendre à la mi-août, lettre que Vimcent d'Anse (*chef-lieu de canton du Rhône, près de Villefranche⁶⁷⁾) a le samedi après la Trinité.

〈和訳〉

フォレ (Foez) 地方⁶⁸⁾ のロワールの Pouilly-lès-Feurs の Bury と呼ばれた小教区の信者である Bernerz de la Guarda⁶⁹⁾ とリヨンの市民である Pouilly の Estevenins は良質の小さなトゥール貨幣 11 リーヴル 13 スーを返済すべし、彼の債務に対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、16 枚目に、8 月半ばに返済する予定である、Anse⁷⁰⁾ の Vimcent が有する証書がある、三位一体の祝日⁷¹⁾ の後の土曜日に。

66) Durdilly [1965] p. 405.

67) Durdilly [1965] p. 405.

68) フォレ (Forez) 地方は、中央山脈 Massif central 北東麓の一地域である。西はフォレ山脈、東はりヨン山脈に囲まれている (小学館ロバール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1075 頁)。

69) この箇所の訳および解釈は現在検討中である。

70) Anse は Villefranche 近くのローヌ県の小郡にある中心地である (Durdilly [1965] p. 405)。

[27]

Bertholomeus de les Molles nes Bernert de les Molles de Balon *et* Bernerz de les Moles soz emolos, borgeys de Montluel deyvont vij lb. *et* iij s. v. *per* lur dedo qui *et* el papper vyeyl pelus el follet de xxv.

Item deyt *per* j d' Ayreu qui lay fut *et* *per* j romcim ij s. vj d.

〈仏訳〉

Bertholomeus de les Molles neveux Bernerz de les Molles (*il doit s'agir dans tous ces cas de Bernerz de les Molles que l'on dit bourgeois de Montluel⁷²⁾) de Balan (*commune du canton de Miribel (commune du canton de Montluel) (Ain)⁷³⁾) et Bernerz de les Molles son *emolos*, bourgeois de Montluel (*chef-lieu de canton de l'Ain, dans la banlieue de Lyon⁷⁴⁾) doivent 7 livres et 3 sous viennois pour leur dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 25.

Item (il) doit pour un d'Heyrieux (*chef-lieu de canton de l'Isère, arrondissement de Vienne⁷⁵⁾) qui fut là-bas et pour 1 cheval (de charge ou de trait) 2 sous 6 deniers.

〈和訳〉

Balan⁷⁶⁾ の Bernerz de les Molles⁷⁷⁾ の甥である Bertholomeus de les Molles と Montluel⁷⁸⁾ の資産家である彼の *emolos*⁷⁹⁾ はヴィエンヌの 7 リーヴル 3 スーを返

71) 三位一体の祝日とは、聖霊降臨祭の後の最初の日曜日である（小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2449 頁）。

72) Durdilly [1965] p. 403.

73) Durdilly [1965] pp. 405-406.

74) Durdilly [1965] p. 406.

75) Durdilly [1965] p. 405.

76) Balan は Miribel の小郡の一区域である。また Miribel はアン県にある Montluel の小郡の一区域である（Durdilly [1965] pp. 405-406）。Montluel の詳細は脚注 78) を参照。

77) 付録 2 で見られる Bernerz de les Molles は、Montluel の資産家と同一人物である（Durdilly [1965] p. 403）。

済すべし、彼らの債務に対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、25 枚目に。

同様に（彼は）向こうにいた Heyrieux⁸⁰⁾ のある人と一頭の輓馬に対して 2 スー 6 ドゥニエを返済すべし。

【2 枚目、表面、右欄】

[28]

Paya l s. v. contanz Estevena lo sado apres la Maudeley[na].

Item xl s. v. paya contanz Amdreus Gybellins, lo marz apres la sant Bertholomeu m ccc xx.

〈仏訳〉

Estevena a payé 50 sous viennois comptant le samedi après la sainte Madeleine (le 22 juillet).

Item Amdreus Gybellins a payé 40 sous viennois comptant, le mardi après la saint Barthélemy (le 24 août) 1320.

〈和訳〉

Estevena は現金でヴィエンヌの 50 スーを返済した、マグダラの聖マリアの日（7 月 22 日）の後の土曜日に。

同様に、Amdreus Gybellins は現金でヴィエンヌの 40 スーを返済した、1320 年聖バルテルミーの祝日（8 月 24 日）に。

78) Montluel はリヨン郊外にあるアン県の小郡の中心地である (Durdilly [1965] p. 406)。

79) *emolos* の詳細は不明である (Durdilly [1965] p. 398)。

80) Heyrieux はイーゼル県の郡庁所在地の、ヴィエンヌの一区域である (Durdilly [1965] p. 405)。

[29]

Paya xv s. v. comtanz Agnes li flandra, lo sando davant la sant Michel m ccc xx, soma lij s. v.

Item v s. v. paia contanz Angnes li flandra, lo jor de festa s. Anthoyno.

〈仏訳〉

Agnes li flandra (, l'employée) a payé 15 sous viennois comptant, le samedi devant la saint Michel (le 29 septembre) 1320, la somme de 52 sous viennois.

Item Agnes li flandra (, l'employée) a payé 5 sous viennois comptant, le jour de fête de la saint Antoine (le 17 janvier).

〈和訳〉

雇われ人である Agnes は現金でヴィエンヌの 52 スーを返済した, 1320 年大天使聖ミカエルの祝日 (9 月 29 日) の前の土曜日に, 合計ヴィエンヌの 52 スー。

同様に雇われ人である Agnes は現金で 5 スーを返済した, 聖アントアンの祝日 (1 月 17 日) に。

[30]

Paya l s. v. contanz Aymonez li mueta, lo mercros apres la sant Michiel m ccc xx, *per* ij agnex d'or.

Item xxv s. v. paia contanz Peronez li mueta sel meymo jor.

Item xxv s. v. paia contanz Aymon[ez] li mueta *per* j agnel, lo jos apres festa santi Katerina m ccc xx.

Item xxv s. v. paia contanz Aymonez lo sando davant Chal[en]des m ccc xx.

Item xij s. vj d. v. paia contanz lo jos après la Ch[an]deluza m ccc xx.

〈仏訳〉

Aymonez (,) l'employé (Aymonez li mueta) a payé 50 sous viennois comptant, le mercredi après la saint Michel (le 29 septembre) 1320, pour 2 monnaies d'or dont le type était un agneau pascal.

Item Peronez (,) l'employé (Peronez li mueta) a payé 25 sous viennois comptant ce même jour.

Item Aymonez l'employé (Aymonez li mueta) a payé 25 sous viennois comptant, pour une monnaie d'or dont le type était un agneau, le jeudi après la sainte Catherine (le 25 novembre) 1320.

Item Aymonez a payé 25 sous viennois comptant le samedi devant la Chandeleur 1320.

Item (il a) payé 12 sous 6 deniers viennois comptant le jeudi après la Chandeleur 1320.

〈和訳〉

雇われ人である Aymonez は現金でヴィエンヌの 50 スーを返済した, 1320 年大天使聖ミカエルの祝日 (9 月 29 日) の後の水曜日に, 過越の子羊 (agneau pascal)⁸¹⁾ が描かれた 2 枚の金貨 (2 アニエル)⁸²⁾ に対し。

同様に雇われ人である Peronez (Peronez li mueta) は現金でヴィエンヌの 25 スーを返済した, 同じ日に。

同様に雇われ人である Aymonez (Aymonez li mueta) は現金で 25 スーを返済した, 子羊が描かれた 1 枚の金貨 (1 アニエル) に対し, 1320 年聖カタリ

81) 過越の子羊 (agneau pascal) とはユダヤ教徒が過越祭の夜に食す子羊を指す (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 53 頁)。

82) アニエルは (agneal, agneau の古形) は 12 世紀から 15 世紀の間に鑄造された金貨である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 53 頁)。

ナ祭（11月25日）の前の木曜日に。

同様に Aymonez は現金でヴィエンヌの25スーを返済した、1320年主の奉献の祝日（2月2日）の前の土曜日に。

同様に（彼は）現金でヴィエンヌの12スー6ドゥニエを返済した、1320年主の奉献の祝日（2月2日）の後の木曜日に。

[31]

Remua sus Aymonet lo pechour el paper novo *vermeyl*, el follet de la veylli de la Chandeluza m ccc xxijj.

〈仏訳〉

Reporté sur Aymonet lo pechour (le pêcheur) dans le livre neuf à couverture rouge, au feuillet La veille de la Chandeleur 1323.

〈和訳〉

表紙が赤く新しい帳簿の中の、Aymonez li pechare の口座に報告した....., 1323年主の奉献の祝日（2月2日）の前日に。

[32]

Paia vj lb. v s. v. contanz Estevenins del Puey, lo veyndros davant [la] sant Lorent m ccc xx.

Item xxv s. v. paia contanz Estevenins del Puey sel meymo jor.

Item lxx s. v. paia contanz Estevenins lo mercros apres festa Notra Dama de setembre m ccc xx.

Item lxxj s. ij [d.] v. contanz paya contanz Estevenins, lo marz apres la

sa[nt] Michiel m ccc xx.

〈仏訳〉

Estevenins del Puey a payé 6 livres 5 sous viennois comptant, le vendredi devant la saint Laurent (le 10 août) 1320.

Item Estevenins del Puey a payé 25 sous viennois comptant ce même jour.

Item Estevenins a payé 70 sous viennois comptant le mercredi après la fête (de) Notre-Dame de septembre (le 8 septembre) 1320.

Item Estevenins a payé 71 sous 3 deniers viennois comptant, le mardi après la saint Michel 1320 (le 29 septembre).

〈和訳〉

Estevenins del Puey は、現金でヴィエンヌの 6 リーヴル 5 スーを返済した、聖ラウレンティウスの祝日（8 月 10 日）⁸³⁾の前に。

同様に Estevenins del Puey はヴィエンヌの 25 スーを返済した、同じ日に。

同様に Estevenins は、現金でヴィエンヌの 70 スーを返済した、1320 年マリアの誕生の祝日（9 月 8 日）の後の水曜日に。

同様に Estevenins は、現金でヴィエンヌの 71 スー 3 ドゥニエを返済した、1320 年大天使聖ミカエルの祝日（9 月 29 日）の後の火曜日に。

[33]

Paya vj lb. et xiiij s. v. contanz Guillermyns de les Molles, fiuz Bernert de les Molles, lo jor de festa sant Luc avangelita.

83) 聖人 Laurent はローマの通称では Laurentius, すなわちラウレンティウスという（新カトリック大事典編纂委員会 [1998] 第 IV 巻, 119 頁）。

Item xij s. vj d. v. paia contanz Bernerz lo jor de la sant Elayre m ccc xx.

〈仏訳〉

Guillermyns de les Molles, fils Bernerz de les Molles a payé 6 livres et 13 sous viennois comptant, le jour de fête (de la) saint Luc (le 18 octobre) évangéliste.

Item Bernerz a payé 12 sous 6 deniers viennois comptant le jour de la saint Hilaire (le 14 janvier) 1320.

〈和訳〉

Bernert de les Molles の息子である Guillermyns de les Molles は現金でヴィエンスの6 リーヴル 13 スーを返済した, 聖ルカの祝日 (10月18日) に。

同様に Bernerz は現金でヴィエンスの12 スー 6 ドウニエを返済した, 1320年聖ヒラリウスの日 (1月14日)⁸⁴⁾ に。

【2枚目, 裏面, 左欄】

[34]

[B]oniffaci d'Ornaceu y Uguonez soz frare et Perros (*Ms.: *Perros*⁸⁵⁾) de Vannouri codurerz qui yte en la chapelleri deyvont per lo romanent de lur dedo qui et el paper pelus vyeyl el follet de xxviiij, xxv lb. v. bons.

Item deyt per j commandament del conto ij s. vj d. v.

〈仏訳〉

Boniffaci d'Ornacieux (*commune du canton de La Côte Saint-André (Isère)⁸⁶⁾) et

84) ただし新カトリック大事典編纂委員会 [1998] では, 1月13日が聖ヒラリウスの日であるとする (新カトリック大事典編纂委員会 [1998] 第IV巻, 224頁)。

85) Durdilly [1965] p. 384.

86) Durdilly [1965] p. 406.

Uguonez son frère et Perros de Vannouri couturier qui demeure dans la chapellerie doivent pour le reste de leur dette qui est dans le vieux livre couvert de peau au feuillet 28, 25 livres viennois bons.

Item (il) doit pour un commandement du comte 2 sous 6 deniers viennois.

〈和訳〉

Ornacieux⁸⁷⁾ の Boniffaci とその兄弟 Uguonez と帽子屋に住む仕立屋の Perros⁸⁸⁾ de Vannouri は返済すべし、彼らの債務の残りに対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、28 枚目に、良質のヴィエンヌの 25 リーヴル。

同様に(彼は)返済すべし、伯爵⁸⁹⁾ の命令⁹⁰⁾ に対し、ヴィエンヌの 2 スー 6 ドゥニエ。

[35]

Item deyt Uguonez de Myribel per lo romanent de sont dedo qu'el deyt el paper vyeyl pelus per lo romanent de les robes a soz ecuerz et de cey et de si mollier li quauz et el follet de ix^{xx} et viij, soma x lb. et vj s. et ij s. et vj d. per lo commandamenz. Cit duy dedo sont remua sus Uguonet de Myribel, vij follez say avant.

87) Ornacieux は、イーゼル県の La Côte Saint-André の小郡の一区域である (Durdilly [1965] p.406)。

88) 手稿では、Perros と書かれている (Durdilly [1965] p.384)。

89) conto (仏訳の「comte」) には、この他、「中世初期の君主側近の高官、近従」等の意味もあり、今後さらなる検討が必要である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 524 頁)。

90) commandamenz (仏訳の「commandement」) には、この他、「義務」や「差押え前支払催促」等の意味もあり、今後さらなる検討が必要である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 504 頁)。記録番号 [35], [79] も同様である。

〈仏訳〉

Item Uguonez de Miribel doit pour le reste de sa dette qu'il doit dans le vieux livre couvert de peau pour le reste des robes de ses écuyers et la sienne et de sa femme lesquelles sont au feuillet 188. La somme de 10 livres et 6 sous et 2 sous et 6 deniers pour le commandement. Ces deux dettes sont reportées (sur) Uguonez de Miribel, 7 feuillets ci-dessous.

〈和訳〉

同様に Miribel の Uguonez は返済すべし、彼の債務の残りに対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、彼の近習⁹¹⁾と彼自身と彼の夫人の服の残りに対し、それは 188 枚目にある。合計 10 リーヴル 6 スー、そして命令に対し 2 スーと 6 ドゥニエ。これら 2 つの債務は Miribel の Uguonez (の口座) に報告される、下記 7 枚目に。

[36]

Uguonez Rypauz, li chamjare d'utra Sauna, deyt per Bernert Durant l'ecuer
al seynour d'Anjo, el paper vyel pelus, el follet de xxix, soma x s. v.

〈仏訳〉

Uguonez Rypauz, le changeur d'outre Saône, doit pour Bernert Durant l'écuyer au seigneur d'Anjou (commune du canton de Roussillon (Isère)⁹²⁾), dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 29, la somme de 10 sous viennois.

91) *ecuer* (仏訳の「écuyer」) には、この他、「騎士に叙せられる以前の貴族の子弟」, 「平貴族: 高位貴族 *chevalier* の下に位し、爵位を持たない」, そして「宮内府主馬寮の役人」等の意味もあり、今後さらなる検討が必要である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 843 頁)。

92) Durdilly [1965] p. 405.

〈和訳〉

ソーヌ川の向こうの両替商の Uguonez Rypauz は返済すべし、Anjou⁹³⁾ の領主の騎士である Bernert Durant に対し、皮革で覆われた古い帳簿の中の、29 枚目に、合計ヴィエンヌの 10 スー。

[37]

Item deynt per lo romanent de sont dedo qu'el deynt el paper vyeyl pelus, el follet de cc iij, soma xxviiiij s. v.

〈仏訳〉

Item (il) doit pour le reste de sa dette qu'il doit dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 203, la somme de 29 sous viennois.

〈和訳〉

同様に（彼は）返済すべし、彼の債務の残りに対し、それは彼が皮革で覆われた古い帳簿の中の 203 枚目で返済すべしものである、合計ヴィエンヌの 29 スー。

[38]

Bernerz de les Molles, borgeys, deynt per sont dedo qu'el deynt el paper vyeyl pelus, el follet de xxx, soma vj lb. v s. e viij d. v.

Item deynt xxiiij s. v. per j a. de quamelim vyolet de Malines que pritront si

93) Anjou はルシヨン地方の郡にある一市町村である（Durdilly [1965] p.405）。また、ルシヨン地方（Roussillon）は、ピレネー山脈から地中海にかけて広がる地域で、ほぼピレネー＝ゾリアンタル県に相当する（小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2157 頁）。

duy fil, lo marz apres la s. Mychyel m ccc xxj, soma c s. viij d. de romanent.

〈仏訳〉

Bernerz de les Molles, bourgeois, doit pour sa dette qu'il doit dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 30, la somme de 6 livres 5 sous 8 deniers viennois.

Item (il) doit 24 sous viennois pour laune de camelin violet de Malines que ses deux fils prirent, le mardi après la saint Michel (le 29 septembre) 1321, la somme de 100 sous 8 deniers de reste.

〈和訳〉

資産家の Bernerz de les Molles は返済すべし、彼の債務に対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、30 枚目に、合計ヴィエンヌの 6 リーヴル 5 スー 8 ドゥニエ。

同様に（彼は）ヴィエンヌの 24 スーを返済すべし、マリーヌ⁹⁴⁾の紫色のバスケット織りの紡毛服地⁹⁵⁾ 1 オーヌに対し、それは彼の二人の息子が受け取った⁹⁶⁾、1321 年大天使聖ミカエルの祝日（9 月 29 日）の後の火曜日に、合計残りの 100 スー 8 ドゥニエ。

[39]

Bertholomeus de Montex *et* Jaquemeta sa molliers, ecoffert qui ytont en la poya quant on vayt a Sant Just *et* Marguarita li cirventa Mosse Girert d'Illins qui yte verz les ecloysons deyvont *per* lo romanent de lur dedo qui et el paper

94) マリーヌ (Malines) は現在のベルギー王国の中北部の都市である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1479 頁)。

95) *quamelim* (仏訳の「camelin」) とは、中世、フランドル地方のバスケット織りの紡毛服を指す (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 357 頁)。

96) この箇所の仏訳と和訳、および解釈は現在検討中である。

pelus lonc, el follet de xxx, soma xlvij s. v.

〈仏訳〉

Bertholomeus de *Montex* (*probablement Montbieux, commune du canton de Villars-les-Dombes (Ain)⁹⁷⁾) et Jaquemeta sa femme, ouvriers en cuir qui demeurent à la côte quand on va à Saint Just et Marguarita (, la servante) (Marguarita li cirventa) Monseigneur Girert d' *Illins* (*probablement Illins, hameau près de Luzinay (Isère) qui était au moyen âge une châellenie⁹⁸⁾) qui demeure vers les ecloysons (*rempart de Lyon entre la poterle de la Torrete et la porte de la Pescherie, dans le quartier des Terreaux⁹⁹⁾) doivent pour le reste de leur dette qui est dans le livre garni de poils long, au feuillet 30, la somme de 48 sous viennois.

〈和訳〉

Saint Justに行く際に(通る)坂に住む皮なめし職人である *Montex* の Bertholomeus¹⁰⁰⁾ と彼の妻 Jaquemeta と, 女中 Marguarita(と), リヨンの城塞¹⁰¹⁾ の近くに住む *Illins*¹⁰²⁾ の Girert 氏は返済すべし, 彼らの債務の残りに対し, それは皮革で覆われた長い¹⁰³⁾ 帳簿の中にある, 30 枚目に, 合計ヴィエンヌの 48 スー。

97) Durdilly [1965] p. 406.

98) Durdilly [1965] p. 406.

99) Durdilly [1965] p. 398.

100) *Montex* はおそらく Montbieux というアン県の Villars-les-Dombes の小郡の一区域を指す (Durdilly [1965] p. 406)。

101) Durdilly [1965] によると, 当該リヨンの城塞は, poterle de la Torrete と Pescherie の要衝都市の間にあるということである (Durdilly [1965] p. 406)。詳細は, 現在検討中である。

102) *Illins* は, 中世に城主の支配権が及ぶ領地であったイーゼル県の Luzinay の近くにある小集落である *Illins* だと考えられる (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 434 頁)。

103) 「長い」が形容するものは, 帳簿自体の寸法, あるいは帳簿を覆う皮革という, 二つの可能性がある。これについては, 分析を行う際の一課題としたい。

[40]

Soma *per* lo romanent de cet dedo que deyt Bertholomeus de Momtex xxviiij
s. v. qui sont remua sus luy, el paper novo vermeyl, el follet de xij.

<仏訳>

La somme pour le reste de cette dette que Bertholomeus de Montbieux doit 28 sous viennois qui sont reportés sur lui, dans le livre neuf à couverture rouge, au feuillet 12.

<和訳>

合計その債務の残りに対し、Montbieux の Bertholomeus はヴィエンヌの 28 スーを返済すべし、それは彼（の口座）に報告される、赤色の表紙の新しい帳簿の中の、12 枚目に。

【2 枚目、裏面、右欄】

[41]

Payá x s. v. contanz Ugu[onez] Ripauz, lo jos apres l'oytava de la Chandeluza
m ccc xx.

<仏訳>

Uguonez Rypauz a payé 10 sous viennois comptant, le jeudi après l'octave de la Chandeleur 1320.

<和訳>

Uguonez Rypauz は現金でヴィエンヌの 10 スーを返済した、1320 年主の奉献

の祝日（2月2日）の8日間の後の木曜日に。

[42]

Payà xxxix s. v. contanz Johanz Gennerz lo jos davant la Thosanz.

Item x s. v. paia contanz Johanz Bollers de Montluel los jos davant la Cha[n]deluza m ccc xx.

Item c s. viij d. v. paia contanz Bernerz de les Molles, lo jos apres la Thossanz m ccc xxj.

〈仏訳〉

Johanz Gennerz a payé 39 sous viennois comptant le jeudi devant (la) Toussaint.

Item Johanz Bollers de Montluel a payé 10 sous viennois comptant le jeudi devant la Chandeleur 1320.

Item Bernerz de les Molles a payé 100 sous 8 deniers viennois comptant, le jeudi après la Toussaint 1321.

〈和訳〉

Johanz Gennerz は現金でヴィエンヌの 39 スーを返済した、諸聖人の祝日（11 月 1 日）の前の木曜日に。

同様に Montluel の Johanz Bollers は現金でヴィエンヌの 10 スーを返済した、1320 年主の奉献の祝日（2 月 2 日）の前の木曜日に。

同様に Molles の Bernerz は現金でヴィエンヌの 100 スー 8 ドゥニエを返済した、1321 年諸聖人の祝日（11 月 1 日）の後の木曜日に。

[43]

Payà iiij s. v. contanz Maguarita la veylli de la me ost.

Item iiij s. v. paya *contanz* Marguarita lo jor de la s. Michiel.

Item iiij s. v. paya contanz Marguarita lo veyndros davant festa s.

Symon *et* Juda m ccc xx.

Item iiij s. v. paia *contanz* Marguarita lo marz apres la s. Andreu.

Item iiij s. v. paia *contanz* Marguarita lo jos davant la C[ha]ndeluza.

〈仏訳〉

Margarita a payé 4 sous viennois comptant la veille de la mi-août.

Item Margarita a payé 4 sous viennois comptant le jour de la saint Michel.

Item Margarita a payé 4 sous viennois comptant le vendredi devant la fête des saints Simon et Jude (le 28 octobre) 1320.

Item Margarita a payé 4 sous viennois comptant le mardi après la saint André (le 30 novembre).

Item Margarita a payé 4 sous viennois comptant le jeudi devant la Chandeleur.

〈和訳〉

Margarita は現金でヴィエヌの4 スーを返済した、8 月半ばの(ある日の)前日に。

同様に Margarita は現金でヴィエヌの4 スーを返済した、大天使聖ミカエルの祝日(9 月 29 日)に。

同様に Margarita は現金でヴィエヌの4 スーを返済した、1320 年使徒聖シモンと使徒聖ユダの日(10 月 28 日)の前の金曜日に。

同様に Margarita は現金でヴィエヌの4 スーを返済した、使徒聖アンデレの日(11 月 30 日)の後の火曜日に。

同様に Marguarita は現金でヴィエンヌの 4 スーを返済した、主の奉献の祝日（2 月 2 日）の前の木曜日に。

【3 枚目、表面、左欄】

[44]

Berauz de la Fontanna chanoynos de [Sa]nt Joh[an] qui fut fiuz [R]eynaldet de la Fontanna *et* Guycherdez de la Plateri deyvont xij lb. *et* iiij s. v. *per* lo romanent de sont dedo qui et el paper pelus, el follet de xxxj, a r. a la Thossanz.

Item xviiij d. *per* l'ecritura de la letra de set dedo.

Item deyvont xix bons *per* dime a. de pers emcro *et* *per* dime a. de quamelim d'Aubenton [que] prit soz frare *et* Guycherz de la Plateri lo jos davant la [sant] Amdreu m ccc xx, soma xiiij lb. *et* iiij s. vj d. v.

Item dey[vont] ... xviiij s. v. *per* dime a. de say guandia (*On pourrait à la rigueur lire *guanteria*¹⁰⁴⁾) *et* *per* dime a. de *que* pritront soz frare e G. de la Palteri lo veyndros apres la Maudeleya m ccc xxj, soma xiiij lb. ij s. vj d. v. *qui* sont remua say arerz

..... l'epicerz qui yte de soz Mosse Amsel[me] de Durchi s. v. *per* lo d[edo] qui et el paper pelus vyeyl, el follet de xxxj.

<仏訳>

Berauz de la Fontanna chanoine de Saint Jean qui fut fils Reynaldet de la Fontanna *et* Guycherz de la Platière (*ancien faubourg de Lyon sur la rive gauche de la Saône¹⁰⁵⁾) doivent 12 livres et 4 sous viennois pour le reste de sa dette qui est dans le

104) Durdilly [1965] p. 385.

105) Durdilly [1965] p. 406.

livre couvert de peau, au feuillet 31, à rendre à la Toussaint.

Item 18 deniers pour l'acte d'écrire la reconnaissance de cette dette.

Item (ils) doivent 19 bons pour une demi aune de *pers* (*tissu de couleur généralement bleu foncé ou bleu tirant sur le vert¹⁰⁶⁾) sombre et pour une demi aune de camelin d'Aubenton [que] son frère et Guychez de la Platière prirent le jeudi devant la saint André (le 30 novembre) 1320, la somme de 13 livres et 4 sous 6 deniers viennois.

Item (ils) doivent ... 18 sous viennois pour une demi aune d'étoffe de laine inférieure et pour une demi aune de que son frère et Guycherz de la Platière prirent le vendredi après la sainte Madeleine (le 22 juillet) 1321, la somme de 13 livres 2 sous 6 deniers viennois qui sont reportés ci-dessus

..... L'épicier qui demeure de son Monsieur Anselme de Durchi sous viennois pour la dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 31.

〈和訳〉

Reynaldet de la Fontanna の息子であった Saint Jean¹⁰⁷⁾ の司教座聖堂参事会員の Berauz de la Fontanna と Platière¹⁰⁸⁾ の Guycherdez は 12 リーヴル 4 スーを返済すべし、債務の残りに対し、それは皮革で覆われた帳簿の中にある、31 枚目に、諸聖人の祝日 (11 月 1 日) に返済する予定である。

同様に (彼らは)18 ドウニエ、この債務の証書に対して。

同様に (彼らは) 良質の 19.....返済すべし、くすんだ *pers*¹⁰⁹⁾ 半オースに対し、それと Aubenton のバスケット織りの防毛服地半オースに対し、それ (ら)

106) Durdilly [1965] p. 400.

107) Saint Jean が表す場所には二つの可能性があり、一つは西フランス、ラ・ロシェル (la Rochelle) の南東方のサン＝ジャン＝ダンジェリ (Saint-Jean-d'Angély) で、もう一つはフランス南西部の大西洋海岸に位置する、ビアリッツの南方のサン＝ジャン＝ド＝リューズ (Saint-Jean-de Luz) である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2173 頁)。

108) Platière は、ソーヌ川の左岸にある昔のリヨン周辺地域を指す (Durdilly [1965] p. 406)。

109) *pers* とは、一般的に濃い青色か緑に近い青色の布地である (Durdilly [1965] p. 400)。

は彼の兄弟と Guycherz de la Plater が受け取ったものである, 1320 年使徒聖アンデレの日 (11 月 30 日) の前の木曜日に, 合計ヴィエンヌの 13 リーヴルと 4 スー 6 ドゥニエ。

同様に (彼らは) ……ヴィエンヌの 18 ドゥニエを返済すべし, 質の悪い羊毛の布地半オースに対し, それと ……半オースに対し, それ (ら) は彼の兄弟と Platière の Guycherdez が受け取ったものである, 1321 年マグダラの聖マリアの日 (7 月 22 日) の後の金曜日に, 合計ヴィエンヌの 13 リーヴル 2 スー 6 ドゥニエ, それは上記に報告されている ……

……食料品屋 Anselme de Durchi 氏 ……住む, ヴィエンヌの ……スー, 債務に対し, それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある, 31 枚目に。

[45]

Cornus li tavernerz qui vent los vins a mayzon, deyt *per* lo romanent de sont dedo qui et el paper pelus vyeyl, el [fo]llet de xxxiiij, soma iiij s. v.

[D]eyt mays Cornus *per* Uguonet Bont de Culleu qui los …… paper, el follet de cc et xvij.

〈仏訳〉

Cornus li tavernerz (, l'aubergiste) qui vend les vins à la maison, doit pour le reste de sa dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, la somme de 4 sous viennois.

[D]oit encore Cornus pour Uguonet Bont de *Culleu* (*probablement Écully, commune limitrophe de Lyon au nord-ouest¹¹⁰⁾) qui les …… papier (ou livre), aux feuillets 200 et 18.

110) Durdilly [1965] p. 406.

〈和訳〉

家でワインを売る宿屋の主人である Cornus (あるいは Cournus li tavernerz) は、返済すべし、彼の債務の残りに対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、33 枚目に、合計ヴィエンヌの 4 スー。

同様に Cornus は返済すべし *Culleu*¹¹¹⁾ の Uguonet Bont に対し、それは……帳簿にある、218 枚目に。

[46]

[D]ama Marguarita, dama de Montluel *et* de Colompny *et* J[ocer]amz de Loyetes, citiens de Lyan, deyvont xliiij lb. *et* v s. vj d. *per* lo romanent de lur dedo qui *et* el paper pelus vyeyl, el follet de xl.

Item deyt Joceranz de Loyetes *qu'el* repondit *per* Peron Corteys qui los devit say [a]rer[z], el follet de viii^{xx} vj, soma viij lb. v. Soma *per* dama de Montluel lij lb. v s. vj d.

〈仏訳〉

Dame Marguarita, dame de Montluel *et* de Colonge (*les localités et lieux-dits de ce nom sont nombreux¹¹²⁾) *et* Joceramz de Loyettes (*commune du canton de Lagnieu (Ain)¹¹³⁾), citoyens de Lyon doivent 44 livres *et* 5 sous 6 deniers pour le reste de leur dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 40.

Item Jeceramz de Loyetes doit (,) qu'il répondit (*au sens de s'engagea, promit¹¹⁴⁾) pour Peron Corteys qui les devait ci-dessus, au feuillet 186, la somme de 8 livres

111) *Culleu* はおそらく Écully という、リヨン北西に隣接した一区域である (Durdilly [1965] p. 406)。

112) Durdilly [1965] p. 406.

113) Durdilly [1965] p. 406.

114) Durdilly [1965] p. 401.

viennois. La somme de pour dame de Montluel 52 livres 5 sous 6 deniers.

〈和訳〉

Margarita 夫人, Colonge の（この名前の場所は多数ある）夫人そしてリヨンの住民である Loyettes¹¹⁵⁾ の Joceramz は, 44 リーヴル 5 スー 6 ドゥニエを返済すべし, 債務の残りに対し, それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある, 40 枚目に。

同様に Loyettes の Joceramz は返済すべし, それは彼が Peron Corteys に対して保証したものである, 彼 (Peron Corteys) はそれらを上記で返済すべきであった, 186 枚目で, 合計ヴィエンヌの 8 リーヴル。合計 Montluel の婦人……に対し 52 リーヴル 5 スー 6 ドゥニエ。

[47]

Item deyt Joceramz de Loyetes lvij s. v. per j a. dime de reya de a fayt males cotes li sire de Montluel et per j a. dime de tagne per la mala cota partia Peronyn de Vyllurbanna qu'el prit lo jor de festa s. Denys. Cez dedos et remuas sus luy el paper (*le mot précédent «pelus» est très effacé, on peut vraisemblablement sous-entendre «vyel»¹¹⁶⁾) pelus.

〈仏訳〉

Item Joceramz de Loyettes doit 57 sous viennois pour 1 aune et demi de drap rayé (*catégorie de draps très répandue¹¹⁷⁾) de a fait *males cotes* (*sorte de jupe¹¹⁸⁾) le seigneur de Montluel et pour 1 aune et demi de *tagne* (*sorte d'étoffe¹¹⁹⁾) pour la

115) Loyettes は, アン県 Lagnieu の小郡の一区域である (Durdilly [1965] p. 406)。

116) Durdilly [1965] p. 386.

117) Durdilly [1965] p. 401.

118) Durdilly [1965] p. 399.

mala cota partia (*ce qualificatif s'applique à un vêtement divisé verticalement par moitié en deux couleurs de draps¹²⁰⁾) Peronyn de Villeurbanne (*commune du Rhône dans la banlieue de Lyon¹²¹⁾) qu'il prit le jour de fête (de) saint Denis (le 9 octobre). Ces dettes sont reportées sur lui dans le vieux livre couvert de peau

〈和訳〉

同様に Loyettes の Joceramz はヴィエンヌの 57 スーを返済すべし、縞のある毛織物¹²²⁾ 1 オース半に対し、Montluel の領主のために作った¹²³⁾ *mala cota* (スカートの種類) (用), それと *tagne* (布地の種類) 1 オース半に対し, Villeurbanne¹²⁴⁾ の Peronyn (の) *mala cota partia*¹²⁵⁾ 用, それは彼が受取ったものである, サン・ドニ (聖ディオニシウス) の祝日 (10 月 9 日) に。この債務は彼の口座で報告されている, 皮革で覆われた古い帳簿の中の……。

【3 枚目, 表面, 右欄】

[48]

.... cet paper el follet de vij^{xx} vj, remua sus Mosse Beraut de [1a] Fontanna, say arerz en set paper, el follet de viij^{xx} vj. R.

〈仏訳〉

.... ce papier au feuillet 146, reporté sur Monsieur Beraut de la Fontanna, ci-dessus

119) Durdilly [1965] p. 402.

120) Durdilly [1965] p. 400.

121) Durdilly [1965] p. 407.

122) この縞のある毛織物は, 当時広く普及していた毛織物の一種ということである (Durdilly [1965] p. 401)。

123) あるいは Montluel の領主自身が *mala cota* を作った可能性もある。

124) Villeurbanne はリヨンの郊外のローヌ県の一区域である (Durdilly [1965] p. 407)。

125) *mala cota partia* は毛織物の色が真ん中で垂直に 2 つに分けられたスカートである (Durdilly [1965] p. 400)。

dans ce papier, au feuillet 166. Reçu.

〈和訳〉

……この帳簿の 146 枚目に, Berauz de la Fontanna 氏の口座で報告されている, この帳簿の上記に, 166 枚目に, 受取。

[49]

Paya vij s. v. contanz Bernerz la veylli d'anua m ccc et xx e ju lui rendis sont madre.

〈仏訳〉

Bernerz a payé 7 sous viennois comptant la veille d'annua (*se place la semaine après Noël et correspond à notre jour de l'an¹²⁶⁾) 1320 et je lui rendis son *madre* (*ce mot semble avoir désigné d'abord une matière précieuse que l'on croit être l'agate onyx ou une imitation de cette matière, secondairement une sorte de vase à boire. Il doit s'agir ici d'une coupe qui aurait été donnée en gage¹²⁷⁾).

〈和訳〉

Bernerz は現金でヴィエンヌの 7 スーを返済した, 1320 年大晦日に,¹²⁸⁾ そして私は彼に彼の *madre*¹²⁹⁾ を返した。

126) Durdilly [1965] p. 396.

127) Durdilly [1965] p. 399.

128) Durdilly [1965] は *anua* が今日の元旦と同じであると説明している。[49] で記されているのは *annua* の前日, つまり大晦日である (Durdilly [1965] p. 396)。

129) *madre* は, 第一に縞瑪瑙と思われる高価な物質あるいはその模造品, 第二に飲み物用の容器の一種である (Durdilly [1965] p. 399)。

[50]

Paya xxj s. iij d. v. contanz Cornus lo marz del seyno de la Thossanz m ccc xx
per j flor. d'or de Floremci.

Item iij s. viiij d. v. paia contanz Cornus la veylli de la Thossanz *et* czo fut per
Uguonet lo guout de Culleu.

〈仏訳〉

Cornus a payé 21 sous 3 deniers viennois comptant le mardi du synode de la
Toussaint 1320 pour 1 florin d'or de Florence.

Item Cornus a payé 3 sous 9 deniers viennois comptant la veille de la Toussaint et
ce fut pour Uguonet le guout (?) de Écully.

〈和訳〉

Cornus は現金でヴィエンヌの 21 スー 3 ドゥニエを返済した、1320 年諸聖人の
祝日（11 月 1 日）の司教区会議¹³⁰⁾ の火曜日に、フローレンス¹³¹⁾ の金の 1 フ
ローリンに対し。

同様に Cornus は現金で 3 スー 9 ドゥニエを返済した、諸聖人の祝日の前日
に、そしてそれは Écully の Uguonet *lo guout*¹³²⁾ に対するものであった。

[51]

Paya x lb. *et* xvj s. v. contanz Joceramz de Loyetes, lo luns apres l'oytava de

130) あるいは「教会会議」の可能性もある（小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2335 頁）。

131) フローレンス（Florence）とは、イタリア中部、アルノ川沿いの古都である（小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1060 頁）。

132) *lo guout* についての詳細は不明である。

la sant Bertholomeu m ccc xx.

Item x lb. v. paya contanz Joceramz de Loyetes, lo mercros apres festa Notra Dama de setembro.

Item xiiij lb. v. paia contanz Joceramz de Loyetes lo luns apres f[e]sta sant Matheu de setembro m ccc xx.

Item x lb. v. paya contanz Joceramz de Loyetes per madama lo marz apres la sant Amdreu m ccc xx.

Item xxiiij s. viij d. (*Ms. : xxiiij s. viij s.¹³³⁾) v. paya los quauz ju li devyn en sont contio de lay.

Item xl s. vj d. paya Estevenez de Meunay per luy sel meymo jor.

Item c et iiij s. et iiij d. v. paya contanz Joceranz de Loyetes lo luns davant Chalend[es] m ccc xx.

Soma per los paymenz que a fa[it] Joceranz de Loyetes(*la dernière ligne tout entière est effacée¹³⁴⁾)

〈仏訳〉

Joceramz de Loyettes a payé 10 livres et 16 sous viennois comptant, le lundi après l'octave de la saint Barthélemy (le 24 août) 1320.

Item Joceramz de Loyettes a payé 10 livres viennois comptant, le mercredi après (la) fête de Notre-Dame de septembre (le 8 septembre).

Item Joceramz de Loyettes a payé 13 livres viennois comptant, le lundi après la fête saint Mathieu de septembre (le 21 septembre) 1320.

Item Joceranz de Loyettes a payé 10 livres viennois comptant pour madame le mardi après la saint André (le 30 novembre) 1320.

Item (il a) payé 24 sous 8 deniers viennois lesquels je les devais dans son compte

133) Durdilly [1965] p. 386.

134) Durdilly [1965] p. 387.

de là.

Item Estevenez de Mionnay (*commune du canton de Trévoux (Ain)¹³⁵⁾) a payé 40 sous 6 deniers pour lui ce même jour.

Item Joceramz de Loyettes a payé 100 et 4 sous et 4 deniers viennois comptant, le lundi devant Noël 1320.

La somme pour les paiements qu'a fait Joceranz de Loyettes

〈和訳〉

Loyettes の Joceramz は現金でヴィエンヌの 10 リーヴル 16 スーを返済した, 1320 年聖バルテルミーの祝日 (8 月 24 日) の後の 8 日間後の月曜日に。

同様に Loyettes の Joceramz は現金でヴィエンヌの 10 リーヴルを返済した, マリアの誕生の祝日 (9 月 8 日) 後の水曜日に。

同様に Loyettes の Joceramz は現金でヴィエンヌの 13 リーヴルを返済した, 1320 年使徒聖マタイの日 (9 月 21 日) の後の月曜日に。

同様に Joceramz de Loyetes は現金でヴィエンヌの 10 リーヴルを返済した, 婦人に対し, 1320 年使徒聖アンデレの日 (11 月 30 日) の後の火曜日に。

同様に彼はヴィエンヌの 24 スー 8 ドゥニエを返済した, それは私が離れた場所にある彼の口座でその金額を返済すべきであったものである。

同様に Mionnay¹³⁶⁾ の Estevenez は 40 スー 6 ドゥニエを返済した, 彼に対し, 同じ日に。

同様に Loyettes の Joceramz は現金でヴィエンヌの 104 スー 4 ドゥニエを返済した, 主の降誕の祭日前の月曜日に。

合計返済額に対し, Joceranz de Loyetes.....

135) Durdilly [1965] p. 406.

136) Mionnay はアン県の Trévoux の小郡の一区域である (Durdilly [1965] p. 406)。

【3 枚目, 裏面, 左欄】

[52]

Martina qui fut molliers Peronet Lyatout *et* Johanz Lyatouz soz frare de Montluel deyvont viiij lb. vij s. v. *per* lo romanent de lur dedo *qu'il* devyant el paper pelus vyeyl, el follet de lix, soma viij lb. v. qui sont remues sus Johan Lyatout, say *arers* en set paper, el follet de c *et* j. R.

〈仏訳〉

Martina qui fut femme Peronet Lyatout et Johanz Lyatouz son frère de Montluel doivent 9 livres 7 sous viennois pour le reste de leur dette qu'ils devaient dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 59, la somme de 8 livres viennois qui sont reportés sur Johan Lyatout, ci-dessus dans ce papier, au feuillet 101. Reçu

〈和訳〉

Peronet Lyatout の妻であった Martina と彼 (Peronet Lyatoutno) の兄弟である Montluel の Johanz Lyatouz は 9 リーヴル 7 スーを返済すべし, 彼らの債務の残りに対し, それは彼らが返済すべきであったものである, 皮革で覆われた古い帳簿で, 59 枚目に, 合計ヴィエンヌの 8 リーヴル, それは Johanz Lyatouz の口座で報告されている, この帳簿の上記で, 101 枚目。受取。

[53]

Mosse Peros de Salins, chapellan de Sant Nizies deyt xxj s. iij d. v. *per* lo romanent de sont dedo qui et el paper pelus vyeyl, el follet de lxiiij, los quauz a respondu de payer maytre Johanz de Gamges.

〈仏訳〉

Monsieur Peros de Salins, prêtre chargé d'une paroisse de Saint Nizier doit 21 sous 3 deniers viennois pour le reste de sa dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 63, lesquels maître Johanz de Gamges a répondu de payer.

〈和訳〉

Saint Nizier の小教区¹³⁷⁾ の司祭である Salins¹³⁸⁾ の Peros 氏は、ヴィエンヌの 21 スー 3 ドゥニエを返済すべし、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、63 枚目に、それは Johanz de Gamges¹³⁹⁾ が支払うことを保証したものである。

[54]

Phelippos de Sant Peros, codurerz, qui yte el mayzel deyt viij s. v. per lo romanent de sont dedo qui et el paper pelus vyeyl, el follet de lxxv.

〈仏訳〉

Phelippos de Saint Pierre, couturier, qui demeure dans la boucherie doit 8 sous viennois pour le reste de sa dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 65.

〈和訳〉

肉屋に住む Saint Pierre の仕立屋 Phelippos はヴィエンヌの 8 スーを返済すべ

137) あるいは司教区、聖堂区という可能性もある（小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1756 頁）。記録番号 [68] も同様である。

138) Salins はサラン＝レ＝バン (Salins-les-Bains) というフランス東部、ジュラ山脈西麓の町と考えられる（小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2178 頁）。

139) *maytre* (仏訳「*maître*」) には「司教、指導者、君主、家の主、所有者」等の意味があり、今後さらなる検討が必要であり、日本語には訳していない（小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1471-1472 頁）。記録番号 [58], [83] も同様である。

し、彼の債務の残りに対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、65 枚目に。

[55]

Item deyt per Guillermetan, la cerour Guyonet Bo de Janayria per lo romanent de sont dedo qu'illi deyt el paper vyeyl pelus, el follet de iiij^{xx} iiij, soma xv s. viij d. v. Guajo j^a guarlanda.

〈仏訳〉

Item (il) doit pour Guillermetan, la sœur (de) Guyonet Bo de Janneyrias (*commune de l'Isère, près de Lyon¹⁴⁰⁾), pour le reste de sa dette qu'elle doit dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 84, la somme de 15 sous 8 deniers viennois gage j^a (?) couronne.

〈和訳〉

同様に（彼は）Janneyrias¹⁴¹⁾ の Guyonet Bo の妹である Guillermetan に対して返済すべし、彼女が返済すべき彼女の債務の残りに対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、84 枚目に、合計ヴィエンヌの 15 スー 8 ドウニエ、1 つの冠¹⁴²⁾ を担保にして。

[56]

Frare Uguos Daneres, comunerz de l'Ila, deyt per sont premer dedo qui et el

140) Durdilly [1965] p. 406.

141) Janneyrias はリヨン近郊のイーゼル県の一区域である (Durdilly [1965] p. 406)。

142) この箇所の訳および解釈は現在検討中である。

paper vyeyl pelus, el follet de lxxv, soma xxviiij s. iij d. v.

Item deyt vj s. v. *per* dime a. de blanc de Sant Denys qu'el prit lo jos davant la sant Andreu m ccc xx. Guajo j flo[r]in d'or qui et croys.

Item deyt frare Uguos xj s. v. *per* ij letres de dedo *et per* ix letres de *conjungimenz*.

Item deyt *per* sont segont dedo qui et el paper pelus vyeyl, el follet de lxxvij, soma lxx s. v.

Item deyt el *et* frare Guillerms Daneres (*Ms.: Guillerms Guillerms Daneres¹⁴³⁾), soz frare, priorz de Vylleta soz Chatillon, xliij s. v. *per* lo *romanent* de lur dedo qui et el paper pelus vyeyl, el follet de lxxvij.

Soma vij lb. xiiij s. v.

〈仏訳〉

Frère Uguos Daneres, communier (*personne qui comptait parmi les bourgeois d'une commune¹⁴⁴⁾) de *l'Ila* (*probablement l'Ile-Barbe, où se trouvait la plus ancienne abbaye du diocèse de Lyon¹⁴⁵⁾), doit pour sa première dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 65, la somme de 28 sous 3 deniers viennois.

Item (il) doit 6 sous viennois pour une demi aune de blanc de Saint Denis qu'il prit le jeudi devant la Saint André (le 30 novembre) 1320, Gagelflorin d'or qui est petit et mauvais.

Item frère Uguos doit 11 sous viennois pour 2 reconnaissances de dette et pour 9 lettres de *conjungimenz* (?).

Item (il) doit pour sa seconde dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 67, la somme de 70 sous viennois.

143) Durdilly [1965] p. 387.

144) Durdilly [1965] p. 397.

145) Durdilly [1965] p. 406.

Item lui et frère Guillermos Daneres, son frère, prieur de Villette-sous-Chatillon, doivent 43 sous viennois pour le reste de leur dette qui est dans le vieux livre couvert de peau, au feuillet 68.

La somme de 7 livres 14 sous viennois.

〈和訳〉

*Ila*¹⁴⁶⁾ の住民である修道士 Uguos Daneres は彼の最初の債務に対し返済すべし、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、65 枚目に、合計ヴィエンヌの 28 スー 3 ドゥニエ。

同様に（彼は）6 スーを返済すべし、サン・ドニの白い（布地）半オーヌに対し、それは彼が受け取ったものである、1320 年使徒聖アンデレの日（11 月 30 日）の前の木曜日に、ヴィエンヌの小さく質の悪い金の 1 フローリンを担保とする。

同様に修道士 Uguos はヴィエンヌの 11 スーを返済すべし、2 つの借用証書と 9 つの *conjungimenz*¹⁴⁷⁾ の文書に対して。

同様に（彼は）彼の別の債務に対し返済すべし、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、67 枚目に、合計ヴィエンヌの 70 スー。

同様に彼（Uguos）と、同じく修道士で Villette-sous-Chatillon の小修道院長の Guillermos Daneres は、ヴィエンヌの 43 スーを返済すべし、彼らの残りの債務に対し、それは皮革で覆われた古い帳簿の中にある、68 枚目に。

合計ヴィエンヌの 7 リーヴル 14 スー。

146) *Ila* は、おそらくリヨン内の司教区の最も古い大修道院に位置する Ile-Barbe を指すということである（Durdilly [1965] p. 406）。

147) *conjungimenz* の訳は現在検討中である。記録番号 [72], [74], [79] も同様である。

【3枚目, 裏面, 右欄】

[57]

Paya xxvij s. v. contanz Matheus Lyatouz frare de Peronet apres la
Chamdeluza m ccc xx.

<仏訳>

Matheus Lyatouz frère de Peopnet ... a payé 27 sous viennois comptant ... après la
Chandeleur 1320.

<和訳>

Perpnet……の兄弟である Matheus Lyatouz は現金でヴィエンヌの 27 スーを
返済した, 1320 年主の奉献の祝日 (2 月 2 日) の後……。

[58]

Paya xxj s. iij d. v. contanz maytre Johanz de Guamges davant la Tossanz
m ccc xx.

<仏訳>

Johanz de G(u)amges .. a payé 21 sous 3 deniers viennois comptant maître ..
devant la Toussaint 1320.

<和訳>

Johanz de G(u)amges……は現金でヴィエンヌの 21 スー 3 ドゥニエを返済し
た, 1320 年諸聖人の祝日 (11 月 1 日) の前…。

[59]

Paya vj s. v. contanz frare Uguos Daneres sel meymo j[or] e ju li rendis sont florin.

Item iiij lb. iiij s. v. paya contanz frare Uguos daner[es], lo luns davant la sant Elayre m ccc xx.

Item lxx s. v. paya contanz frare Uguos Daneres, lo [san]do apres la Chamdeluza m ccc xx.

〈仏訳〉

Frère Uguos Daneres a payé 6 sous comptant ce même jour et je lui rendis son florin.

Item frère Uguos Daneres a payé 4 livres 4 sous viennois comptant, le lundi devant la saint Hilaire (le 14 janvier) 1320.

Item frère Uguos Daneres a payé 70 sous viennois comptant, le samedi après la Chandeleur 1320.

〈和訳〉

修道士 Uguos Daneres は現金で 6 スーを返済した、同じ日に、そして私は彼に彼のフローリンで返した¹⁴⁸⁾。

同様に修道士 Uguos Daneres は現金でヴィエンヌの 4 リーヴル 4 スーを返済した、1320 年聖ヒラリウスの日（1 月 14 日）の前の月曜日に。

同様に修道士 Uguos Daneres は現金でヴィエンヌの 70 スーを返済した、主の奉献の祝日（2 月 2 日）の後の土曜日に。

148) この箇所の訳および解釈は現在検討中である。

【4枚目, 表面, 左欄: 断片的記録A】

断片的記録Aは4枚目, 表面, 左欄の右側で確認できる記録である。

Peros de falcon ...
 a de bl ... et de ...
 cros apres la san ...
 no les a. *Item* deyt mayes ...
 iiij a. de degniza de sant De ...
 ... aro *et* per j. a. de *pers* de ...
 fraro lo moyno y a sont paro ...
 Johanz de Macon lo sand[o] apres l ...
 lb. xiiij s. vj d. v. y el de m ...
 remua sus luy *et* sa ...
 meyl el follet de iiij^xiiij ...
 Peros Corjons y Hugos ...
 lxxvj s. vj d. v. per iiij ...
 qu'il pritront *per* coyr ...
 chapiron a Uguon lo luns ...
et xxiiij a r. a la Thossanz ...
 Peron Corjons lo mercr[os] ...
 m ccc xxiiij. *Item* deyvont iij ...
 de dore de Brucella per ij ...
 chauces a una fenna que pr ...
 la sant Vincent m ccc xx ...
 contant Uguonez Corjons lo ...
 may m ccc xx iiij. Soma xxj s
 Uguos Corjons l'oytava de ...

〈仏訳〉

Peros de falcon ...
 a de bl ... et de ...
 cros après la san ...
 no les a. Item (il ?) doit encore ...

 iiij a. de *degniza* (nom d'étoffe) de
 Saint Denis ...
 ... aro et pour 1 aune de *pers* (sorte de
 tissus) de ...
 frère (,) le moine et à son paro ...

 Johanz de Mâcon le samedi après 1 ...
 livre(s) 13 sous 6 deniers viennois et
 il (ou dans le) de m ...
 reportés sur lui et sa...
 meyl au feuillet iiij^{xx}iiij ...
 Peros Corjons y Hugos ...
 lxxvj sous 6 deniers viennois pour iiij
 ...
 qu'il prirent pour coyr ...
 chaperons à Uguon le luns ...
 et 23 à rendre à la Toussaint ...

 Peron Corjons le mercredi ...
 1323. Item (ils) doivent iij ...

〈和訳〉

Peros de.....falcon...
 a de bl.....と de...
 cros la san...の後
 no les a. 同様に(彼?は)返済す
 べし...

 サン・ドニの *degniza* (布地の名前)
 4? オース...
 ...aro と...*pers* (布地の種類) ...

 兄弟(あるいは修道士), 修道士,
 そして彼の父に...

 Mâcon の Johanz(,)...後の土曜日...
 ヴィエンヌの?リーヴル 13 スー 6
 ドゥニエと m...の中?に...
 彼の口座に報告されたそして sa...
 83? ...枚目に? ...
 Peros Corjons と Hugos...
 ヴィエンヌの 76 スー? 6 ドゥニエ
 (,) 4? ...に対し...
 それは彼ら?が coyr...に対し...
 Uguon の垂れ頭巾 le luns...
 と 23? 諸聖人の祝日(11月1日)...
 に返済する予定である...
 Peron Corjons 水曜日に...
 1323。同様に(彼ら?は)返済すべ
 し 3? ...

de <i>dore</i> (sorte de tissus) de Bruxelles	ブリュッセルの <i>dore</i> (布地の種類)
pour ij ...	の…2?…に対し…
chausses à une femme que pr ...	夫人用のショース que pr…
la saint Vincent (le 22 janvier) 132 ...	132? 年聖ウィンケンティウスの祝 日 (1月22日) …
comptant Uguonez Corjons le ...	現金で Uguonez Corjons le…
mai 1324. La somme de 21 sous	1324 年 5 月…。合計 21 スー…
Uguos (ou Hugos) Corjons l’octava de ...	Uguos Corjons…の 8 日間の祝祭

【5 枚目, 表面, 左欄】

[60]

Item xvj s. v. paia contant Johanz Yzeus, lo veyndros [apre]s festa d ruys de may soma xxx s. v. *qui* sont remua sus el pap[er] *vermeyl* el follet de vj^{xx} xij (*cette phrase semble avoir été ajoutée après coup l’espace libre au sommet de la page¹⁴⁹⁾).

Johanz Yzeus, clers de la parochy d’Albrella deyt xliiij s. v. *per* lo romanent de vj a. de quamelim de Malines, a rayzon de xxiiij s. v. l’a. a r. a Pentecostes, *principauz* payares n’et frare Johanz de Framchelens de czo ay letra que recit Amthoynos Fenchions ly lo veyndros apres la Thossamz m ccc et xxij.

Item deyt mays vj lb. v. *per* vj a. de quamelim de Malines qu’el prit sel meymo jor, soma viij lb. iiiij s. v. a r. la meytia [a qu]areymentrant lo vyeyl *et* l’atra meytia a Pentecostes, letra de rey *et* de l’official que recit Johanz de

149) Durdilly [1965] p. 406.

Macon sel [m]eymo jor de sus.

Item deyt mays lxxij s. v. per. ij a. de bergereta de Sant Denys per lo corset a sa filli et per iij a. de maubre d'Uy per lo corset a sa sirventa qu'el prit lo mercros apres quareymentrant lo vyel m ccc xxij, soma per tot xj lb. xvj s. v. bons.

Paya iij lb. v. comtanz Guillermyms de Mulims e Mosse Matheus de Stalaru, lo jor de festa Nostra Dama de marz m ccc xxij, soma vij lb. xvj s. v.

Item iij lb. v. contant Johamz Yzeus, lo mercros apres festa sant Jorjo m ccc et xxij, soma lxxvj s. v. a r. a la sant Michiel.

Paia xxx s. v. contant Martims ly arbaletierz, lo jor de festa sant Jorjo m ccc xxij y el deyt payer atos xxx s. v. am semannes de Paques.

〈仏訳〉

Item Johanz Yzeus a payé 16 sous viennois comptant, le vendredi après (la) fête d ruys de mai la somme de 30 sous viennois qui sont reportés sur dans le livre à couverture rouge, au feuillet 138.

Johanz Yzeus, clerc de la paroisse de l'Arbresle (*chef-lieu de canton du Rhône à 25 km de Lyon¹⁵⁰) doit 44 sous viennois pour le reste de 6 aunes de camelin de Malines, à raison de 24 sous viennois l'aune à rendre à la Pentecôte, principal payeur n'et (?) frère Johanz de Francheleins (*commune du canton de Saint-Trivier-sur-Moignans¹⁵¹) de ceci j' ai une lettre que Amthoynos Fenchons ly Le vendredi après la Toussaint 1322.

Item (il) doit encore 6 livres viennois pour 6 aunes de camelin de Malines, qu'il prit ce même jour, la somme de 8 livres 4 sous viennois à rendre pour moitié à la Quinquagésime et pour l'autre moitié à la Pentecôte, des lettres du roi et de l'officiel

150) Durdilly [1965] p. 405.

151) Durdilly [1965] p. 406.

que Johanz de Mâcon reçut le jour dont il est question ci-dessus.

Item (il) doit encore 72 sous viennois pour 2 aunes de *bergereta* (nom d'étoffe) de Saint Denis pour la robe longue à manches larges et courtes de sa fille et pour 3 aunes de drap multicolore dont le dessin affectait la forme des veines du marbre d'Huy (*ville de Belgique¹⁵²⁾) pour la robe longue à manches larges et courtes de sa servante qu'il prit le mercredi après le dimanche de la Quinquagésime 1322, la somme pour tout de 11 livres 16 sous viennois bons.

Guillermymys de *Mulims* (*probablement Mullin, petite localité du département du Rhône¹⁵³⁾) et Monsieur Mathieu de Talaru (*Talaru hameau de la commune de Saint-Forgeux (Rhône)¹⁵⁴⁾) ont payé 4 livres viennois comptant, le jour de la fête de Notre-Dame de mars (le 25 mars) 1323, la somme de 7 livres 16 sous viennois.

Item 4 livres viennois comptant Johanz Yzeus, le mercredi après la fête Saint Georges (le 23 avril) 1323, la somme de 76 sous viennois à rendre à la Saint Michel (le 29 septembre).

Martims l'arbalétrier a payé 30 sous viennois comptant, le jour de la fête Saint Georges (le 23 avril) 1324 et il doit payer autres 30 sous viennois pendant la semaine de Pâques.

〈和訳〉

同様に Johanz Yzeus は現金でヴィエンヌの 16 スーを返済した、5 月の……の祝日の後の金曜日に、合計ヴィエンヌの 30 スー、それは表紙が赤色の帳簿中の……口座で報告されている、138 枚目に。

Arbresle¹⁵⁵⁾ の小教区の聖職者 Johanz Yzeus は、ヴィエンヌの 44 スーを返済

152) Durdilly [1965] p. 407.

153) Durdilly [1965] p. 406.

154) Durdilly [1965] p. 407.

155) Arbresle は、リヨンの 25 キロメートル先にあるローヌ県の小郡の中心地である (Durdilly [1965] p. 405)。

すべし、マリーヌのバスケット織りの紡毛服地 6 オースの残りに対し、1 オースにつきヴィエンヌの 24 スーの割合で、聖霊降臨の主日に返済する予定である、主要な返済者は修道士 Francheleins¹⁵⁶⁾ の Johanz……の証書を私は有する、それは Amthoy nos Fencheons が……1322 年の諸聖人の祝日（11 月 1 日）後の金曜日に。

同様に（彼は）ヴィエンヌの 6 リーヴルを返済すべし、マリーヌのバスケット織りの紡毛服地 6 オースに対し、それは彼が受け取ったものである、同じ日に、合計ヴィエンヌの 8 リーヴル 4 スー、半分を灰の水曜日（復活祭の 46 日前）直前の日曜日に、もう半分を聖霊降臨の主日に返済する予定である、王の証書と公式の証書、それは Mâcon の Johanz が上記に示した日に受け取ったものである。

同様に（彼は）ヴィエンヌの 72 スーを返済すべし、サン・ドニの *bergereta*（布地の名前）2 オースに対し、彼の娘のための、大きく短い袖のある長い服用、それとウイ¹⁵⁷⁾ の大理石の縞の模様のある多色の生地 3 オースに対し、彼の女中のための、大きく短い袖のある長い服用、それ（ら）は彼が受け取ったものである、1322 年灰の水曜日に、合計良質のヴィエンヌの 11 リーヴル 16 スー。

*Mulims*¹⁵⁸⁾ の Guillermyms と Talaru¹⁵⁹⁾ の Mathieu 氏は現金でヴィエンヌの 4 リーヴルを返済した、1323 年神のお告げの祭日（3 月 25 日）に、合計ヴィエンヌの 7 リーヴル 16 スー。

同様に Johamz Yzeus は現金でヴィエンヌの 4 リーヴルを返済した、1323 年聖ゲオルギオスの祝日（4 月 23 日）の後の水曜日に、合計ヴィエンヌの 76 スー。

156) Francheleins は Saint-Trivier-sur-Moignans の小郡の一区域である (Durdilly [1965] p. 406)。

157) ウイ (Huy) は、ベルギーの一都市である (Durdilly [1965] p. 407)。

158) *Mulims* はおそらくローヌ県の小さな町ないし村である Mullin を指す (Durdilly [1965] p. 406)。

159) Talaru は、ローヌ県の Saint-Forgeux の一区域にある小集落である (Durdilly [1965] p. 407)。

一、大天使聖ミカエルの日（9月29日）に返済する予定である。

弩の射手である Martims は現金で 30 スーを返済した、1324 年聖ゲオルギオスの祝日（4月23日）に、そして彼はその他に復活祭の週にヴィエンヌの別の 30 スーを支払わなければならない。

[61]

Johanz de Miribel, futherz de rua Nova, deyt c *et* vij s. vj d. v. *per* vij a. e i quart de quamelim d'Uy *per* sont ciricot *et* *per* celuy si mollier *et* *per* dime a. de blanc qu'el prit lo veyndros davant la Thossanz m ccc xxij.

Paya iiij lb. vj s. viij d. v. comtant Johannez Miribex, lo jos apres festa s. Barnabe m ccc xxij.

Item deyt mays Johannez Miribex xlix s. vj d. v. *per* iij a. j quart menz de pers de Sanz, xvij s. v. l'a., *per* sa guanachi qu'el prit la veylli de la s. Johan m ccc xxij, soma lxx s. iiij d. v. qui sont remua el paper novo verme[y]l, el follet de iiij^{xx} iij.

〈仏訳〉

Johanz de Miribel (*commune du canton de Montluel (Ain)¹⁶⁰⁾, charpentier de la rue Neuve, doit 107 sous 6 deniers viennois pour 7 aunes et l'quart de camelin d'Huy pour son surcot et pour celui de sa femme et pour une demi aune de blanc qu'il prit le vendredi devant la Toussaint 1322.

Johanz de Miribel a payé 4 livres 6 sous 8 deniers viennois comptant, le jeudi après la fête saint Barnabé (le 11 juin) 1323.

Item doit encore Johanz de Miribel 49 sous 6 deniers viennois pour 3 aunes moins

160) Durdilly [1965] p. 406.

1 quart de *pers* (sorte de tissu) de Sens, 18 sous viennois l'aune pour sa garnache (vêtement de dessus avec ou sans manches) qu'il prit la veille de la saint Jean (le 24 juin) 1323, la somme de 70 sous 4 deniers viennois qui sont reportés dans le livre neuf à couverture rouge, au feuillet 83.

〈和訳〉

Neuve の道の大工である Miribel の Johanz は、ヴィエンヌの 107 スー 6 ドウニエを返済すべし、ウイのバスケット織りの紡毛服地 7 オースと 4 分の 1 に対し、彼の外衣用と彼の妻の外衣用、それと白い(布地)半オースに対し、それは彼が受け取ったものである、1322 年諸聖人の祝日(11 月 1 日)の前の金曜日に。

Miribel の Johanz は現金でヴィエンヌの 4 リーヴル 6 スー 8 ドウニエを返済した、1323 年聖バルナバ使徒の祝日(6 月 11 日)の後の木曜日に。

同様に Miribel の Johanz はヴィエンヌの 49 スー 6 ドウニエを返済すべし、サンスの *pers* (布地の種類) 3 オースと 4 分の 1 未満に対し、1 オースにつきヴィエンヌの 18 スー、彼の *garnache* 用¹⁶¹⁾、それは彼が受け取ったものである、1323 年洗礼者聖ヨハネの誕生(6 月 24 日)の前日に、合計ヴィエンヌの 70 スー 4 ドウニエ、表紙が赤く新しい帳簿の報告されている、83 枚目に。

[62]

Jennerz de Colomber deyt xlij s. v. *per* ij a. dime de flur de peys de Sanz qu'el prit lo veyndros davant festa sant Thomas l'apostro m ccc xxij, Bozonez l'a a r. a me quareyma, principauz ly panczua de ceta vylla.

161) *guanachi* (仏訳「*garnache*」)とは、袖付あるいは袖なしの上着である(Durdilly [1965] p.399)。

Item deyt vij s. v. *per* dime a. de jauno *qu'el* prit lo veyndros davant Chalendes, soma xlviiiij s. v.

Paya xlij s. v. comtanx li pansua lo sando davant la Maudeleyne m ccc xxiiij.

Item vij s. v. n'a meys a sont *contio* *qui* sont meys en sont *contio* say avant en set paper, el follet de xj^{xx}.

〈仏訳〉

Jennerz (*on pourrait lire Jenverz¹⁶²⁾) de Colomber doit 42 sous viennois pour 2 (on croit pouvoir lire ij, mais le chiffre est très effacé¹⁶³⁾) aunes et demi de tissu de couleur fleur de pois de Sens, qu'il prit le vendredi devant la fête saint Thomas (le 21 décembre) l'apôtre 1322, Bozonez l'aune à rendre à la mi-carême, le pansu principal de cette ville.

Item (il) doit 7 sous viennois pour une demi aune de tissu de couleur jaune qu'il prit le vendredi devant Noël, la somme de 49 sous viennois.

(Il a) payé 42 sous viennois comptant au pansu le samedi devant la sainte Madeleine (le 22 juillet) 1323.

Item 7 sous viennois n'a mis à son compte qui sont mis dans son compte ci-dessous dans ce papier, au feuillet 180.

〈和訳〉

Colomber の Jennerz¹⁶⁴⁾ はヴィエンヌの42 スーを返済すべし、サンスの水玉模様の花の色の生地 2¹⁶⁵⁾ オーズ半に対し、それは彼が受け取ったものであ

162) Durdilly [1965] p. 404.

163) Durdilly [1965] p. 389.

164) Durdilly [1965]によると, Jennerz は Jenverz とも読めるということである (Durdilly [1965] p. 404)。

165) Durdilly [1965]によると, この数字は「ij」と読めると思われるものの, 非常に色あせてしまっているということである (Durdilly [1965] p. 389)。

る, 1322 年使徒聖トマスの日 (12 月 21 日) の前の金曜日に, Bozonez は 1 オースを四旬節中日に返済する予定である, その町の *le pansu principal*¹⁶⁶⁾。

同様に (彼は) ヴィエンヌの 7 スーを返済すべし, 黄色の布地半オースに対し, それは彼が受け取ったものである, 主の降誕の祭日前の金曜日に, 合計ヴィエンヌの 49 スー。

(彼は) 現金でヴィエンヌの 42 スーを返済した, *pansu* に, 1323 年マグダラの聖マリアの日 (7 月 22 日) の前の土曜日に。

同様にヴィエンヌの 7 スーは彼の口座に記載されて……それはこの帳簿の, 下記に彼の口座で記載されている, 180 枚目に。

【5 枚目, 表面, 右欄】

[63]

Johannez Geneveys, ecofferz qui y[te] [ut]ra la ruyzeta d[eyt] viij lb. *et ... s. ij d. v. per vj a. et dime de vert erbus de Lovaymg per la roba si mollier qu'el prit lo veyndros apres la Thossanz m ccc xxij.*

Item deyt xxxvj s. v. *per* iij a. de tramarim de Sanz *per* sont guonel qu'el prit sel meymo jor, soma viiij lb. xvij s. vj d. v. Paya xxxviiij s. vj d. v. contanz que ju recevys.

〈仏訳〉

Johannez Geneveys, ouvrier en cuir qui demeure outre le petit ruisseau doit 8 livres et ... sous 2 deniers viennois pour 6 aunes et demi de drap de couleur herbe verte de Louvain pour la robe de sa femme qu'il prit le vendredi après la Toussaint 1322.

Item (il) doit 36 sous viennois pour 3 aunes de *tramarim* (sorte d'étoffe) de Sens

166) *principauz ly panczua* (仏訳の「*le pansu principal*」) の和訳および解釈は現在検討中である。

pour son vêtement de dessus long qu'il prit ce même jour, la somme de 9 livres 18 sous 6 deniers viennois. (Il a) payé 38 sous 6 deniers viennois comptant que je reçus.

〈和訳〉

小さな小川の向こうに住む皮革製品の職人の *Johannez Geneveys* はヴィエンヌの8リーヴルと…2ドゥニエを返済すべし、*Louvain* の緑の草色の毛織物6オージュ半に対し、彼の妻の服用、それは彼が受け取ったものである、1322年諸聖人の祝日（11月1日）の後の金曜日に。

同様に（彼は）ヴィエンヌの36スーを返済すべし、サンスの *tramarim*（布地の種類）3オージュ半に対し、長い上着用、それは彼が受け取ったものである、同じ日に、合計ヴィエンヌの9リーヴル18スー6ドゥニエ。彼は現金でヴィエンヌの38スー6ドゥニエを返済した、それは私が受け取ったものである。

[64]

Item deyt Mayet xxv s. v. per j a. de sel meymo vert qu'el prit lo veymdros apres la sant Martim m ccc xxij, soma viiij lb. v s. v.

Item deyt mays viiij s. pers vert emcro de Sanz qu'el prit per ses chaucez lo mercros davant la Maudeleyba m ccc xxij.

〈仏訳〉

Item Mayet doit 25 sous viennois pour 1 aune de ce même vert qu'il prit le vendredi après la saint Martin (le 11 novembre) 1322, la somme de 9 livres 5 sous viennois.

Item (il) doit encore 9 sous pers (sorte de tissu) vert sombre de Sens qu'il prit pour ses chausses le mercredi devant la sainte Madeleine (le 22 juillet) 1323.

〈和訳〉

同様に Mayet はヴィエンヌの 25 スーを返済すべし、同じ緑の（布地）1 オースに対し、それは彼が受け取ったものである、1322 年聖マルティヌスの祝日（11 月 11 日）の後の金曜日に、合計ヴィエンヌの 9 リーヴル 5 スー。

同様に（彼は）9 スー……………を返済すべし、サンスのくすんだ緑色の *pers*（布地の種類）に対し、それは彼が彼のショース用に受け取ったものである、1323 年マグダラの聖マリアの日（7 月 22 日）の前の水曜日に。

[65]

Item lx s. v. paya contanz Johannez Geneveys, lo luns davant festa Nostra Dama de setembre m ccc xxij.

Item deynt mays xlviii s. iij d. v. per iij a. et dime de contrafile blanc de Sanz, xj s. v. l'a., per sa mala cota et per celle a sont fil qu'el prit lo mercros apres festa sant Luc avangelita m ccc et xxij, soma viij lb. iij s. vj d. v. paya xlviii s. vj d. v. comtanz Johannez lo luns davant festa santi Katelina m ccc xxij. Paya lx s. v. contanz Johannez Geneveys, lo luns apres l'oytava de la Madeleya m ... soma lxxiiij, s. v. Paya xl s. v. comtanz Johannez Geneve[ys] m ccc xxiiij, soma xxxiiij s. qui sont remua Joham

〈仏訳〉

Item Johannez Geneveys a payé 60 sous viennois comptant, le lundi devant la fête (de) Notre-Dame de septembre (le 8 septembre) 1323.

Item (il) doit encore 49 sous 4 deniers viennois pour 4 aunes et demi de *contrafile* (sorte d'étoffe) blanc de Sens, 11 sous viennois l'aune, pour sa *mala cota* (sorte de jupe) et pour celles de son fils qu'il prit le mercredi après (la) fête saint Luc (le

18 octobre) évangéliste 1323, la somme de 9 livres 3 sous 6 deniers. Johannez a payé 49 sous 6 deniers viennois comptant le lundi devant (la) fête sainte Catherine (le 25 novembre) 1322. Johannez Geneveys a payé 60 sous viennois comptant, le lundi après l'octave de la sainte Madeleine (le 22 juillet) 1 ... La somme de 74 sous viennois. Johannez Geneveys a payé 40 sous viennois comptant 1324, la somme de 34 sous qui sont reportés Joham

〈和訳〉

同様に Johannez Geneveys は現金でヴィエンヌの 60 スーを返済した, 1323 年マリアの誕生の祝日 (9 月 8 日) の前の月曜日に。

同様に (彼は) ヴィエンヌの 49 スー 4 ドゥニエを返済すべし, サンスの白色の *contrafille* (布地の種類) 4 オーズ半に対し, 1 オーズにつき 11 スー, *mala cota* (スカートの種類) 用と彼の息子の *mala cota* 用, それは彼が受け取ったものである, 1323 年聖ルカの祝日 (10 月 18 日) の後の水曜日に, 合計 9 リーヴル 3 スー 6 ドゥニエ。Johannez は現金でヴィエンヌの 49 スー 6 ドゥニエを現金で返済した, 1322 年聖カタリナ祭 (11 月 25 日) の前の月曜日に。Johannez Geneveys は現金でヴィエンヌの 60 スーを返済した, 1...年マグダラの聖マリアの日 (7 月 22 日) の 8 日間の祝祭の後の月曜日に, 合計ヴィエンヌの 74 スー。Johannez Geneveys は現金で 40 スーを返済した, 1324 年……, 合計 34 スーそれは報告されている Joham……。

[66]

Johan Matheu de Brignayes, Amdrevez li geneveys, futerz de rua Nova, deyvont viiiij lb. v. [bo]ns per iiij anes d'uerjo compranz et vendamz a rayzon de vij s. ... j (*le nombre de deniers ne peut être lu en entier, par suite d'une déchirure du papier¹⁶⁷⁾) d. v. lo bichet a r. a la sant Michiel, de czo ay letra

[que] r[eci]t Anthoynos Fencheons, lo jos davant me quareyma m ccc et xx ...

〈仏訳〉

Johan Matheu de Brignais (*commune du Rhône à 12 km de Lyon¹⁶⁸), Amdrevez le genevois, charpentier de rue Neuve doivent 9 livres viennois bons pour 4 ânées d'orge comptant et vendant à raison de 7 sous ...j deniers viennois le bichet (*mesure de capacité pour les grains¹⁶⁹) à rendre à la saint Michel (le 21 septembre), de ce (j') ai (une) lettre que Anthoynos Fencheons reçut, le jeudi devant la mi-carême 132...

〈和訳〉

Brignais¹⁷⁰ の Johan Matheu と、Neuve の道の大工で、ジュネーヴ地方の Amdrevez は良質のヴィエンヌ 9 リーヴルを返済すべし、ロバ 4 頭（が積める荷物）分の大麦に対し現金で、そして 1 ビシエにつき¹⁷¹ ヴィエンヌの 7 スー……ドウニエの割合で販売する、大天使聖ミカエルの日（9 月 29 日）に返す予定である、私は証書を持っている、それは Anthoynos Fencheons が受け取ったものである、132? 年四旬節中日の前の木曜日に。

[67]

[P]aya xl s. v. contanz Johanneta Matheva la semana davant Chale[ndes] m ccc xxijj.

167) Durdilly [1965] p. 390.

168) Durdilly [1965] p. 405.

169) Durdilly [1965] p. 397.

170) Brignais はリヨンから 12 キロメートル離れたローヌ県の一区域である (Durdilly [1965] p. 405)。

171) ビシエ (bichet) は穀物をはかる単位である (Durdilly [1965] p. 397; 小学館ロバール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 259 頁)。

Item xl s. v. paia contanz Johanneta lo sando apres [la] sant Elayre m ccc xxiiij ; soma c s. v. que a repondu [p]ayer Mosse Peros deuz Louz.

Item lx s. v. pa[y]a contant Mosse [Peros] [deuz] Louz sel [meymo] jor de sus, soma x s. v.

〈仏訳〉

Johanneta Matheva a payé 40 sous viennois comptant la semaine devant Noël 1323.

Item Johanneta a payé 40 sous viennois comptant le samedi après la saint Hilaire (le 14 janvier) 1323 ; la somme de 100 sous viennois, que Monsieur Peros deuz Louz a répondu de payer.

Item Monsieur Peros deuz Louz a payé 60 sous viennois comptant le jour dont il est question ci-dessus, la somme de 10 sous viennois.

〈和訳〉

Johanneta Matheva は現金で 40 スーを返済した, 1323 年主の降誕の祭日の前の週に。

同様に Johanneta は現金でヴィエンヌの 40 スーを返済した, 1323 年聖ヒラリウスの日 (1 月 14 日) の後の土曜日に, 合計ヴィエンヌの 100 スー, それは Peros deuz Louz 氏が支払うことを保証したものである。

同様に Peros deuz Louz 氏は現金でヴィエンヌの 60 スーを返済した, 上記で取り上げた日に, 合計ヴィエンヌの 10 スー。

[68]

Item s. v. [paya] [con]tant Mosse Uंबरz de la Buyceri, chapellan de Sant Nizies, lo jor ant Blayvo m ccc *et* xxiiij.

〈仏訳〉

Item Monsieur Uंबरz de la Buissière (*Il existe de nombreuses localités de ce nom¹⁷²⁾) prêtre chargé d'une paroisse de Saint Nizier a payé sous viennois comptant, le jour ant *Blayvo* (*on pourrait lire aussi bien *Blayno* ; la place de ce terme dans la phrase semble indiquer qu'il s'agit d'une fête¹⁷³⁾) 1323.

〈和訳〉

同様に Sant Nizies の小教区の司祭である Buissière¹⁷⁴⁾ の Uंबरz 氏は現金で ヴィエンヌの…スーを返済した, ……*Blayvo*¹⁷⁵⁾ の日に。

[69]

Johanz de li pechare deyt viij s. v. *per* dime a. de *pers* de Montch[ant]
per ses chauces qu'el prit lo luns de Rueysons m ccc *et* xxiiij.

Item deyt ... s. v. *per* j tierz de byffa de Provymys qu'il prit, paya v s. v.

Deyt xxx s. v. *per* lo romanent de vj a. de biffa de Provymys qu'el prit lo jor
festa sant Nicolas m ccc xxiiij, soma xxxviiij s. v. bons.

Paya xxx ... contant Johanneta sa molliers, la [vey]ll[i] [de] Ranpauz.

Paya s. v. contant Johanneta sa molliers, lo marz sanz m ccc

〈仏訳〉

Johanz de Le pêcheur doit 8 sous viennois pour une demi aune de *pers* (sorte

172) Durdilly [1965] p. 405.

173) Durdilly [1965] p. 402.

174) Durdilly [1965] によると, Buissière という名前の場所は数多く存在するということである (Durdilly [1965] p. 405)。

175) Durdilly [1965] によると, *Blayvo* は *Blayno* とも読むことができ, この単語は場所を表すものであるが, この文章中では祝日の名前として示されているということである (Durdilly [1965] p. 402)。

de tissus) de Montchant pour ses chausses qu'il prit le lundi de Rogations¹⁷⁶1323.

Item (il) doit ... sous viennois pour 1 tiers de *biffa* (*drap léger d'un tissu peu serré, souvent rayé en travers¹⁷⁶⁾) de Provins qu'il prit, (il a) payé 5 sous viennois.

(Il) doit 30 sous viennois pour le reste de 6 aunes de *biffa* de Provins qu'il prit le jour de la fête saint Nicolas (le 6 décembre) 1323, la somme de 38 sous viennois bons.

Johanneta sa femme a payé 30 ...comptant, la veille du dimanche des Rameaux.

Johanneta sa femme a payé sous viennois comptant, le mardi saint¹³

〈和訳〉

Johan de... ..li pechare はヴィエンヌの8スーを返済すべし, Montchant の *pers* (布の種類) 半オースに対し, 彼のショース用, それは彼が受け取ったものである, 1323 年祈願行列¹⁷⁷⁾ の月曜日に。

同様に(彼は)ヴィエンヌの...スーを返済すべし, プロヴァン¹⁷⁸⁾ の *biffa*¹⁷⁹⁾ 3分の1 オースに対し, それは彼が受け取ったものである, (彼は) ヴィエンヌの5スー.....を返済した。

(彼は) ヴィエンヌの30スーを返済すべし, プロヴァンの *biffa* 6 オースの残りに対し, それは彼が受け取ったものである, 1323 年聖ニコラオスの祝日(12月6日)に, 合計良質のヴィエンヌの38スー。

彼 (Jonanz) の妻 Johanneta は現金で30スーを返済した, 枝の主日¹⁸⁰⁾ の前日に。

176) Durdilly [1965] p. 397.

177) 祈願行列 (rogation) は, 復活祭から40日目に行われるキリスト昇天祭に先立つ3日間をいう (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2145頁)。

178) プロヴァン (Provins) は, バリ南東方, ムランの東方にある郡庁所在地である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1974頁)。

179) *biffa* とは, 目が粗く軽い, しばしば縞が交差した毛織物である (Durdilly[1965]p. 397)。

180) 枝の主日 (Rameaux) は, 復活祭直前の日曜日でキリストが受難の前にイエルサレムに入った記念日である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2025頁)。

彼の (Jonanz) の妻 Johanneta は現金でヴィエンヌの……スーを返済した, 13
……の火曜日に。

【5 枚目, 裏面, 左欄】

[70]

Johannez Barez de nez et ly guan deyvont iiij lb. v s. v.
bons per v a. de pers azurim de Sanz, xvij s. v. l'a.

Item deyvont mays liiij s. v. bons per iij a. de bruneta paunesci de Sanz qu'il
duy pritront si fil, lo mercros apres l'oytava de Chalendes m ccc xxij, soma vij
lb. xij d. menz. Paya vij lb. xij d. menz comtant Johannez Barez, soz frare, lo
jos davant me quarema m ccc xxij.

〈仏訳〉

Johannez Barez de nez et le guan doivent 4 livres 5 sous
viennois bons pour 5 aunes de *pers* (sorte de tissu) azuré de Sens, 17 sous viennois
l'aune.

Item (ils) doivent encore 54 sous viennois bons pour 3 aunes de *brunette* (*drap
fin qui tire son nom de sa teinte voisine du noir¹⁸¹⁾) couleur bleu paon de Sens qu'il
deux (=ils ?) prirent (pour ?) ses fils, le mercredi après l'octave de Noël 1322, la
somme de 7 livres 12 deniers moins. Johannze Barez, son frère a payé 7 livres 12
deniers moins comptant, le jeudi devant la mi-carême 1322.

〈和訳〉

Johannez Barez de……nez と le guan…… ……………は良質のヴィエ

181) Durdilly [1965] p. 397.

ンヌの4リーヴル5スーを返済すべし、サンスの紺碧の *pers* (布地の種類) 5 オーズに対して、1 オーズにつきヴィエンヌの17 スー。

同様に(彼らは)良質のヴィエンヌの54 スーを返済すべし、サンスのクジャクのような青色の毛織物プルネット¹⁸²⁾ 3 オーズに対し、それは彼らが受け取ったものである、(2人の息子のために¹⁸³⁾、1322年主の降誕の祭日を初日とする8日間の後の水曜日に、合計7リーヴル12ドゥニエ未満¹⁸⁴⁾。彼の兄弟である *Johannez Barez* は現金で7リーヴル12ドゥニエ未満を返済した、1322年四旬節中日の前の木曜日に。

[71]

Johanyns ly epicerz qui yte sus lo pont deyt xvij lb. x s. v. *per* v a. *et* dime d'acole de Malines, xxvij s. v. l'a., *per* sa roba *et per* vj a. de tagne de Sanz, xiiij s. v. l'a., *per* la roba curta si mollier *et per* vj a. de reya vermayl de Guam, xxij s. v. l'a., *per* la roba a Est[evenin] sont que prit Johanyns m ccc xxij.

Bozonez l'a paya xlvj (*le chiffre est bien xlvj, mais on trouve écrit plus loin, en lettres, 47 sous et 7 d.¹⁸⁵⁾) s. d. v. *per* lo romanent de les parties *que* ju li devym en sont hovroure [quant] (*Ms. : qō ; le sens demande «quant»¹⁸⁶⁾) lay avyt preys *per* ma maladi, los quauz quarant *et* set souz *et* set d. ju ay meys a mont *contio* en czo que ju deyt a l'ovroure.

Item xv lb. v. paya comtanz Johanyns ly epicerz sel meymo jor, soma xxij

182) プルネット (brunette) には、名詞の他「褐色の」を意味する形容詞もある。プルネットという毛織物は、黒色に近い染色であり、名前の由来となっている (Durdilly [1965] p. 397 ; 小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 331 頁)。

183) 「息子が」受け取った可能性もある。

184) moins はここではひとまず「未満」としたが、その訳および解釈は現在検討中である。

185) Durdilly [1965] p. 390.

186) Durdilly [1965] p. 391.

s. v.

Item deyt mays c *et* x s. vj d. v. *per* x [a.] *et* dime d'emplugme de Sanz, xj s. v. l'a., qu'el prit lo jor de la sant Amdreu m ccc xx. Paya c x s. v. comtanx Johanymys sel meymo jor, s[oma] xxij s. vj d. v.

Item [deyt] [m]ays Joha[nyns] v. *per* j a. de quamelin d'Uy *per* ses chaucez *et* *per* nym sont nevr qu'el prit lo mercros apres la Maud [eleya] m ccc xxij.

Item deyt iij lb. v. *per* iij a. dime de quamelin de Brucella *per* sont guardacorz *et* *per* ses chaucez, lo mercros davant la sant Martim m ccc xxij.

Item iij s. v. paia comtant Johanymys, la veylli de festa (*Ms. : de festa de festa¹⁸⁷⁾) Thomas l'apostre m ccc xxij, soma iij lb. vij s. v. ju li dey a l'ovroure *per* mey *et* *per* Katelinam mi serour (*Ms. : misserour¹⁸⁸⁾).

<伝記>

Johanymys l'épicier qui demeure sur le pont doit 18 livres 10 sous viennois pour 5 aunes et demi de drap à raies doubles très rapprochées de Malines, 28 sous viennois l'aune, pour sa robe et pour 6 aune de tagne (sorte d'étoffe) de Sens, 14 sous viennois l'aune, pour la robe courte de sa femme et pour 6 aunes de drap rayé (catégorie de draps très répandue), vermeil de Gand, 22 sous viennois l'aune, pour la robe d'Estevenins son que Johanymys prit 1322.

Bozonez a payé 46 sous deniers viennois l'aune pour le reste des parties que je lui devais dans son atelier quand (il) l'avait prit pour ma maladie, lesquels quarante sept sous et sept deniers. J'ai mis à mon compte dans ce que je devais à l'atelier.

Item Johanyn l'épicier a payé 15 livres viennois comptant ce même jour, la somme de 23 sous viennois.

187) Durdilly [1965] p. 391.

188) Durdilly [1965] p. 391.

Item (il) doit encore 110 sous 6 deniers viennois pour 10 aunes et demi d'*emplugme* (sorte d'étoffe) de Sens, 11 sous viennois l'aune, qu'il prit le jour de la saint André (le 30 novembre) 1320. Johanyns a payé 110 sous viennois comptant ce même jour, la somme de 23 sous 6 deniers viennois.

Item Johanyns doit encore..... viennois pour 1 aune de camelin d'Huy pour ses chausses et pour nym son neveu qu'il prit le mercredi après la sainte Madeleine (le 22 juillet) 1323.

Item (il) doit 4 livres viennois pour 3 aunes et demi de camelin de Bruxelles pour son garde-corps (*vêtement de dessus qui se portait l'hiver¹⁸⁹⁾) et pour ses chausses, le mercredi devant la saint Martin (le 11 novembre) 1323.

Item Johanyns a payé 3 sous viennois comptant, la veille de fête (saint) Thomas (le 21 décembre) l'apôtre 1323, la somme de 4 livres 7 sous viennois, je le dois à l'atelier pour moi et pour Katelinam ma soeur (?).

〈和訳〉

橋の近くに住む食料品屋の Johanyns はヴィエンヌの 18 リーヴル 10 スーを返済すべし, マリーヌの非常に細かく 2 種の糸で縞を織った¹⁹⁰⁾ 毛織物 5 オーヌ半に対し, 1 オーヌにつきヴィエンヌの 28 スー, 彼の服用, それとサンスの *tagne* (布地の種類) 6 オーヌに対し, 1 オーヌにつきヴィエンヌの 14 スー, 彼の妻の短い服用, そしてヘント¹⁹¹⁾ の鮮紅色の (よく知られた毛織物の種類) 縞のある毛織物 6 オーヌに対し, 1 オーヌにつきヴィエンヌの 22 スー, Estevenins の服用……, それ (ら) は Johanyns が 1322 年……………受け取ったものである。

189) Durdilly [1965] p. 399.

190) *acole* (仏訳の「*drap à raies doubles très rapprochées*」) の和訳および解釈については検討の余地がある。

191) ヘント (Gand) はベルギー西部にある (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1120 頁)。

Bozonez はヴィエンヌの 46 スー……ドゥニエを返済した、1 オースにつき……、私が病気であったため彼がそこ（彼の仕事場）で受け取った時、私が彼の仕事場で支払うべきであった分の残りに対し、その 47 スー 7 ドゥニエ¹⁹²⁾。私は私の口座の中に記録した、仕事場で私が返済すべしの中に。

同様に食料品屋の Johanyns（あるいは Johanynms）は現金でヴィエンヌの 15 リーヴル返済した、同じ日に、合計ヴィエンヌの 23 スー。

同様に（彼は）ヴィエンヌの 110 スー 6 ドゥニエを返済すべし、サンスの *emplugme*（布地の種類）10 オース半に対し、1 オースにつき 11 スー、それは彼が受け取ったものである、1320 年使徒聖アンデレの日（11 月 30 日）に。Johanyns（あるいは Johanynms）は現金ヴィエンヌの 110 スーを返済した、同じ日に、合計ヴィエンヌの 23 スー 6 ドゥニエ。

同様に Johanyns はヴィエンヌの……を返済すべし、ウイのバスケット織りの紡毛服地 1 オースに対し、彼のショース用と彼の甥……用、それは彼が受け取ったものである、1323 年マグダラの聖マリアの日（7 月 22 日）の後の水曜日に。

同様に彼はヴィエンヌの 4 リーヴルを返済すべし、ブリュッセルのバスケット織りの紡毛服地 3 オース半に対し、彼のギャルドコール¹⁹³⁾用と彼のショース用、1323 年聖マルティヌスの祝日（11 月 11 日）の前の水曜日に。

同様に Johanynms は現金でヴィエンヌの 3 スーを返済した、1323 年使徒聖トマスの日（12 月 21 日）の前日に、合計ヴィエンヌの 4 リーヴル 7 スー、私はそれを仕事場で返済すべし、私と私の妹 Katelinam¹⁹⁴⁾ に対して。

192) Durdilly [1965] はこの段落での金額について「その数字は確かに *xlvi* つまり 46 であるが、さらに隔てて 47 スーと 7 ドゥニエという文字が確認できる」と注を打っている (Durdilly [1965] p. 390。ここから、Bozonez についての債権回収額は 46 スー 47 スー 7 ドゥニエの可能性もある。

193) ギャルドコール (*garde-corps*) とは、13, 14 世紀に着用された防寒用外衣である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1123 頁)。

194) *Katelinam mi serour* を仏訳で「Katelinam ma soeur」と解したが、この箇所の仏訳および解釈については検討の余地がある。

【5枚目, 裏面, 右欄】

[72]

... amellons de Sain Bel y Uguonez Sarazims de cel meymo l[ua] deyvont ij s.
v. bons *per* ij a. de *pers* de Troyes a. r. a Pentecostes qu'il duy pritront lo marz
davant la sant Martim m ccc xxij.

Item deyt iij s. v. *per* lettres de conjungimenz qui nos rematront. Item ay
meys cet dedo en czo que ju dey a l'ovroure, el quer pelus.

〈仏訳〉

... amellons de Sain Bel (*commune du Rhône à 24 km de Lyon¹⁹⁵⁾) et Uguonez Sarazims de ce même lieu doivent 2 sous viennois bons pour 2 aunes de *pers* (sorte de tissus) de Troyes à rendre à la Pentecôte que les deux prirent le mardi devant la saint Martin (le 11 novembre) 1322.

Item (je) dois 3 sous viennois pour reconnaissance de conjungimenz (?) qui nous remirent. Item (j') ai mis cette dette dans ce que je dois à l'atelier, dans le livre garni de poils.

〈和訳〉

Sain Bel¹⁹⁶⁾ の…amellons と同じ場所の Uguonez Sarazims は良質なヴィエンヌの2スーを返済すべし, トロア¹⁹⁷⁾ の *pers* (布地の種類) 2 オーズに対し, 聖霊降臨の主日に返済する予定である, それはその二人が受け取ったものである, 1322 年聖マルティヌスの祝日 (11 月 11 日) の前の火曜日に。

195) Durdilly [1965] p. 406.

196) Sain Bel はリヨンから 24 キロメートル離れたローヌ県の一区域である (Durdilly [1965] p. 406)。

197) トロア (Troyes) はシャンパーニュ地方, セーヌ川沿いにある町である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2461 頁)。

同様に（私は）ヴィエンヌの3スーを返済すべし，証書…に対し，それは（彼らが）我々に渡したものである。同様に（私は）その債務を記録した，皮革で覆われた帳簿の中の，私が仕事場で返済すべきところのものの中へ。

[73]

Johannez ly otos qui yte v [e] rz Sant Vymcent deyt xxvij s. vj d. v. per ij a. et dime de chemcemci de Sanz, xj s. v. l'a., per cota si mollier qu'el prit lo jor de la sant Elayre m ccc xxij.

Item deyt mays xvj s. vj d. v. per j a. dime d'emplugme de Sanz qu'el prit lo jor de festa s. Luc avangelita m ccc xxij.

Paya xxx s. v. comtanz Johannez li otos, la veylli de la sant Martim m ccc xxij.

Item xiiij s. v. paia comtant Johannez ly otos, l'endeman de la sant Martim m ccc xxij.

〈仏訳〉

Johannez l'aubergiste qui demeure vers Saint Vincent doit 27 sous 6 deniers viennois pour 2 aunes et demi de *chemcemci* (sorte d'étoffe) de Sens, 11 sous viennois l'aune, pour la cotte (*vêtement porté sur la chemise et sous le surcot, par les deux sexes, à parti de 1200 environ¹⁹⁸⁾) (de) sa femme qu'il prit le jour de la saint Hilaire (le 14 janvier) 1322.

Item (il) doit encore 16 sous 6 deniers viennois pour 1 aune et demi d'*emplugme* (sorte d'étoffe) de Sens qu'il prit le jour de la fête saint Luc (le 18 octobre) évangeliste 1323.

198) Durdilly [1965] p. 397.

Johannez l'aubergiste a payé 30 sous viennois comptant, la veille de la saint Martin (le 11 novembre) 1323.

Item Johannez l'aubergiste a payé 14 sous viennois comptant, le lendemain de la saint Martin (le 11 novembre) 1323.

〈和訳〉

Saint Vincent の近くに住む宿屋の主人 Johannez はヴィエンヌの 27 スー 6 ドゥニエを返済すべし, サンスの *chemcemci* (布地の種類) 2 オース半に対し, 1 オースにつきヴィエンヌの 11 スー, 彼女の妻のコット¹⁹⁹⁾ 用, それは彼が受け取ったものである, 1322 年聖ヒラリウスの日 (1 月 14 日) に。

同様に (彼は) ヴィエンヌの 16 スー 6 ドゥニエを返済すべし, サンスの *emplugme* (布地の種類) 1 オース半に対し, それは彼が受け取ったものである, 1323 年聖ルカの祝日 (10 月 18 日) に。

宿屋の主人 Johannez は現金で 30 スーを返済した, 1323 年聖マルティヌスの祝日 (11 月 11 日) の前日に。

同様に宿屋の主人 Johannez は現金でヴィエンヌの 14 スーを返済した, 1323 年聖マルティヌスの祝日 (11 月 11 日) の翌日に。

[74]

Johannez fiuz a la Qualabra de Dissines et Johanz Qu[a]labra soz pare et Johanz fiuz Martim Sibua de Dissines deyvont vj lb. vj s. v. per vij a. de pers de Montchant, xvj s. v. l'a. et per iij quart de bruneta de Sanz a rayzon de xiiij s. v. los iij quarz a r. a la sant Julim, de czo aven letra que recit Johanz de Macon, lo jor de la sant Elayre m ccc xxij.

199) コット (cotte) とは, 12 世紀から 16 世紀の間に男女が着たチュニック風の上着である (Durdilly [1965] p. 397; 小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 587 頁)。

Paya iiij lb. v. comtanz Estevena li molliers Johan Sibua de Disines, lo jos apres la s. Michiel m ccc xxij.

Item deyt ij s. viij d. v. per la *mission* de ... *cunjungiment*, soma

Paya xxiiij s. v. comtanz Estevena molliers Johan Sybua, lo jor de festa Nostra Dama de marz m ccc xxij, soma xxiiij s. viij d.

Paya xiiij s. v. bons Johanez fius Martin Sibua, lo sando davant la Tossans m ccc xxv, souma x s. viij d. v. recet.

Item x s. v. paya comtanz Johannez, sel meymo jor, soma viij d.

Paya viij d. v. comtamz Johannez Sibua, sel meymo jor y el en portiet v letres de *cunjungimenz et* la letra del dedo *que* monte la *mission* vij s. v. *qu'el* a paya, del fim de czo ly ay ju dona l'aucion de xxxij s. v. ota lo chanjo deuz xiiij s. v.

〈伝記〉

Johannez fils de la Qualabra de Décines (*commune du canton de Meyzieu (Isère)²⁰⁰⁾, dans la banlieue de Lyon) et Johanz Qualabra son père et Johanz fils Martim Sibua de Décunes doivent 6 livres 6 sous viennois pour 7 aunes de pers (sorte de tissus) de Montchant, 16 sous viennois l'aune et pour 3 quarts de brunette de Sens à raison de 14 sous viennois les 3 quarts (,) à rendre à la Saint Julien, de ce j'avais (la) lettre que Johanz de Mâcon reçut, le jour de la saint Hilaire (le 14 janvier) 1322.

Estevena la femme (de) Johan Sibua de Décines a payé 4 livres viennois comptant, le jeudi après la saint Michel (le 29 septembre) 1323.

Item (il) doit 2 sous 8 deniers viennois pour les frais de ... (lettre de) *cunjungiment*, la somme de

200) Durdilly [1965] p. 406.

Estevena (la) femme (de) Johan Sibua a payé 24 sous viennois comptant, le jour de la fête de Notre-Dame de mars (le 25 mars) 1323, la somme de 24 sous 8 deniers.

Johanez fils Martin Sibua a payé 14 sous viennois bons, le samedi devant la Toussaint 1325, la somme de 10 sous 8 deniers viennois reçue.

Item Johannez a payé 10 sous viennois comptant, ce même jour, la somme de 8 deniers.

Johan Sybua a payé 8 deniers viennois comptant, ce même jour et il emporta 5 lettres de *cunjungimenz* et la reconnaissance de dette dont les frais s'élèvent à 7 sous viennois qu'il a payé, à la fin de quoi je lui ai donné l'augmentation de 32 sous viennois, moins le change des 14 sous viennois.

〈和訳〉

Décunes²⁰¹⁾ の la Qualabra の息子である Johanez と、彼の父親である Johanz Qualabra と Décunes の Martim Sibua の息子である Johanz はヴィエンヌの6リーヴル6スーを返済すべし, Montchant の *pers* (布地の種類) 7 オースに対し, 1 オースにつきヴィエンヌの 16 スー, それとサンスの毛織物ブルネットのヴィエンヌの 14 スーで, 4 分の 3 に対し, saint Julien に返済する予定である²⁰²⁾, それについて私は証書を持っていた, それは Mâcon の Johanz が受け取ったものである, 1322 年聖ヒラリウスの日 (1 月 14 日) に。

Décines の Johan Sibua の妻 Estevena は現金で 4 リーヴルを返済した, 1323 年大天使聖ミカエルの日 (9 月 29 日) の後に。

同様に (彼は) ヴィエンヌの 2 スー 8 ドゥニエを返済すべし, *cunjungiment* の証書…の費用に対し, 合計…

Johan Sibua の妻 Estevena は現金でヴィエンヌの 24 スーを返済した, 1323 年

201) Décunes は, リヨン郊外にある, イーゼル県の Meyzieu という小郡の一区域である (Durdilly [1965] p. 406)。

202) Durdilly [1965] によると saint Julien とは祝祭日の一つであるが, その詳細については現在検討中である (Durdilly [1965] p. 402)。記録番号 [80] も同様である。

神のお告げの祭日（3 月 25 日）の木曜日に、合計 24 スー 8 ドゥニエ。

Martim Sibua の息子である Johanz はヴィエンヌの良質な 14 スーを返済した、1325 年の諸聖人の祝日（11 月 1 日）の前の土曜日に、合計受取った 10 スー 8 ドゥニエ。

同様に Johannez は現金でヴィエンヌの 10 スーを返済した、同じ日に、合計 8 ドゥニエ。

Johan Sybua は現金で 8 ドゥニエを返済した、同じ日に、そして彼は五つの *cunjugimenz* の証書と一つの借用証書を持って行った、それは彼の返済額がヴィエンヌ 7 スーに上るもの、その最後にヴィエンヌの 14 スーより少ない金額が 32 スーに上昇したことを私が彼に示したものの²⁰³⁾。

【6 枚目、表面、左欄：断片的記録 B】

断片的記録 B は 6 枚目、表面、左欄の右側で確認できる記録である。

..... marz da
..... paya iij s. iiij.
..... deyt vij lb.
..... xxiiij s. v.
..... rz Barauz
..... cc xxij cez
..... el follet de
..... engnour l aba de sa
..... rs de Stornay per chapi

203) この一文の仏訳・和訳共に現在検討中である。

..... ant festa de sant Tho

..... d. v. contant. *Item*

..... l'endeman de la

..... guatete et remuas

..... erz sant Jorjo

..... [m]aubre de Guam

..... lo jos apres me

..... lx s. v. *per*

..... roba de sa filli. *Item*

..... de reya de Ypra

..... samti Katelina

..... paya vj lb.

..... xvij s.

<仏訳>

..... marz da

..... payé 3 sous 4 ..

..... doit 7 livres.

..... xxiiij sous viennois.

..... rz Barauz

..... cc 22 ce

..... au feuillet

..... engnour l aba de sa

..... rs de Tournai pour chapi

<和訳>

.....marz da

..... 3 スー 4 返済した。

..... 7 リーヴル返済すべし。

..... ヴィエンヌの 24 ? スー。

.....rz Barauz

.....222 ? ce

.....枚目

.....engnour l aba de sa

...rs トウルネーの...rs chapi..... ? のために

..... ant fête de saint Tho聖なる Tho.....の祝日
.....deniers viennois comptant Item	...現金でヴィエンヌの.....。同様に
..... Lendemain de lala? の翌日
..... guatet est reportéguatet は報告されている
..... erz saint Georges (le 23 avril)erz 聖ゲオルギオスの祝日(4月23日)
..... <i>maubre</i> (sorte de drap) de Gand	...ヘントの <i>maubre</i> (毛織物の種類)
..... Le jeudi après meme.....後の木曜日
..... 60 sous viennois pourためのヴィエンヌの 60 スー...
..... robe de sa fille. Item彼女の娘のドレス.....。同様に
..... de drap rayé d'Ypresイーブル ²⁰⁴⁾ の縞のある毛織物
..... samti Katelinasamti Katelina
..... payé 6 livres.6 リーヴル返済した。
..... x 8 sous.18? スー。

【6 枚目, 表面, 右欄】

[75]

Johamz Pros de Montaymgne deyt lx s. v. *per* iij a. de *pers* emcro d'Envrouirs
et per dime a. de *pers* de Sanz, a r. a l'oytava de Paques, de czo ay letra que
recit Amthoynos Fencheons, lo sando davant Chalendes m ccc xxij. Paya lx s.
v. contant Johanz Prot, lo mercros davant Rueyssons m ccc *et* xxiiij e ju me
tigno *per* payes de luy tro a cel jor.

204) イーブル (Ypres) はベルギーの西部に位置する一都市である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2561 頁)。

〈仏訳〉

Johamz Pros de Montaymgne doit 60 sous viennois pour 3 aunes de *pers* (sorte de tissu) sombre de *Envrours* (?) et pour une demi aune de *pers* de Sens, à rendre à l'octave de Pâques, de ce j'ai une lettre que Amthoynos Fencheons reçut, le samedi devant Noël 1322. Johanz Prot (Johamz Pros) a payé 60 sous viennois comptant, le mercredi devant Rogations 1324 et je me tiens pour payé de lui jusqu'à ce jour.

〈和訳〉

Johamz Pros de Montaymgne はヴィエンヌの 60 スーを返済すべし, *Envrours*²⁰⁵⁾ のくすんだ色の *pers* (布地の種類) 3 オースとサンスの *pers* 半オースに対し, 復活祭の 8 日間に返済する予定である, 私は一つの証書を持っている, それは Amthoynos Fencheons が受け取ったものである, 1322 年主の降誕の祭日前の土曜日に。Johanz Prot は現金でヴィエンヌの 60 スーを返済した, 1324 年祈願行列の前の水曜日に, 私は現金でその日までに彼の支払済みのものとする。

[76]

Johannez fiuz Guillermo de Sella Nova de Saycel deyt iiij lb. et x s. v. per iij a. et j tierz de quamelim de Brucella, a r. a quareymentrant, principal payhour sont Johanz de Bonayre y Umbert de Viniceu, codurerz de Saycel, letra que recit li clers Vimcent d'Amsa, lo mercros davant Chalendes m ccc xxij. Paya iiij lb. x s. v. contanz Peros de Chaleya et Johanz Blans, clerc procurour, lo sando sanz m ccc xxij et ju lur rendis la letra de cet dedo.

205) *Envrours* は地名であるが, その詳細は不明である (Durdilly [1965] p. 406)。

〈仏訳〉

Johannez (,) fils Guillermo de Sella Nova de Saycel (*probablement Seyssel (Ain)²⁰⁶⁾), doit 4 livres 10 sous viennois pour 3 aunes un tiers de camelin de Bruxelles, à rendre au début du carême, principaux payeurs sont Johanz de Bonayre et Umbert deVénissieux, couturier de Seyssel, lettre que le clerc Vimcent d'Anse reçut, le mercredi devant Noël 1322. Peros de *Chaleya* (*il existait près de Miribel une localité de ce nom, aujourd'hui disparue²⁰⁷⁾) et Johanz Blans, clerc procureur, ont payé 4 livres 10 sous viennois comptant, le samedi saint 1323 et je leur rendis la lettre de cette dette.

〈和訳〉

アン県の Seyssel の Guillermo de Sella Nova の息子である Johannez は 4 リーヴル 10 スーを返済すべし, ブリュッセルのバスケット織りの紡毛服地 3 オースと 3 分の 1 に対し, 四旬祭の初日に返済する予定である, 主たる返済者は Johanz de Bonayre と Seyssel の仕立屋である Vénissieux の Umbert であり, Anse の聖職者 (あるいは書記) である Vimcent が 1322 年主の降誕の祭日前の水曜日に受け取った証書 (がある)。Chaleya²⁰⁸⁾ の Peros と代理人である聖職者 (あるいは書記) Johanz Blans が現金でヴィエンヌの 4 リーヴル 10 スーを返済した, 聖なる 1323 年土曜日に, そして私は彼らにこの債務の証書を返した²⁰⁹⁾。

[77]

Johannez Guatez li drapierz deyt xij gros per iij quarz de quamelim de
--

206) Durdilly [1965] p. 407.

207) Durdilly [1965] p. 406.

208) Miribel 近くにあった *Chaleya* は, 今日存在しない小さな町ないし村の名前である (Durdilly [1965] p. 406)。

209) 記録番号 [76] の和訳については検討の余地がある。

Lovaymg qu'el prit lo jos davant Chalemde m ccc xxij.

Item deyt mays lx s. v. per iiij a. j quart menz de bruneta ney[ra] [de] Ponthoyze, xvj s. v. per sont guardacorz qu'el prit la dyomeyni davant la Maudeleyna m ccc xxij, soma iiij lb. v.

Item deyt mays Johannez Guatez lx s. v. pretas que li portiet li mota de ches euz, la veylli de la me ost m ccc xxij, soma vij lb. v. Paya lx s. v. contant J. Guatez, lo jor de la me ost.

〈仏訳〉

Johannez Guatez(,) le drapier doit 12 gros pour 3 quart de camelin de Louvain qu'il prit le jeudi devant Noël 1322.

Item (il) doit encore 60 sous viennois pour 4 aunes moins 1 quart de brunette noire de Pontoise, 16 sous viennois pour son garde-corps qu'il prit le dimanche devant la sainte Madeleine (le 22 juillet) 1323, la somme de 4 livres viennois.

Item Johannez Guatez doit 60 sous viennois prêtés que le jeune garçon de chez eux emporta la veille de la mi-août 1323, la somme de 7 livres viennois. Johannez Guatez a payé 60 sous viennois comptant, le jour de la mi-août.

〈和訳〉

毛織物業者の Johannez Guatez は 12 グロを返済すべし, Louvain のバスケット織りの紡毛服地の 4 分の 3 に対し, それは彼が受け取ったものである, 1322 年主の降誕の祭日前の木曜日に。

同様に (彼は) ヴィエンヌの 60 スーを返済すべし, 4 オーヌと 4 分の 1 未満のポントアーズ²¹⁰⁾の黒色のブルネットに対し, それとヴィエンヌの 16 スー (を返済すべし), 彼のギャルドコール用, それは彼が受け取ったものであ

210) ポントアーズ (Pontoise) は県庁所在地で, バリ北西郊オアーズ川右岸の町である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1893 頁)。

る、1323 年マグダラの聖マリアの日（7 月 22 日）の前の日曜日に。

同様に *Johannez Guatez* は貸し付けられたヴィエンヌの 60 スーを返済すべし、それは彼らの店の若者が持ち去ったものである、1323 年 8 月中旬の前日に、合計ヴィエンヌの 7 リーヴル。*Johannez Guatez* は現金でヴィエンヌの 60 スーを返済した、8 月中旬の日。

[78]

Johannez Berczons mos hottos deyt vj lb. xv s. v. bons per iiij a. dime [de] pers azur de Sanz xx s. v. l'a per lo corset a si mollier et per iiij a. de [qua] melim d'Uy per la cota de si mollier qu'el prit lo mercros davant Rampauz m ccc xxij. Paya xlv s. v. comtanz sel meymo jor, soma iiij lb. x s. v. Item iiij lb. x s. v. paya contanz Johanz Beczons, lo luns apres la sant Vincent m ccc et xxij.

〈仏訳〉

Johannez Berczons (,) mon aubergiste doit 6 livres 15 sous viennois bons pour 4 aunes et demi de *pers* (sorte de tissus) azuré de Sens 20 sous viennois l'aune pour la robe longue à manches larges et courtes de sa femme et pour 3 aunes de camelin d'Huy pour la cotte de sa femme qu'il prit le mercredi devant le dimanche des Rameaux 1322. (Il a) payé 45 sous viennois comptant ce même jour, la somme de 4 livres 10 sous viennois.

Item *Johanz Beczons* a payé 4 livres 10 sous viennois comptant, le lundi après la saint Vincent (le 22 janvier).

〈和訳〉

私の宿屋の主人である *Johannez Berczons* は良質なヴィエンヌの 6 リーヴル

15 スーを返済すべし、サンスの紺碧の *pers*（毛織物の種類）4 オーズ半に対し、1 オーズにつきヴィエンヌの 20 スー、彼の妻のための大きく短い袖のある長い服用、それとウイのバスケット織りの紡毛服地 3 オーズに対し、彼の妻のためのコット用、それ（ら）は彼が受け取ったものである、1322 年枝の主日の前の水曜日に。（彼は）現金でヴィエンヌの 45 スーを返済した、同じ日に、合計ヴィエンヌの 4 リーヴル 10 スー。

同様に Johanz Beczons は現金でヴィエンヌの 4 リーヴル 10 スーを返済した、聖ウィンケンティウスの祝日（1 月 22 日）の後の月曜日に。

【6 枚目、裏面、左欄】

[79]

Terczolez qui fut fiuz Jacer omzel de Chamdeu deyt vj lb. ... s. v. *per* v a. dime de quamelin vermayllet d'Aubenton, xiiij s. v. l'a. *per* la roba de sont fraro lo clerc *et per* iij a. e j tierz de degniza de Sant Denis, xvj s. v. l'a. *per* sa malacota qu'el prit lo jor de les Merevylls, de *que* ju ay letra vyeylli qui et de xliij lb. xvj s. v. a r. a la me ost m ccc xx y el deyt el paper pelus.

Item deyt xj s. v. *per* j tierz de *pers* encro de Chalons e *per* j tierz de quamelin d'Uy *per* les chaues a Lidon y a si mollier *que* prit Johannez de Mayzeu, lo marz davant la sant Lorent m ccc xx.

Item deyt Terczolez viij s. v. bons *per* dime a. de tagne encro de Ponthoyze *per* ses chaues *que* prit Johannez de Mayzeu, lo marz apres la *sant* Bertholomeu m ccc xx.

Item deyt Terczolez xxij s. v. bons *per* j a. de quamelin vermayllet de Malines *per* ses chaues *et per* celles qu'el donet Jocerant de la Ryguauderi, lo marz davant la Maudeleyna m ccc *et* xx.

Item deyt Terczolez xxij s. v. *per* lo romanent de ij a. e j bezeync de chaqua de Langny, xj s. v. l'a. *et per* lo romanent de ij a. de byffa de Provyns *per* sa clochi forra qu'el prit lo jor de les Merevylls m ccc xx, soma viij lb. xv s. v.

Item deyt mays xv lb. xv s. viij d. *per* lo romanent de sont dedo qui et avatus sus sont paro, say arerz en set paper el follet de iiij^{xx} v.

Item deyt xxx s. v. *per* la mession de la letra del dedo *et per* x payri de letres de cunjungimenz *et per* lo comandament de la cort secular.

Item deyt vj s. vj d. que ju li pretay *per* la solicion de J. Cerlon *et* de Terczolet, soma xxvij lb. vij s. ij d. qui sont remues say arerz en set paper sus Johanyn Cerlont, el follet de iiij^{xx} vj.

〈仏訳〉

Terczolez qui fut fils Jacer omzel de Chandieu (*voir Saint-Pierre-de-Chandieu, commune du canton d'Heyrieux (Isère). Voir aussi Chandieu ou Champdieu dans le canton de Montbrison (Loire)²¹¹⁾ doit 6 livres ... sous viennois pour 5 aunes et demi de camelin vermeil d'Aubenton, 14 sous viennois l'aune, pour la robe de son frère (*ce terme exprime la parenté²¹²⁾) le clerc et pour 3 aunes et 1 tiers de *degniza* (*nom d'étoffe²¹³⁾) de Saint Denis, 16 sous viennois l'aune, pour sa *malacota* (*sorte de jupe²¹⁴⁾) qu'il prit le jour des Merveilles (*fête à la fois religieuse et profane qui se déroulait à Lyon le 24 juin en l'honneur des martyrs lyonnais de 177²¹⁵⁾), de quoi j'ai (une) vieille lettre qui est de 43 livres 16 sous viennois à rendre à la mi-août 1320 et il doit dans le livre couvert de peau.²¹⁶⁾

211) Durdilly [1965] p. 406.

212) Durdilly [1965] p. 399.

213) Durdilly [1965] p. 398.

214) Durdilly [1965] p. 399.

215) Durdilly [1965] p. 402.

216) 最後の一行に関する仏訳は現在検討中である。

Item (il) doit 11 sous viennois pour 1 tiers de *pers* (sorte de tissus) sombre de Châlons-sur-Marne et pour 1 tiers de camelin d'Huy pour les chausses de Lidon (*nom de personne²¹⁷⁾) et de sa femme que Johannez de Mayzieu prit, le mardi devant la saint Laurent (le 10 août) 1320.

Item Terczolez doit 9 sous viennois bons pour une demi aune de *tagne* (sorte d'étoffe) sombre de Pontoise pour ses chausses que Johannez de Mayzieu prit, le mardi après la saint Barthélemy (le 24 août) 1320.

Item Terczolez doit 22 sous viennois bons pour 1 aune de camelin vermeil de Malines pour ses chausses et pour celles qu'il donna à Jocerant de la Rygnauderi, le mardi devant la sainte Madeleine (le 22 juillet) 1320.

Item Terczolez doit 23 sous viennois pour le reste de 2 aunes et 1 *bezeync* (*semble une division de l'aune²¹⁸⁾) de drap à carreaux de Lagny (*Seine-et-Marne²¹⁹⁾), 11 sous viennois l'aune et pour le reste de 2 aunes de *biffa* (sorte de drap) de Provins pour sa cloche fourrée qu'il prit le jour des Merveilles 1320, la somme de 9 livres 15 sous viennois.

Item (il) doit encore 15 livres 15 sous 8 deniers pour le reste de sa dette qui est portée sur son père, ci-dessus dans ce livre au feuillet 85.

Item (il) doit 30 sous viennois pour les frais de lettre de dette et pour 10 paires de lettres de *cunjugimenz* et pour le commandement de la cour laïque.

Item (il) doit 6 sous 6 deniers que je lui prêtais pour le paiement de Johanyn Cerlont et de Terczolet, la somme de 27 livres 7 sous 2 deniers qui sont reportés ci-dessus dans ce livre sur Johanyn Cerlont au feuillet 86.

217) Durdilly [1965] p. 404.

218) Durdilly [1965] p. 397.

219) Durdilly [1965] p. 406.

〈和訳〉

Chandieu²²⁰⁾ の Jacer……omzel……de の息子であった Terczolez はヴィエンヌの 6 リーヴル……スーを返済すべし, Aubenton の鮮紅色のバスケット織りの紡毛服地 5 オーズ半に対し, 1 オーズにつきヴィエンヌの 14 スー, 聖職者である彼の兄弟の服用, それとサン・ドニの *degniza* (布地の種類) 3 オーズと 3 分の 1 オーズに対し, 1 オーズにつきヴィエンヌ 16 スー, 彼の *malacota* (スカートの種類) 用, それ(ら)は彼が受け取ったものである, Merveilles の日²²¹⁾に, (そして) 私は古い証書を持つ, それについてヴィエンヌの 43 リーヴル 16 スーということである, 1320 年 8 月中旬に返済する予定である, 彼は皮革で覆われた帳簿の中で返済すべし。

同様に Johannez de Mayzeu はヴィエンヌの 11 スーを返済すべし, シャロン＝シュール＝マルヌのくすんだ *pers* (布地の種類) 3 分の 1 オーズと, ウイのバスケット織りの紡毛服地 3 分の 1 オーズに対し, Lidon (人名) と彼の妻のショース用, それ(ら)は Johannez de Mayzeu が受け取ったものである, 1320 年聖ラウレンティウスの祝日 (8 月 10 日) の前の火曜日に。

同様に Terczolez は良質なヴィエンヌの 9 スーを返済すべし, ポントアーズのくすんだ *tagne* (布地の種類) 半オーズに対し, ショース用, それ(ら)は Johannez de Mayzeu が受け取ったものである, 1320 年聖バルテルミーの祝日 (8 月 24 日) の後の火曜日に。

同様に Terczolez は良質なヴィエンヌの 22 スーを返済すべし, マリーヌの鮮紅色のバスケット織りの紡毛服地 1 オーズに対し, 彼のショース用, そして彼が Jocerant de la Ryggauderie に与えたそれ (ショース) 用, 1320 年マグダラの

220) Chandieu は, イーゼル県の Heyrieux という小郡の一区域である Saint-Pierre-de-Chandieu またはロアール県のモンブリゾン (Montbrison) という小郡内の Chandieu または Champdiu を指す (Durdilly [1965] p. 406)。なお, モンブリゾンはリヨン南西方に位置する (小学館ロバール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1584 頁)。

221) Merveilles の日は, リヨンの 177 人の殉教者に敬意を表してリヨンで 6 月 24 日に行われる, 宗教的世界, 世俗の世界双方での祭である (Durdilly [1965] p. 402)。

聖マリアの日（7月22日）の前の火曜日に。

同様に *Terczolez* はヴィエンヌの23スーを返済すべし、*Lagny*²²²⁾ の格子縞の毛織物で残りの2オースと1 *bezeync*²²³⁾ に対し、1オースにつきヴィエンヌの11スー、それとプロヴァンの *biffa*（毛織物の種類）で残りの2オースに対し、裏地のついたクロシュ²²⁴⁾ 用、それ（ら）は彼が受け取ったものである、1320年 *Merveilles* の日に、合計ヴィエンヌの9リーヴル15スー。

同様に（彼は）15リーヴル15スー8ドゥニエを返済すべし、彼の債務の残りに対し、それは彼の父親の口座で記録されている、上記に、この帳簿の85枚目に。

同様に（彼は）ヴィエンヌの30スーを返済すべし、債務の証書の費用と10通の *cunjungimenz* の証書に対し、そして一般の（宗教と関係しない）法廷の命令に対し²²⁵⁾。

同様に（彼は）6スー6ドゥニエを返済すべし、それは私が彼に貸し付けたものである、*Johanyn Cerlont* と *Terczolet* の支払に対し、合計27リーヴル7スー2ドゥニエ、それはこの帳簿の上記に報告される、*Johanyn Cerlont* の口座の86枚目に。

【6枚目、裏面、右欄：断片的記録C】

断片的記録Cは、6枚目、裏面、右欄の左側で確認できる記録である。

Amthoynos de Genas ...

lo

222) *Lagny* はパリ東方のセーヌ＝エ＝マルヌ県（Seine-et-Marne）に位置する（小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2213頁）。

223) *bezeync* はオースの下位区分と思われる（*Durdilly* [1965] p. 397）。

224) クロシュ（*cloche*）は、13世紀末から15世紀末の男女用の取り外しフード付き小外套である。ウエスト丈よりも短い（小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 480頁）。

225) この一文の和訳については現在検討中である。

Genas lo veyndr[os] ...

soma iij s. viiij d. ...

set dedo *et* per uns ...

paia vj s. v. contan ...

Thomas Blans qui ...

I quart de reya ...

apres festa s. Deny[s] ...

v. comtanz Peron ...

festa Nostra Dama ...

..... li nauc ...

los quauz el m'a r ...

los me devit *per* lo romanent ...

Brucella *et* lo dit ...

Jorjo m ccc xxij pa ...

clers de Montluel ...

ccc xxij

〈仏訳〉

Amthoynos de Genas (*commune de
l'Isère, limitrophe de Bron²²⁶⁾) ...

le....

Genas le vendredi...

〈和訳〉

Genas²²⁷⁾ の Amthoynos.....

le.....

Genas 金曜日.....

226) Durdilly [1965] p. 406.

227) Genas はリヨン東郊の町ブロン近隣の、イーゼル県の一区域である (Durdilly [1965] p. 406)。

la somme de 3 sous 9 deniers...	合計3スー9ドゥニエ……
cette dette et pour uns...	その債務と uns……に対し……
payé 6 sous viennois comptant...	現金でヴィエンヌの6スーを返済した……
Thomas Blans qui...	Thomas Blans その人は……
I quart drap rayé...	4分の1? 縞のある毛織物……
après la fête de saint Denis (le 9 octobre) ...	サン・ドニの祝日(10月9日)の後で……
viennois comptant Peron...	ヴィエンヌ現金で Peron……
La fête de Notre-Dame...	聖母の祝日……
..... Le (ou la) nauc...	……le (あるいは la) nauc……
lesquels il m'a r...	それは彼が私に……
me les devait pour le reste...	私に返済すべきであった残り……に 対し……
Bruxelles et le dit...	ブリュッセルと le dit……
(Saint) Georges (le 23 avril) 1322 pa...	1322年聖ゲオルギオスの祝日(4月23日) pa……
clerc de Montluel...	Montluel の聖職者……
1322	1322

【7枚目, 表面, 左欄】

[80]

Peronez Jolys de deyt vj ... v. les quauz el a repomdu de payer per dama
Byatrysa de Marzeu qui fut molliers Uguonym de Gleteyms, les quauz ylli
devit per Pomcet de Rochitayllia mari de sa filli, a r. lo jos apres l'oytava de la

sant Julym m ccc xxij *et* czo repomdit lo jos apres la sant Bertholomeu m ccc xxij, principauz payeris et Aymgnes qui fut molliers Estevent de Chalamont.

Paya l s. v. comtanx Peronez Jolis lo veyndros apres fesra Nostra Dama (*Ms. : apres fesra Nostra Dama apres fesra Nostra Dama²²⁸⁾) de setembre m ccc xxij, soma lxx s. v.

Item xxx s. v. paya contant Peronez Jolis, lo veyndros apres la sant Michiel m ccc xxij.

Item xl s. v. bons paya contant Peronez Jolis, lo veyndros davant Chalendes m ccc xxij.

〈仏訳〉

Peronez Jolys de doit vj ... viennois lesquels il a répondu de payer pour dame Byatrysa de Marzé qui fut femme Uguonym de Gleteyms (*hameau de la commune de Jassans (Ain)²²⁹⁾), lesquels elle devait pour Pomcet de *Rochitayllia* (*probablement Rochetaillée, commune du Rhône près de Lyon²³⁰⁾) mari de sa fille, à rendre le jeudi après l'octave de la saint Julien 1323 et ce répondit le jeudi après la saint Barthélemy (le 24 août) 1323, principale payeuse est Aymgnes qui fut femme Estevent de Chalamont (*chef-lieu de canton de l'Ain²³¹⁾).

Peronez Jolis a payé 50 sous viennois comptant, le vendredi après la fête (de) Notre-Dame de septembre (le 8 septembre) 1323, la somme de 70 sous viennois.

Item Peronez Jolis a payé 30 sous viennois comptant, le vendredi après la saint Michel (le 29 septembre) 1323.

Item Peronez Jolis a payé 40 sous viennois bons comptant, le vendredi devant Noël 1323.

228) Durdilly [1965] p. 394.

229) Durdilly [1965] p. 406.

230) Durdilly [1965] p. 406.

231) Durdilly [1965] p. 405.

〈和訳〉

Peronez Jolys de……はヴィエンヌの *vj*……を返済すべし (,) それは彼が Gleteyms²³²⁾ の Uguonym の妻であった Marzé の Byatrysa 夫人に対し支払うことを保証したものである、それは (また,) 彼女の娘の夫 *Rochitayllia*²³³⁾ の Pomce に対して彼女 (Marzé の Byatrysa 夫人) が返済すべきであったものである、1323 年 saint Julien の 8 日間が経過した後の木曜日に返済する予定である、そしてそれは 1323 年聖バルテルミー (8 月 24 日) の後の木曜日に保証された、主要な返済者は Chalamont²³⁴⁾ の Estevent の妻であった Aymgnes である。

Peronez Jolis は現金でヴィエンヌの 50 スーを返済した、1323 年マリアの誕生の祝日 (9 月 8 日) の後の金曜日に、合計ヴィエンヌの 70 スー。

同様に Peronez Jolis は現金でヴィエンヌの 30 スーを返済した、大天使聖ミカエルの祝日 (9 月 29 日) の後の金曜日に。

同様に Peronez Jolis は現金で良質なヴィエンヌの 40 スーを返済した、1323 年主の降誕の祭日前の金曜日に。

[81]

Peronez cellarerz de Marcyllieu las Chazey et Johannez Guatez deyvont iiij lb.
R.

〈仏訳〉

Peronez (de) cellérier de Marcilly d'Azergues (*village du département du Rhône situé près de Chazay d'Azergues²³⁵⁾) et Johannez Guatez doivent 4 livres. Reçu.

232) Gleteyms はアン県にある Jassans の一区域内の小集落である (Durdilly [1965] p. 406)。

233) *Rochitayllia* は、おそらく *Rochetaillée* という、リヨン近くのローヌ県の一区域である (Durdilly [1965] p. 405)。

234) Chalamont は、アン県にある小郡の中心地である (Durdilly [1965] p. 405)。

235) Durdilly [1965] p. 406.

〈和訳〉

Marcilly d'Azergues²³⁶⁾ の食料保管係の Peronez と Johannez Guatez は 4 リーヴルを返済すべし。受取²³⁷⁾。

[82]

Peronyms li clerz de Sant Bel deyt iiij lb. xvj s. v. bons per vj a. de biffa maubrea vert de Provyns xvj s. v. l'a. per la roba a Guillermet Fuchier, a r. a la quimzeyna de Paques, de czo ay letra que recit Johanz de Macon, lo jos apres la sant Martim m ccc et xxij. Paya iiij lb. xvj s. v. comtant Peronyms li clerz, lo veyndros davant Pentecostes m ccc xxiiij.

〈仏訳〉

Peronyms (,) le cleric de Sain Bel doit 4 livres 16 sous viennois bons pour 6 aunes de *biffa* (sorte de drap) marbrée vert de Provins 16 sous viennois l'aune pour la robe de Guillermet Fuchier, à rendre dans la quinzaine de Paques, de ce j'ai une lettre que Johanz de Mâcon reçut, le jeudi après la saint Martin (le 11 novembre) 1323. Peronyms (,) le cleric a payé 4 livres 16 sous viennois comptant, le vendredi devant la Pentecôte 1324.

〈和訳〉

Sain Bel の聖職者（あるいは書記）の Peronyms は良質なヴィエンヌの 4 リーヴル 16 スーを返済すべし、プロヴァンの緑色の大理石模様の *biffa*（毛織物の種類）6 オースに対し、1 オースにつきヴィエンヌの 16 スー、Guillermet

236) Marcilly d'Azergues は、Chazay d'Azergues の近くに面したローヌ県の村である（Durdilly [1965] p. 406）。

237) 借用証書を意味する可能性もあり、今後さらなる検討が必要である。

Fuchier の服用, 御復活の 15 日²³⁸⁾ に返済する予定である, それについて私は証書を持っている, それは Mâcon の Johanz が受け取ったものである, 1323 年聖マルティヌスの祝日 (11 月 11 日) の後の木曜日に。聖職者 (あるいは書記) の Peronyms は, 現金でヴィエンヌの 4 リーヴル 16 スーを返済した, 1324 年聖霊降臨の主日の前の金曜日に。

【7 枚目, 裏面, 右欄】

[83]

Peronez de Ruaffola qui et fratre maytre Johan de [Mont]luel *et* Yzabex sa molliers de Montluel deyvont xv lb. v. *per* vj a. de quamelim vermayl gouta de neyr de Bru, l s. v. l'a. *per* la roba de sa filli *et per* vj a. de quamelim vert [de] [Pr]ovyms xvj s. viij d. v. l'a., *per* la cegunda roba de sa filli *et per* de quamelim vermayl de Malines xxv s. v. l'a. *per* iiij payri de [chau]ces *et per* v a. *et* dime de dore de Sanz x s. v. l'a. *per* fayre cu *qu'illi prit et* Bertez Boyssons *et* Bertholomeus de Moram, lo marz apres la sant Martim m ccc xxij, Bozonez la [q]uareymentrant lo vyeyl, de czo ay letra *qui et el* non de ellan si mollier *que* recit Johanz de Macon lo sel meymo jor.

Item deyvont mays xx s. v. *per* ij a. deu dore de Sanz *que* prit [Pheli]ppos de Sanz Pero lo veyndros apres festa Nostra Dama d'Avenz m ccc xxij, paya xx s. v. contanz Phelippos, lo mercros [apre]s Chalendes, paya xxv lb. v s. v. la veylli de la Chandeluza [m ccc] xxij.

<仏訳>

Peronez de Ruaffola qui est frère de maître Johan de Montluel (*Montluel répété au

238) 御復活の 15 日とは, 枝の主日から白衣の主日までの 2 週間である (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 2006 頁)。

début de la ligne suivante²³⁹⁾ et Ysabez sa femme de Montluel doivent 15 livres viennois pour 6 aunes de camelin vermeil tacheté (*les draps goutés seraient des étoffes à pois²⁴⁰⁾) de noir de Bru....., 50 sous viennois l'aune pour la robe de sa fille et pour 6 aunes de camelin vert de Provins 16 sous 8 deniers viennois l'aune, pour la seconde robe de sa fille et pour de camelin vermeil de Malines 25 sous viennois l'aune pour 4 paires de chausses et pour 5 aunes et demi de *dore* (*tissu orné d'or²⁴¹⁾) de Sens 10 sous viennois l'aune pour faire cu qu'elle prit et Bertez Boyssons et Bertholomeus de Moram, le mardi après la saint Martin (le 11 novembre) 1323, Bozonez la dimanche de la Quinquagésime, de ce j'ai une lettre qui est au nom de ellan sa femme que Johanz de Mâcon reçut ce même jour.

Item (ils) doivent encore 20 sous viennois pour 2 aunes de *dore* de Sens que Phelippos de Saint Pierre prit le vendredi après la fête de Notre-Dame d'Avent (le 8 décembre) 1323, Phelip(p)os a payé 20 sous viennois comptant, le mercredi après Noël, (il a) payé 25 livres 5 sous viennois la veille de la Chandeleur 1323.

〈和訳〉

Montluel²⁴²⁾ の Johanz の兄弟である Peronez de Ruaffola と彼の妻である Montluel の Ysabez はヴィエンヌの 15 リーヴルを返済すべし, Bru……の黒色の斑点のある鮮紅色のバスケット織りの紡毛服地 6 オースに対し, 1 オースにつきヴィエンヌの 50 スー, 彼(女)の娘の服用, それとプロヴァンの緑色のバスケット織りの紡毛服地 6 オースに対し, 1 オースにつきヴィエンヌの 16 スー 8 ドゥニエ, 彼(女)の娘のもう一つの服用, それとマリーヌの鮮紅色の

239) Durdilly [1965] p. 394.

240) Durdilly [1965] p. 399.

241) Durdilly [1965] p. 398.

242) 「Montluel」は紙片の右端 1 行目で確認できるが, 2 行目の左端でも記載されている (Durdilly [1965] p. 394)。

バスケット織りの紡毛服地の……に対し、1 オーズにつき 25 スー、4 対の
 ショース用、それとサンスの *dore*²⁴³⁾ 5 オーズ半に対し、1 オーズにつきヴィ
 エンヌの 10 スー、……用、それらは彼女が受け取ったものである、Bertez
 Boyssons と Bertholomeus de Moram と、1323 年 saint Martin (11 月 11 日) の後
 の火曜日に、Bozonez……五旬節の主日に、それについて私は……ellan の妻の
 名義で証書を持っている、それは同じ日に Mâcon の Johanz が受取ったもので
 ある。

同様に彼らはヴィエンヌの 20 スーを返済すべし、サンスの *dore* 2 オーズに
 対し、それは Saint Pierre の Phelippos が受け取ったものである、1323 年無原罪
 の聖母マリアの祭日 (12 月 8 日) の後の金曜日に、Phelippos は現金でヴィエン
 ニュの 20 スーを返済した、主の降誕の祭日の後の水曜日に、(彼は) ヴィエン
 ニュの 25 リーヴル 5 スーを返済した、1323 年主の奉獻の祝日 (2 月 2 日) の前
 日に。

[84]

[Pero]nez del viver d'Ullyums deyt xvij s. v. per j a. de pers de Sanz qu'el
 prit [lo] [j]os apres la Thossanz m ccc xxij, paya xvij s. v. contamz Peronez
 [del] viver, lo luns apres la sant Amdreu m ccc xxiiij.

<仏訳>

Peronez du vivier d'Oullins (*commune du Rhône de la banlieue de Lyon²⁴⁴⁾) doit
 18 sous viennois pour 1 aune de *pers* (sorte de tissus) de Sens qu'il prit le jeudi après
 la Toussaint 1323, Peronez du vivier a payé 18 sous viennois comptant, le lundi
 après la saint André (le 30 novembre) 1324.

243) *dore* は、金の装飾が施された布地である (Durdilly [1965] p. 398)。

244) Durdilly [1965] p. 407.

〈和訳〉

ウラン²⁴⁵⁾の生け簀の Peronez はヴィエンヌの 18 スーを返済すべし、サンスの *pers* (布地の種類) 1 オースに対し、それは彼が受け取ったものである、1323 年諸聖人の祝日 (11 月 1 日) の後の木曜日に、生け簀の Peronez は現金でヴィエンヌの 18 スーを返済した、1324 年使徒聖アンデレの日 (11 月 30 日) の後の月曜日に。

[85]

[Per]os Archymbauz de la parochy de Sant Bel deyt xiiij [s.] v. per j a. de byffa de Provyns qu'el prit lo jos sanz m ccc [xx] ij, a r. a Pentecostes, paya xiiij s. v. comtanz Peros [Arc]himbauz, lo mercros davant la Chandeluza m ccc et [xx]ij.

〈仏訳〉

Peronez Archymbauz de la paroisse de Saint Bel doit 14 sous viennois pour 1 aune de *byffa* (sorte de drap) de Provins qu'il prit le jeudi saint 1322, à rendre à la Pentecôte, Peros Archimbauz a payé 14 sous viennois comptant, le mercredi devant la Chandeleur 1322.

〈和訳〉

Sain Bel の小教区²⁴⁶⁾の Peronez Archymabauz はヴィエンヌの 14 スーを返済すべし、プロヴァンの *byffa* (毛織物の種類) 1 オースに対し、それは彼が受け取ったものである、1322 年の木曜日に、聖霊降臨の主日に返済する予定であ

245) ウラン (Oullins) は、リヨンの南西郊、ローヌ川沿いの一区域である (Durdilly [1965] p. 407; 小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1720 頁)。

246) paroisse は、この他、「聖堂区」や「司教区」等の訳語がある (小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988] 1756 頁)。

る、Peros Archimbauz は現金でヴィエンヌの 14 スーを返済した、1322 年主の奉献（2 月 2 日）の前の水曜日に。

本研究は、文部科学省平成 21 年度科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ）「14 世紀リヨンの毛織物業者の会計研究－フランス最古の会計帳簿の分析－」〔課題番号 21830159〕）の研究成果の一部である。

一 次 史 料

Nouveaux Fragments du Livre de Comptes d'un Marchand Lyonnais [1320-1324]²⁴⁷⁾, Bibliothèque Municipale de Vienne, M-226.

参 考 文 献

- Blanc, A. [1899] *Le Livre de Comptes de Jacme Olivier Marchand Narbonnais du XIV^e Siècle*, Tome Second 1^{re} Partie, Paris.
- Bompaire, M. et Dumas, F. [2000] *Numismatique Médiévale* (*L'Atelier du Médiéviste* 7), Turnhout.
- Bonnet, M. [1973] “Les Changeurs Lyonnais au Moyen Age (1350-1450),” *Revue Historique*, 97^e année, Tome CCXLIX, pp. 325-352.
- Cappelli, A. [1998] *Cronologia, Cronografia e Calendario Perpetuo*, Settima edizione, Milano.
- Contamine, P., Bompaire, M., Lebecq, S. et Sarrazin, J. [2003] *L'Économie Médiévale*, 3^e édition, Paris.
- Dauphin-Meunier, A. [1950] *Histoire de la Banque*, Paris（荒田俊雄・近沢敏里訳 [1952]『銀行の歴史』（文庫クセジュ）白水社）.
- Delisle, L. [1889] *Mémoire sur les Opérations Financières des Templiers*, Paris.
- Déniau, J. [1951] *Histoire de Lyon et du Lyonnais*, Paris.
- De Roover, R. [1937] “Aux Origines d'une Technique Intellectuelle : La Formation et l'Expansion de la Comptabilité à Partie Double,” *Annales d'Histoire Économique et Sociale*, Tome 9, pp. 171-193.
- Durdilly, P. [1965] “Nouveaux Fragments du Livre de Comptes d'un Marchand Lyonnais,” *Revue de Linguistique Romane*, Tome XXVIII, pp. 375-407 (Lemarchand, Y. and Parker, R. H. (eds.) [1996] *Accounting in France : Historical Essays/ La Comptabilité en France : Études*

247) ここでの史料名および西暦の表記は、Durdilly [1965] に従っている。

- Historiques*, New York and London).
- [1975] *Documents Linguistiques de la France : Documents Linguistiques du Lyonnais (1225-1425)*, Paris.
- Fournial, E. [1959] “Monnaie de Lyon et Monnaie de Vienne : La Circulation Monétaire en Lyonnais et en Forez au XIII^e Siècle,” *Cahiers d'Histoire*, Tome IV, pp. 103-130.
- Gaffiot, F. [2000] *La Grand Gaffiot : Dictionnaire Latin-Français*, Nouvelle édition, Paris.
- Garden, M. [1973] “La Société Lyonnaise d'Études Anciennes (1972),” *Cahiers d'Histoire*, Tome XVIII, pp. 397-412.
- Garnier, B., Hocquet, J. Cl. et Woronoff, D. (dirs.) [1989] *Introduction à la Métrologie Historique*, Paris.
- Godefroy, F. [1961] *Dictionnaire de l'Ancienne Langue Française et de Tous ses Dialectes du IX^e au XV^e Siècle, Composé d'Après le Dépouillement de Tous les Plus Importants Documents, Manuscrits ou Imprimés, Qui se Trouvent dans les Grandes Bibliothèques de la France et de l'Europe et dans les Principales Archives Départementales Municipales, Hospitalières ou Privées*, New York.
- Greimas, A. J. [2004] *Dictionnaire de l'Ancien Français*, Paris.
- et Keane, T. M. [2001] *Dictionnaire du Moyen Français*, Paris.
- Julian, R. [1958] “Lyon et l'Italie au Moyen-Age,” *Revue des Études Italiennes*, Tome V, pp. 133-146.
- Kulischer, J. [1928] *Allgemeine Wirtschaftsgeschichte des Mittelalters und der Neuzeit*, Bd.I, Das Mittelalter, München (伊藤栄・諸田實訳 [1974] 『ヨーロッパ中世経済史』東洋経済新報社).
- Langlois, Ch. -V. et Seignobos, Ch. [1905] *Introduction aux Études Historiques*, 3^e édition, Paris (八本木浄訳 [1989] 『歴史学研究入門』校倉書房).
- Latreille, A. (dir.) [1975] *Histoire de Lyon et du Lyonnais*, Toulouse.
- Meyer, P. et Guigue, G. [1906] “Fragments du Grand Livre d'un Drapier de Lyon (1320-1323),” *Romania : Recueil Trimestriel Consacré à l'Étude des Langues et des Littératures Romanes*, Tome XXXV, pp. 428-444.
- Pelletier, A., Rossiaud, J., Bayard, F. et Cayez, P. [1990] *Histoire de Lyon : des Origines à Nos Jours*, Tome I, Le Coteau.
- Pernoud, R. [1995] *Les Templiers : Chevaliers du Christ*, Paris (南条郁子訳 [2002] 『テンプレート騎士団の謎』創元社).
- Philipon, E. [1884] “Phonétique Lyonnaise au XIV^e Siècle,” *Romania : Recueil Trimestriel Consacré à l'Étude des Langues et des Littératures Romanes*, 13^e année, pp. 542-590.
- Piquet, J. [1939] “Les Templiers : Étude de leurs Opérations Financières,” *Thèse pour le Doctorat (Université de Paris, Faculté de Droit)*, Paris.
- Runciman, S. [1980] *The First Crusade*, New York (和田廣訳 [1989] 『十字軍の歴史』河出

書房新社).

泉谷勝美 [1979]「イタリア会計史」小島男佐夫編『会計史および会計学史』(体系近代会計学 VI) 第3章, 39-88頁, 中央経済社。

—— [1980]『複式簿記生成史論』森山書店。

—— [1997]『スンマへの径』森山書店。

大淵彰三 [1939]『フランス社會經濟史』南郊社。

岡田泰男編著 [1995]『西洋經濟史』八千代出版。

尾河直哉訳 [2003]『「アナール」とは何かー進化しつづける「アナール」の一〇〇年ー』藤原書店。

片岡泰彦 [2000]「複式簿記成立上の前提要素と起源論についての考察」*Research Papers*, No. J-32, 大東文化大学経営研究所, 1-25頁。

岸悦三 [1972]「ルーヴァー複式簿記生成史」広島商大論集(商経編), 第13巻第1号, 135-175頁。

—— [1975]『会計生成史ーフランス商事王令会計規定研究ー』同文館出版。

京都大学西洋史編纂会編 [1993]『新編 西洋史辞典(改定増補版)』東京創元社。

小島男佐夫 [1987]『会計史入門』森山書店。

三光寺由実子 [2006a]「13世紀テンプル騎士団の金融業務と会計に関する研究」神戸大学修士論文。

—— [2006b]「13世紀末テンプル騎士団の会計記録に関する史的研究」六甲台論集(経営学編), 第53巻第1号, 87-106頁。

—— [2007a]「14世紀フランス会計史研究ーJacme Olivierの会計帳簿の分析を中心としてー」神戸大学第2論文。

—— [2007b]「14世紀フランス会計史研究ーJacme Olivierの会計帳簿の分析を中心としてー」六甲台論集(経営学編), 第54巻第2号, 1-26頁。

—— [2008]「14世紀リヨンの毛織物業者の会計帳簿(1320-1324)(Fragments du Grand Livre d'un Drapier de Lyon)の分析」博士課程モノグラフシリーズ(神戸大学大学院経営学研究科), No. 0829。

—— [2009a]「13-14世紀フランス会計史研究ー複式簿記導入前夜の会計帳簿の分析ー」神戸大学博士論文。

—— [2009b]「リヨンの毛織物業者における会計帳簿(1320-1324)(Fragments du Grand Livre d'un Drapier de Lyon)の分析ー14世紀フランス会計史研究の一齣ー」会計史学会年報, 第27号, 59-77頁。

篠田雄次郎 [1976]『聖堂騎士団』(中公新書)中央公論社。

柴田三千雄 [2006]『フランス史10講』(岩波新書)岩波書店。

——・樺山紘一・福井憲彦 [1995]『フランス史1ー先史~15世紀』山川出版社。

小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 [1988]『小学館ロベール仏和大辞典』小学館。

- 上智学院新カトリック大事典編纂委員会 [1998]『新カトリック大事典（全4巻）』研究社。
- 上智大學，獨逸ヘルデル書肆共編 [1940]『カトリック大辭典』富山房。
- 中野常男 [1992]『会計理論生成史』中央経済社。
- 日本基督教協議会文書事業部・キリスト教大事典編集委員会 [1995]『キリスト教大事典（改訂新版）』教文館。
- 橋口倫介 [1964]「テンブル騎士会の活動とその社会的基盤について」歴史教育，第12巻第7号，38-43頁。
- [1971]『騎士団』（世界史研究双書）近藤出版社。
- [1980]『十字軍』（教育社歴史新書）教育社。
- [1994]『十字軍騎士団』（講談社学術文庫）講談社。
- 馬場哲・小野塚知二編 [2001]『西洋経済史学』東京大学出版会。
- 秀村欣二編 [1958]『西洋史概説』東京大学出版会。
- 福井憲彦 [2001]『フランス史』山川出版社。
- 宮本又次 [1942]『フランス經濟史概説』有斐閣。
- 八木谷涼子 [2003]『キリスト教歳時記—知っておきたい教会の文化—』（平凡社新書）平凡社。
- 山瀬善一 [1961]「中世の国際金融とテンブル騎士団」神戸大学経済学研究年報，第8号，89-142頁。